

項目別業務実績評価

<評価凡例>  
 S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている。 A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている。  
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

<県評価区分>  
 ☆ 「○」のうち、特に着目する状況であるもの。 ○ 良好な状況であるもの。  
 △ より一層の取組を期待するもの。 ▼ 取組の改善を強く求めるもの。

令和3年度  
 第1回評価委員会 資料1-4 議題1

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																										
						説明																																															
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																			
1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																																			
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(1) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足の向上	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																										
			1	①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	セカンドオピニオン数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>総合</td><td>112</td><td>114</td><td>115</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>こども</td><td>63</td><td>39</td><td>58</td><td>58</td><td>48</td><td>74</td></tr> </table> セカンドオピニオン用情報提供料算定件数 (総合) (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>診療情報提供料(Ⅱ)</td><td>125</td><td>121</td><td>145</td><td>150</td><td>116</td><td>116</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	112	114	115	90	112	114	こころ	-	-	-	-	-	-	こども	63	39	58	58	48	74	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	診療情報提供料(Ⅱ)	125	121	145	150	116	116	各病院	A	患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。  ・セカンドオピニオン件数(他医療機関から紹介された件数)、情報提供料算定件数(他医療機関へ紹介した件数)ともに例年並みに推移しており、患者からの求めに適切に対応するとともに、他医療機関との信頼関係も構築できている。 ・こども病院においては、オンラインセカンドオピニオンを取り入れた影響により、令和元年度と比べて件数が特に増加している。 ・今後も引き続き、患者への十分な説明と同意のもと、信頼関係に基づく安全・最適な医療を提供することが求められる。			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
総合	112	114	115	90	112	114																																															
こころ	-	-	-	-	-	-																																															
こども	63	39	58	58	48	74																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
診療情報提供料(Ⅱ)	125	121	145	150	116	116																																															
			2	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>新規作成(件)</td><td>18</td><td>16</td><td>15</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td></tr> <tr><td>修正(件)</td><td>51</td><td>224</td><td>130</td><td>253</td><td>103</td><td>225</td></tr> <tr><td>適用率(%)</td><td>75.8</td><td>66.3</td><td>62.6</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	新規作成(件)	18	16	15	34	9	23	修正(件)	51	224	130	253	103	225	適用率(%)	75.8	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	総合	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行い、クリニカルパスの新規作成や修正を適切に実施した。  ・クリニカルパス管理委員会を毎月開催し、新規作成だけでなく既存パスを随時見直す体制がとられている。 ・クリニカルパスの新規作成・修正は、診療報酬の改定年度において、改定内容への対応として増加する傾向があるため、令和元年度に比べて新規作成件数は増加しており、適用率も高い水準を維持している。																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
新規作成(件)	18	16	15	34	9	23																																															
修正(件)	51	224	130	253	103	225																																															
適用率(%)	75.8	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3																																															
			3	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	令和2年度末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	こころ	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、導入済みである。新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。  ・稼働クリニカルパス数は令和元年度と同水準である。 ・精神科医療では個々の病状に合わせた診療となるケースが多く、パスを適用できるケースは限られるが、m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピンに導入されており、患者の負担軽減と計画的な医療の提供に努めている。																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																															
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>46</td><td>48</td><td>48</td><td>51</td><td>51</td><td>52</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	稼働クリニカルパス	46	48	48	51	51	52	こども	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。  ・稼働クリニカルパス数は令和元年度と同水準である。 ・成人の場合と異なり、小児の場合は、薬剤の量など患者の体重別に細分化するなどきめ細かな対応が必要であり、患者に配慮した計画的な医療が提供されている。																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
稼働クリニカルパス	46	48	48	51	51	52																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																																		
						説明	県評価																																																																																																																																																																																																																					
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<p>チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 2年度末時点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>毎日</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師、看護師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士・栄養</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>リハビリテーション</td> <td>適宜（週1回程度）</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> </tr> </tbody> </table> <p>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,345</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,246</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>72,767</td> <td>74,929</td> <td>75,792</td> <td>93,168</td> <td>92,879</td> <td>86,309</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>15,985</td> <td>19,122</td> <td>17,563</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>2,520</td> <td>6,320</td> <td>3,905</td> <td>4,815</td> <td>2,085</td> <td>755</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>—</td> <td>144</td> <td>59</td> <td>1</td> <td>92</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>—</td> <td>568</td> <td>6,248</td> <td>4,462</td> <td>4,456</td> <td>4,445</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,743</td> <td>2,316</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,163</td> <td>20,389</td> <td>17,965</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>49</td> <td>462</td> <td>263</td> <td>508</td> <td>998</td> <td>431</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>200</td> <td>212</td> <td>388</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76,456</td> <td>83,713</td> <td>87,614</td> <td>123,456</td> <td>142,880</td> <td>131,561</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>17,484</td> <td>19,870</td> <td>18,880</td> <td>27,610</td> <td>27,460</td> <td>25,090</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,725</td> <td>2,200</td> <td>2,535</td> <td>2,550</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>136</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>55,640</td> <td>58,883</td> <td>56,527</td> <td>52,394</td> <td>58,836</td> <td>59,137</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>73,124</td> <td>78,753</td> <td>78,132</td> <td>82,206</td> <td>88,975</td> <td>87,407</td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士・栄養	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護						リハビリテーション	適宜（週1回程度）	医師・看護・理学療法等	病院	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	栄養サポートチーム	1,120	1,290	1,345	1,154	904	1,246	感染制御チーム	72,767	74,929	75,792	93,168	92,879	86,309	抗菌薬適正使用支援チーム	—	—	—	15,985	19,122	17,563	褥瘡対策チーム	2,520	6,320	3,905	4,815	2,085	755	呼吸ケアチーム	—	144	59	1	92	143	認知症ケアチーム	—	568	6,248	4,462	4,456	4,445	精神科リエゾンチーム	—	—	—	—	1,743	2,316	緩和ケアチーム	—	—	—	3,163	20,389	17,965	糖尿病透析予防診療チーム	49	462	263	508	998	431	排尿ケアチーム	—	—	2	200	212	388	計	76,456	83,713	87,614	123,456	142,880	131,561	こころ	感染防止対策チーム	303	434	380	352	368	290	計	303	434	380	352	368	290	こども	栄養サポートチーム	—	—	—	2	8	40	感染防止対策チーム	17,484	19,870	18,880	27,610	27,460	25,090	褥瘡対策チーム	—	—	2,725	2,200	2,535	2,550	緩和ケアチーム	—	—	—	—	136	590	リハビリテーション	55,640	58,883	56,527	52,394	58,836	59,137	計	73,124	78,753	78,132	82,206	88,975	87,407	<p>令和2年度は、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを担当した。また、総合病院では新型コロナウイルス感染症専門病棟の設置に伴い、各部署から医師、看護師などが派遣されるなど、多職種が対応に当たった。最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施した。特に総合病院では、精神科医師の着任により、令和元年7月に精神科リエゾンチームの施設基準を取得した。多職種によるチーム医療を推進するとともに、診療報酬上の評価加算も高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム医療においては、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することにより、医療・生活の向上、医療従事者の負担軽減、医療安全の向上を目指している。</li> <li>各病院とも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。</li> <li>令和2年度は、総合病院において、新型コロナウイルス患者受入れのため、感染症対策室を中心とした「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整、院内における患者受入体制についての検討等を行っている。</li> <li>各病院とも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。</li> <li>令和2年度は、総合病院において、新型コロナウイルス患者受入れのため、感染症対策室を中心とした「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整、院内における患者受入体制についての検討等を行っている。</li> <li>県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、医療提供体制の確保に貢献している。</li> <li>診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、令和元年7月に施設基準を取得した総合病院の精神科リエゾンチームの算定件数は令和2年度も引き続き高い水準を維持している。</li> <li>褥瘡対策チームは算定件数が減少傾向であるが、褥瘡ハイリスク患者に対して、手厚くケアを行う方針としたことによる。なお、算定件数は減少したが、褥瘡発生率は低い水準を維持している。</li> <li>総合病院では、こころの医療センターの医師を含めた認知症ケアチームが院内カンファレンスを実施するなど、病院間の連携も図られており、認知症に発展する可能性のある患者も含めて早期介入することにより、認知症悪化予防とともに身体疾患の治療を円滑に受けられるよう取り組んでいる。</li> <li>多職種によるチーム医療の推進により、質の高い医療の提供に努めている。</li> </ul>	14		☆
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																									
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																									
	感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																									
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																									
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																									
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士																																																																																																																																																																																																																									
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																																																																																																																																																																																									
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																																																																																																																																																																																																																									
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																																																																																																																																																																																									
	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																									
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																									
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																																									
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																																									
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																																									
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																																									
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																																									
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士・栄養																																																																																																																																																																																																																									
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																																									
					リハビリテーション	適宜（週1回程度）	医師・看護・理学療法等																																																																																																																																																																																																																					
病院	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																																																					
総合	栄養サポートチーム	1,120	1,290	1,345	1,154	904	1,246																																																																																																																																																																																																																					
	感染制御チーム	72,767	74,929	75,792	93,168	92,879	86,309																																																																																																																																																																																																																					
	抗菌薬適正使用支援チーム	—	—	—	15,985	19,122	17,563																																																																																																																																																																																																																					
	褥瘡対策チーム	2,520	6,320	3,905	4,815	2,085	755																																																																																																																																																																																																																					
	呼吸ケアチーム	—	144	59	1	92	143																																																																																																																																																																																																																					
	認知症ケアチーム	—	568	6,248	4,462	4,456	4,445																																																																																																																																																																																																																					
	精神科リエゾンチーム	—	—	—	—	1,743	2,316																																																																																																																																																																																																																					
	緩和ケアチーム	—	—	—	3,163	20,389	17,965																																																																																																																																																																																																																					
	糖尿病透析予防診療チーム	49	462	263	508	998	431																																																																																																																																																																																																																					
	排尿ケアチーム	—	—	2	200	212	388																																																																																																																																																																																																																					
計	76,456	83,713	87,614	123,456	142,880	131,561																																																																																																																																																																																																																						
こころ	感染防止対策チーム	303	434	380	352	368	290																																																																																																																																																																																																																					
	計	303	434	380	352	368	290																																																																																																																																																																																																																					
こども	栄養サポートチーム	—	—	—	2	8	40																																																																																																																																																																																																																					
	感染防止対策チーム	17,484	19,870	18,880	27,610	27,460	25,090																																																																																																																																																																																																																					
	褥瘡対策チーム	—	—	2,725	2,200	2,535	2,550																																																																																																																																																																																																																					
	緩和ケアチーム	—	—	—	—	136	590																																																																																																																																																																																																																					
	リハビリテーション	55,640	58,883	56,527	52,394	58,836	59,137																																																																																																																																																																																																																					
計	73,124	78,753	78,132	82,206	88,975	87,407																																																																																																																																																																																																																						
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>3病院で、10回の院内感染対策研修、26回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">集団感染数(件)</th> <th colspan="2">院内感染対策研修</th> <th colspan="2">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>3,195</td> <td>19</td> <td>7,361</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>395</td> <td>3</td> <td>295</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1,329</td> <td>4</td> <td>1,829</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>4,919</td> <td>26</td> <td>9,485</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数は2回</p>	区分	集団感染数(件)				院内感染対策研修		医療安全対策研修		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	0	2	0	0	1	0	4	3,195	19	7,361	こころ	0	0	0	1	0	0	3	395	3	295	こども	3	0	3	4	0	1	3	1,329	4	1,829	計	3	2	3	5	1	1	10	4,919	26	9,485	<p>各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行うほか、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として感染対策室を中心とした中核要員によるチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行なった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。</li> <li>各病院に感染管理を専攻とする認定看護師が配置されている。</li> <li>各病院でそれぞれ対策マニュアルが整備されており、必要に応じて随時見直しも行われている。</li> <li>令和2年度は、特に新型コロナウイルス感染症に関する内容を扱っており、総合病院ではDVD上映により、院内感染対策研修を全職員が受講したため、参加者数が令和元年度と比べて大幅に増加している。</li> <li>院内感染防止対策に努めた結果、機構において、新型コロナウイルス感染症の院内感染は発生していない。</li> <li>令和2年度は、総合病院において、新型コロナウイルス感染症対策に特化した「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整、院内における患者受入体制の整備についての検討等を行っている。</li> <li>県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献している。</li> </ul>	14		☆																																																																																																																																																			
区分	集団感染数(件)				院内感染対策研修		医療安全対策研修																																																																																																																																																																																																																					
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																																																																																																																																																																																		
総合	0	2	0	0	1	0	4	3,195	19	7,361																																																																																																																																																																																																																		
こころ	0	0	0	1	0	0	3	395	3	295																																																																																																																																																																																																																		
こども	3	0	3	4	0	1	3	1,329	4	1,829																																																																																																																																																																																																																		
計	3	2	3	5	1	1	10	4,919	26	9,485																																																																																																																																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価	県評価	重点	数値	評価																																																								
						説明																																																												
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	<p>「患者様の声」の推移（看護師）（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ご意見</td> <td>72</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>85</td> <td>81</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>40</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>90以上</td> <td>98.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	ご意見	72	57	92	85	81	53	感謝	32	37	28	29	40	34	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	入院	95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	98.2	<p>令和2年度の「患者様の声」は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、面会制限を行ったため、件数は令和元年度実績を下回った。一方、看護師に対する感謝の割合は令和元年度実績を上回り、患者満足度も目標値を大幅に上回った。今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護が提供できるよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。</li> <li>看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護の提供患者との間に信頼関係が強くなるものと考えられる。</li> </ul>																						
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																												
ご意見	72	57	92	85	81	53																																																												
感謝	32	37	28	29	40	34																																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																											
入院	95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	98.2																																																											
			8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>平成25年から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>患者満足度調査（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>入院 95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>90以上</td> <td>98.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 89.6</td> <td>93.2</td> <td>94.0</td> <td>94.3</td> <td>93.6</td> <td>85以上</td> <td>94.3</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>入院 -</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 89.8</td> <td>88.5</td> <td>94.4</td> <td>91.0</td> <td>95.7</td> <td>85以上</td> <td>92.7</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>入院 91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>96.1</td> <td>99.0</td> <td>90以上</td> <td>95.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 90.9</td> <td>98.1</td> <td>99.3</td> <td>98.9</td> <td>98.1</td> <td>90以上</td> <td>96.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	総合	入院 95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	98.2		外来 89.6	93.2	94.0	94.3	93.6	85以上	94.3	こころ	入院 -	-	-	-	-	-	-		外来 89.8	88.5	94.4	91.0	95.7	85以上	92.7	こども	入院 91.9	98.4	97.5	96.1	99.0	90以上	95.3		外来 90.9	98.1	99.3	98.9	98.1	90以上	96.5	<p>総合病院における令和2年度満足度調査は、入院、外来共に令和元年度実績及び令和2年度目標値を上回った。特に食事に関する満足度は、令和元年度より2.3ポイント増の81.1%となった。また、駐車場に関する満足度は90.4%となり、令和元年度に続いて高い数値を維持している。こころの医療センターにおける令和2年度満足度調査は92.7%であり、85%以上の目標を達しているものの、前年比3.0ポイントの減となった。トイレの満足度は改修により15.9ポイント増となり90%を超えたが、一方で待ち時間に関しては67.5%と低く前年比3.8ポイントの減となり、待ち時間の可視化などの要望が寄せられた。こども病院では、売店のスペース拡充・商品の充実に対する要望が多かった。改修工事を実施し、コンビニエンスストアを令和2年3月にオープンしたことで、売店に対する満足度は90%超となり、前年度実績を大きく超える結果となっている。また、院内の投書にもコンビニの品揃えが拡充されたことに対する感謝が寄せられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者満足度調査を毎年実施し、調査結果をもとに患者サービスの向上につなげるよう、きめ細かい改善策が講じられている。</li> <li>総合病院の北立体駐車場の整備・運用により、かつて慢性化していた交通渋滞が解消され、調査結果にも駐車場に対する満足度の向上が表れている。</li> <li>更なる立体駐車場の整備に向けては、こうした患者満足度調査からの利用者の声や経営面への影響等も踏まえながら、慎重に検討を継続することが期待される。</li> <li>こころの医療センター、こども病院においても、患者の意見を施設改修や業務改善につなげており、引き続き、各病院とも真摯な対応が期待される。</li> </ul>	1	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																											
総合	入院 95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	98.2																																																											
	外来 89.6	93.2	94.0	94.3	93.6	85以上	94.3																																																											
こころ	入院 -	-	-	-	-	-	-																																																											
	外来 89.8	88.5	94.4	91.0	95.7	85以上	92.7																																																											
こども	入院 91.9	98.4	97.5	96.1	99.0	90以上	95.3																																																											
	外来 90.9	98.1	99.3	98.9	98.1	90以上	96.5																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																					
						説明	県評価																																																																																								
(2) 県立病院が担う役割  他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	(2) 県立病院が担う役割  他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。  県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。  【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	(2) 県立病院が担う役割  県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルバスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進  【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	-	-	-	令和2年度実績 自己評価		2	1	○																																																																																					
						説明	県評価																																																																																								
						説明	県評価																																																																																								
						説明	県評価																																																																																								
			9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る	紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2目標</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>紹介率</td><td>89.1</td><td>89.0</td><td>90.6</td><td>92.7</td><td>92.4</td><td>90以上</td><td>93.8</td></tr> <tr><td>逆紹介率</td><td>134.3</td><td>161.5</td><td>175.5</td><td>171.3</td><td>174.7</td><td>175以上</td><td>195.4</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	紹介率	89.1	89.0	90.6	92.7	92.4	90以上	93.8	逆紹介率	134.3	161.5	175.5	171.3	174.7	175以上	195.4	A	令和2年度の紹介率及び逆紹介率は、紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めた結果、令和元年度実績及び令和2年度目標値を上回った。	・地域医療支援病院の承認基準である紹介率80%を大きく上回っており、逆紹介率も非常に高く、県内医療機関の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。 ・逆紹介率は、従前から取り組んでいた診療所訪問等により病診連携が進んだことで、目標値を大幅に上回っている。																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																								
紹介率	89.1	89.0	90.6	92.7	92.4	90以上	93.8																																																																																								
逆紹介率	134.3	161.5	175.5	171.3	174.7	175以上	195.4																																																																																								
			10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2目標</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>紹介率</td><td>56.2</td><td>55.0</td><td>56.3</td><td>51.0</td><td>56.1</td><td>57以上</td><td>51.2</td></tr> <tr><td>逆紹介率</td><td>30.8</td><td>29.6</td><td>28.6</td><td>37.0</td><td>33.7</td><td>30以上</td><td>30.1</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	紹介率	56.2	55.0	56.3	51.0	56.1	57以上	51.2	逆紹介率	30.8	29.6	28.6	37.0	33.7	30以上	30.1	B	新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、病床の一部を新型コロナ患者対応に整備したことによる病床減や感染の疑いのある患者を個室で管理したことにより、患者受入調整が困難となったことなどから新規患者数が伸びなかった。また、地域移行支援が停滞したこともあって、紹介率は目標値及び前年度実績を下回り、逆紹介率は目標値には達したものの前年度実績を下回った。 今後、地域の医療機関との連携を図るほか、先進的治療であるm-ECTやクロザピン治療などによる、他の医療機関では対応困難な患者の積極的な受け入れにより、紹介率の向上に努めていく。 また、「よろず相談・地域連携スタッフ」による地域や行政と協働し、地域連携や移行支援に努め逆紹介率の向上を図る。	・こころの医療センターは、他の医療機関では対応が困難な患者を受け入れており、継続して治療を続ける患者が多いため、紹介率・逆紹介率が伸びにくい。 ・令和2年度の紹介率・逆紹介率は令和元年度と比べて減少しており、新型コロナウイルス感染症専用病床の確保や、面会や外出の制限により地域移行支援が停滞したことなどが要因としてあげられる。 ・新型コロナウイルスの状況を鑑みつつ、精神科患者の地域移行を進めるため、引き続き、「よろず相談・地域連携スタッフ」による地域移行支援に努め、高度精神科医療を担う県立病院としての役割を果たすことを期待する。																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																								
紹介率	56.2	55.0	56.3	51.0	56.1	57以上	51.2																																																																																								
逆紹介率	30.8	29.6	28.6	37.0	33.7	30以上	30.1																																																																																								
			11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2目標</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>紹介率</td><td>93.0</td><td>94.7</td><td>94.1</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>94以上</td><td>90.7</td></tr> <tr><td>逆紹介率</td><td>52.0</td><td>52.5</td><td>46.5</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>53以上</td><td>44.8</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	紹介率	93.0	94.7	94.1	92.6	90.9	94以上	90.7	逆紹介率	52.0	52.5	46.5	43.7	47.7	53以上	44.8	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、紹介率・逆紹介率とも前年を下回った。 今後とも他の医療機関と連携を図ることにより、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っていく。 地域医療支援病院として、紹介率・逆紹介率ともに施設基準を満たしており、地域医療支援病院の機能を果たした。ただし、目標数値には達していないため、今後も地域医療機関との連携及び入退院支援センターの活動を通じた退院支援により、逆紹介率の向上に努める。	・地域医療支援病院の承認基準である紹介率80%を上回っており、県内小児医療の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。 ・紹介率・逆紹介率は、第2期中期期間実績の最高値を目標値に設定しており、目標値には達していないものの、高い水準を維持している。 ・こども病院は重篤な患者が多く、逆紹介せずに継続して診療を続ける患者が多く、逆紹介率が低くなる傾向にあり、令和2年度は特に新型コロナウイルス感染症の影響で重症患者の割合が上がったことで、逆紹介率が低下している。																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																								
紹介率	93.0	94.7	94.1	92.6	90.9	94以上	90.7																																																																																								
逆紹介率	52.0	52.5	46.5	43.7	47.7	53以上	44.8																																																																																								
			12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折等の地域連携クリニカルバスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	地域連携クリニカルバス (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>脳卒中</td><td>68</td><td>52</td><td>42</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td></tr> <tr><td>大腿骨頭部骨折</td><td>65</td><td>103</td><td>82</td><td>57</td><td>82</td><td>104</td></tr> <tr><td>胃がん</td><td>80</td><td>86</td><td>81</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td></tr> <tr><td>大腸がん</td><td>151</td><td>114</td><td>109</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td></tr> <tr><td>乳がん</td><td>118</td><td>131</td><td>191</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td></tr> <tr><td>前立腺がん</td><td>0</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>16</td><td>20</td></tr> <tr><td>虚血性心疾患</td><td>96</td><td>186</td><td>142</td><td>92</td><td>73</td><td>67</td></tr> <tr><td>心房細動</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td></tr> <tr><td>慢性腎臓病</td><td>54</td><td>37</td><td>25</td><td>43</td><td>40</td><td>29</td></tr> <tr><td>肺がん</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>632</td><td>709</td><td>682</td><td>561</td><td>605</td><td>578</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	脳卒中	68	52	42	62	83	102	大腿骨頭部骨折	65	103	82	57	82	104	胃がん	80	86	81	61	55	51	大腸がん	151	114	109	124	122	102	乳がん	118	131	191	105	128	102	前立腺がん	0	0	9	10	16	20	虚血性心疾患	96	186	142	92	73	67	心房細動	-	-	1	7	4	1	慢性腎臓病	54	37	25	43	40	29	肺がん	0	0	0	0	2	0	計	632	709	682	561	605	578	A	地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルバスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。	・地域連携クリニカルバスの適用患者数は令和元年度並みの件数を維持しており、地域の医療機関との機能分化が推進されるとともに、退院患者が安心感を得ることも繋がっていると考えられる。 ・大腿骨頭部骨折、脳卒中、がんの地域連携クリニカルバスは診療報酬施設基準(地域連携診療計画管理料)があり、いずれも取得している。 ・平成27年11月より、虚血性心疾患バスの運用を再開、平成29年12月より前立腺がんバス(静岡市内共通)の運用を開始、平成30年3月より心房細動バスの運用を開始している。			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																									
脳卒中	68	52	42	62	83	102																																																																																									
大腿骨頭部骨折	65	103	82	57	82	104																																																																																									
胃がん	80	86	81	61	55	51																																																																																									
大腸がん	151	114	109	124	122	102																																																																																									
乳がん	118	131	191	105	128	102																																																																																									
前立腺がん	0	0	9	10	16	20																																																																																									
虚血性心疾患	96	186	142	92	73	67																																																																																									
心房細動	-	-	1	7	4	1																																																																																									
慢性腎臓病	54	37	25	43	40	29																																																																																									
肺がん	0	0	0	0	2	0																																																																																									
計	632	709	682	561	605	578																																																																																									
			13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	ネットワーク実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>開示施設数</td><td>15</td><td>18</td><td>18</td><td>17</td><td>16</td><td>19</td></tr> <tr><td>開示件数(累計)</td><td>15,814</td><td>19,795</td><td>24,375</td><td>28,732</td><td>33,400</td><td>38,366</td></tr> <tr><td>開示件数(新規)</td><td>15,814</td><td>3,981</td><td>4,580</td><td>4,357</td><td>4,668</td><td>4,966</td></tr> <tr><td>参照施設数</td><td>194</td><td>141</td><td>134</td><td>126</td><td>118</td><td>123</td></tr> <tr><td>病院</td><td>17</td><td>13</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>15</td></tr> <tr><td>診療所</td><td>104</td><td>76</td><td>78</td><td>76</td><td>72</td><td>73</td></tr> <tr><td>保険薬局</td><td>59</td><td>40</td><td>31</td><td>27</td><td>25</td><td>29</td></tr> <tr><td>診療情報システム</td><td>12</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td></tr> <tr><td>介護福祉施設</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr> </table> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	開示施設数	15	18	18	17	16	19	開示件数(累計)	15,814	19,795	24,375	28,732	33,400	38,366	開示件数(新規)	15,814	3,981	4,580	4,357	4,668	4,966	参照施設数	194	141	134	126	118	123	病院	17	13	14	13	13	15	診療所	104	76	78	76	72	73	保険薬局	59	40	31	27	25	29	診療情報システム	12	10	9	8	7	5	介護福祉施設	2	2	2	2	1	1	A	令和2年度から、静岡市立静岡病院並びに、賀茂圏域の伊豆今井浜病院及び下田メディカルセンターが開示施設として参画した。 これらの静岡圏域の中核病院や賀茂圏域初の開示施設が参画したことを足がかりに、診療所、後方支援病院等の参画拡大に取り組んだ結果、参照施設は令和元年度から5施設増となった。	・ふじのくにねっとは、県内医療機関における病病連携・病診連携の促進に向けた地域医療情報連携ネットワークであり、総合病院は、運営主体である参加医療機関で構成する協議会の事務局を担っている。 ・県は、ネットワークの拡大に向けて、平成28年度より、開示医療機関におけるシステム整備費用を補助しており、令和2年度は、島田市民病院と中東遠総合医療センターがシステム更新を行った。 ・協議会は、平成28年度より、参加医療機関からの利用料の徴収を開始し、自律的な運営体制が確立された一方、参照施設数は減少傾向となっているが、開示件数は堅調に増加しており、システムの有効性を認めている医療機関には積極的に活用されている。 ・令和2年度は、未導入圏域の基幹病院への参加促進活動や、医師会や薬剤師会を通じた加入促進チラシの配布、試用端末貸出など、開示施設・参照施設の増加に向けた取組が行われている。 ・参加医療機関にとっては、利用料に見合う利用価値が得られるかどうかがかが重要なため、協議会事務局として、地域特性に応じた優良な活用事例の横展開や、県東部地域等の基幹病院に対する積極的な参加促進等により、ネットワークの利用価値を高めていくことが期待される。																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																									
開示施設数	15	18	18	17	16	19																																																																																									
開示件数(累計)	15,814	19,795	24,375	28,732	33,400	38,366																																																																																									
開示件数(新規)	15,814	3,981	4,580	4,357	4,668	4,966																																																																																									
参照施設数	194	141	134	126	118	123																																																																																									
病院	17	13	14	13	13	15																																																																																									
診療所	104	76	78	76	72	73																																																																																									
保険薬局	59	40	31	27	25	29																																																																																									
診療情報システム	12	10	9	8	7	5																																																																																									
介護福祉施設	2	2	2	2	1	1																																																																																									



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																							
						説明																																																												
<p>県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。</p> <p>なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。</p> <p>さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。</p> <p>その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組む。今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。</p>	<p>エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>16 ～ 18</p>	<p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他への充実を図る。</p>	<p>地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>6,810</td> <td>5,217</td> <td>6,007</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>770</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(新)</td> <td>—</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算1※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,816</td> <td>3,987</td> <td>5,403</td> </tr> <tr> <td>退院時バリエーション指導料</td> <td>980</td> <td>601</td> <td>705</td> <td>530</td> <td>1,113</td> <td>3,529</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>5,346</td> <td>5,100</td> <td>8,932</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年改定により、入退院支援加算に名称変更</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	件数	1,754	2,204	3,217	6,810	5,217	6,007	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	退院調整加算(旧)	770	—	—	—	—	—	退院支援加算1(新)	—	1,054	1,879	—	—	—	入退院支援加算1※	—	—	—	4,816	3,987	5,403	退院時バリエーション指導料	980	601	705	530	1,113	3,529	計	1,750	1,655	2,584	5,346	5,100	8,932	A	<p>地域医療ネットワークセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援した。</p> <p>・入退院調整の窓口である地域医療ネットワークセンターにおいては、各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域の医療機関との顔の見える関係を構築している。 ・退院調整件数や診療報酬算定件数としての入退院支援加算は令和元年度より増加している。 ・特に退院時リハビリテーション指導料の増加が顕著であり、これは医事課とリハビリテーション科の連携により、円滑に算定できるよう運用の見直しが行われたことによる。</p>			
					区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																							
					件数	1,754	2,204	3,217	6,810	5,217	6,007																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																												
退院調整加算(旧)	770	—	—	—	—	—																																																												
退院支援加算1(新)	—	1,054	1,879	—	—	—																																																												
入退院支援加算1※	—	—	—	4,816	3,987	5,403																																																												
退院時バリエーション指導料	980	601	705	530	1,113	3,529																																																												
計	1,750	1,655	2,584	5,346	5,100	8,932																																																												
				<p>リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>リハビリテーション活動実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>7,209</td> <td>7,649</td> <td>5,992</td> <td>5,494</td> <td>4,483</td> <td>5,427</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>4,239</td> <td>4,448</td> <td>5,955</td> <td>6,023</td> <td>4,462</td> <td>2,653</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,448</td> <td>12,097</td> <td>11,947</td> <td>11,517</td> <td>8,945</td> <td>8,080</td> </tr> </tbody> </table> <p>訪問看護実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,883</td> <td>3,522</td> <td>4,068</td> <td>3,996</td> <td>3,704</td> <td>3,841</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>170</td> <td>147</td> <td>76</td> <td>31</td> <td>38</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	精神科作業療法	7,209	7,649	5,992	5,494	4,483	5,427	デイケア	4,239	4,448	5,955	6,023	4,462	2,653	計	11,448	12,097	11,947	11,517	8,945	8,080	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	訪問看護実施件数	2,883	3,522	4,068	3,996	3,704	3,841	(うち複数訪問)	170	147	76	31	38	46	B	<p>令和2年度は、病棟のリハビリテーション活動件数は前年度より増加したものの、外来デイケアについては11月から2月までの間感染防止対策としての受け入れ制限を実施したことなどから、昨年度と比較して、1日を通じて行うデイケアが937件、半日で実施するショートケアが872件下回った。 このため、デイケアの受入制限期間中においては、動画配信やリモートによる集団プログラムを実施するなど、利用者を支援し、つながりの維持に努めた。 デイケア活動は、患者の社会復帰に繋がる支援であるため、今後も継続的に、ポスター掲示や短期間限定募集の実施、パンフレットのリニューアルを行う等マネジメントを強化し、新規対象者の獲得に取り組んでいく。 訪問看護では、必要に応じてPSWや作業療法士など複数の職種が関与することで、入院初期の段階から退院後の訪問看護を見据えた多職種連携を行うよう努めた結果、全体としての件数は減少したものの、複数訪問については、昨年度の実績を上回ることができた。今後も、訪問時の感染対策に配慮しながら、積極的な支援を実施していく。</p>	<p>・平均在院日数を短縮し、社会復帰に向けたリハビリや地域での生活を支援する訪問看護は重要である。 ・リハビリ実施件数は近年減少傾向である。特に精神科作業療法は主に入院患者を対象としたものであるが、入院患者数の減少や重症患者の比率増加により、年々件数が減少してきている。件数の増加に向けては、入院患者数全体を増やすことが必要とされる。 ・リハビリ実施件数のうち、デイケアの件数については、新型コロナウイルス感染防止対策として、受入れを一時制限していたため、令和元年度より更に減少している。 ・令和2年12月からは動画配信やリモート(Zoom)による集団プログラムを開始しており、感染症拡大防止対策をとりつつ、患者の社会復帰を支援している。 ・リハビリ導入対象者に向けて、デイケアプログラムの必要性やメリットをわかりやすく記載したポスターの掲示やパンフレットのリニューアルなど、新規導入者増加に向けた取組を注視していく。 ・訪問看護実施件数は、令和元年度並みを維持している。うち複数訪問(看護師のほか作業療法士等複数の職種での訪問)は令和元年度と比較して増加しており、診療報酬上の加算による収益の増加にもつながっている。 ・精神疾患患者の社会復帰と在宅医療の支援について、デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に向けた取組を注視していく。</p>	15		△							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																												
精神科作業療法	7,209	7,649	5,992	5,494	4,483	5,427																																																												
デイケア	4,239	4,448	5,955	6,023	4,462	2,653																																																												
計	11,448	12,097	11,947	11,517	8,945	8,080																																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																												
訪問看護実施件数	2,883	3,522	4,068	3,996	3,704	3,841																																																												
(うち複数訪問)	170	147	76	31	38	46																																																												
				<p>リハ実施実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>15,000</td> <td>22,985</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>—</td> <td>3,813</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>—</td> <td>10,162</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>—</td> <td>36,960</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	理学療法	17,811	17,504	18,944	17,309	22,829	15,000	22,985	作業療法	6,335	6,010	6,656	6,039	4,546	—	3,813	言語聴覚療法	7,825	8,656	7,306	7,901	9,744	—	10,162	計	31,971	32,170	32,906	31,249	37,119	—	36,960	A	<p>リハビリ実施件数は令和2年度目標を超えたが、令和元年度実績を下回った。 しかし、理学療法・言語聴覚療法は前年度実績を上回っており、今後もさらなる質の向上を図っていく。</p>	<p>・リハビリ実施件数は理学療法、作業療法、言語聴覚療法のいずれも高い水準を維持しており、理学療法については、令和元年度並みの実績を維持しており、目標値を大幅に上回っている。 ・令和元年度からリハビリテーション科を新たに組織し、専任のリハビリテーション医のもと、患者の社会生活支援、就学等に取り組んでいる。</p>																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																											
理学療法	17,811	17,504	18,944	17,309	22,829	15,000	22,985																																																											
作業療法	6,335	6,010	6,656	6,039	4,546	—	3,813																																																											
言語聴覚療法	7,825	8,656	7,306	7,901	9,744	—	10,162																																																											
計	31,971	32,170	32,906	31,249	37,119	—	36,960																																																											
	<p>オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>19</p>	<p>・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。</p>	<p>遺伝診療科受診者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>21</td> <td>39</td> <td>86</td> <td>101</td> <td>146</td> <td>227</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	受診者数	21	39	86	101	146	227	A	<p>令和2年度の遺伝診療科受診者数は令和元年度実績を上回った。 令和元年9月にゲノム医療センターを新設し、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置した。今後は、がんゲノム医療拠点病院の指定を目指し、がんゲノム医療提供体制の更なる強化を進める。</p>	<p>・平成27年度の遺伝診療科開設以降、平成30年3月のがんゲノム医療連携拠点病院指定、令和元年9月のゲノム医療センター新設等の体制強化により、遺伝診療科受診者数は年々増加している。 ・遺伝診療科では、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー等の専門家が、がんゲノム関連検査等における遺伝カウンセリングを通じて、患者や医療従事者に対して最新の情報を提供し、相談者が自分の意思で最善の検査や治療方針が決定できるよう支援してきたが、令和元年9月に先天性・遺伝性疾患やがんに対する遺伝医療を総合的に実施するため、ゲノム医療センターを新設した。 ・また、令和元年8月には、一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会より、県立静岡がんセンターに続く県内2番目の遺伝性腫瘍研修施設として認定された。 ・遺伝性腫瘍に関する適切な医療の推進を目的に、人材育成、知識普及、診療体制の充実等に取り組む。今後進展が期待される遺伝子診療への貢献が期待される。 ・国のがんゲノム医療中核拠点病院である京都大学医学部附属病院の連携病院として遺伝子パネル検査等の実施にあたり連携しているが、将来的には、がんゲノム医療拠点病院としての国指定を目指している。 ・がんゲノム医療拠点病院は、全国で33施設が指定されている(令和3年4月1日時点)。 ・総合病院においては、臨床遺伝専門医の養成など、指定に向けた体制整備への努力が継続されている。</p>																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																												
受診者数	21	39	86	101	146	227																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																					
						説明																																										
	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	20 ～ 22	【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科病棟設置に向けた検討・準備を進める。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	総合	脳FDG-PET (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>147</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>128</td> </tr> </tbody> </table> 認知症ケア加算 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>-</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>8,306</td> <td>7,163</td> <td>6,202</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	実施件数	131	135	147	161	160	128	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	算定件数	-	803	10,494	8,306	7,163	6,202	B	令和2年度は、精神科病棟の整備に関する基本計画の策定を行った。今後、具体的な設計業務に着手する予定である。 令和2年度の脳FDG-PET実施件数及び認知症ケア加算算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者数の減少に伴い、令和元年度実績を下回った。												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
実施件数	131	135	147	161	160	128																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
算定件数	-	803	10,494	8,306	7,163	6,202																																										
					個別	認知症入院患者件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td> <td>797</td> <td>573</td> <td>441</td> <td>483</td> <td>387</td> <td>330</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	認知症入院患者	6	12	11	9	6	6	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	老年期こころと物忘れ外来実施件数	797	573	441	483	387	330	A	精神科救急・急性期医療体制を確保して症状が重篤な認知症患者を受け入れるとともに、老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)による専門的な医療相談を実施している。 近年は、一般外来への高齢者の新規患者の受診が増加していることから、老年期こころと物忘れ外来の件数は減少傾向にあるが、一般外来と専門外来を合わせて認知症患者の受入体制の整備が図られている。												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
認知症入院患者	6	12	11	9	6	6																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
老年期こころと物忘れ外来実施件数	797	573	441	483	387	330																																										
					個別	発達障害児を持つ保護者を対象に、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを例年行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施しなかった。 中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。  発達小児科外来患者数等 (単位:人、件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発達小児科外来延患者数</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>4,014</td> <td>4,233</td> <td>4,272</td> </tr> <tr> <td>ペアレントトレーニング等件数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 新生児包括外来実績 (単位:件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低出生体重児への発達フォロー件数</td> <td>216</td> <td>210</td> <td>170</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>175</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	発達小児科外来延患者数	3,210	3,563	3,871	4,014	4,233	4,272	ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	10	10	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	低出生体重児への発達フォロー件数	216	210	170	207	207	175	A	発達小児科においては、医師の受入枠を拡大したことで昨年度を上回る外来患者に対応することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により家族へのペアレント・トレーニングについては開催を中止した。新生児科においては、低出生体重児の発達フォローを継続して実施している。 東部地区に発達障害を扱う医師が少ないことから、令和元年度有期医師を1名増員し、診療体制の充実を図り、県と連携して東部地区の医師に対し研修を行ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。					
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
発達小児科外来延患者数	3,210	3,563	3,871	4,014	4,233	4,272																																										
ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	10	10	0																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
低出生体重児への発達フォロー件数	216	210	170	207	207	175																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																													
						説明	県評価																																																																																																																
	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。</li> <li>・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。</li> <li>・【こころ】思春期及び小児科から成人への移行期における精神科医療体制の強化を図る。</li> <li>・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る。</li> <li>・【子】医療的ケア児のレスパイト対応のための受け入れ体制を構築する。</li> </ul>	<p>移行期医療件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>-</td> <td>626</td> <td>650</td> <td>610</td> <td>666</td> <td>995</td> </tr> <tr> <td>こども→こころ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>19</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連するカンファレンス等の開催実績 (単位: 回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	こども→総合	-	626	650	610	666	995	こども→こころ	-	-	-	-	19	18	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	-	2	5	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	-	1	6	4	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	-	5	3	6	<p>令和2年度実績 自己評価</p> <p>説明</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応については、総合、こどもが県から重点医療機関に指定されるなど、各病院で受入体制を整えた。なお、県と調整のうえ患者の受入を行っている。</p> <p>移行期医療への対応については、医療情報システムの統合を検討しており、これにより、患者情報の病院間の相互参照を可能とし、提供する医療サービスの向上を図る。</p> <p>(総合)</p> <p>令和2年2月、成人先天性心疾患科を開設した。こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診察を行っている。</p> <p>(こころ)</p> <p>小児から成人への移行期医療の連携強化を図るため、こども病院の精神科医師との合同カンファレンス症例検討を行ってきたが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響などもあり、実施できなかった。今後も引き続き相互連携強化に努める。</p> <p>また今後、県の開催する「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」の検討を踏まえ、県立3病院における精神科医療のあり方を検討、医療提供体制の整備に取り組んでいく。</p> <p>(こども)</p> <p>移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を受託した。県と連携して移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。</p> <p>在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受けた。今後、短期入所者の受け入れ体制の整備を図っていく。加えて、引き続き関係福祉機関、教育機関等における講習や会議への医師や看護師の出席等を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。</li> <li>・このため、国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所以上設置することを求めている。</li> <li>・移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病、小児診療科で継続してケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点特徴である。</li> <li>・また、成人期医療においては小児慢性特定疾病への対応や患者の就学・就労支援等に課題がある。</li> <li>・県の移行期医療支援センターにおいては、こうした医療・支援のコーディネート機能を担っていくことが求められている。</li> <li>・こども病院においては、県との意見交換会等を通じて、移行期医療支援センター設置に向けた準備を進めてきており、令和2年度からは、県から移行期医療支援体制整備事業を受託し、静岡県移行期医療支援センターを開所している。実質的な稼働に向けたワーキングを12回実施するとともに、移行医療に関する医療機関への現状調査、移行支援外来の設置に向けた準備、移行患者についてのデータベース作成などに取り組んでいる。</li> <li>・令和2年度は総合病院、こども病院における移行期医療関連部署の設置により医療移行が促進されたため、移行期医療件数は令和元年度より増加している。</li> <li>・今後、県からの委託において、移行期医療推進協議会の運営や、移行期医療の実態調査や診療領域ごとの患者移行方針の具体的な構築、相談支援体制の構築など、患者の医療移行や自立支援の推進において、中心的な役割を担っていくことが期待される。</li> <li>・総合病院やこころの医療センターにおいても先天性心疾患や発達障害、摂食障害等への対応等において、こども病院と連携を図りながら、従来の組織や診療体制の枠組にとらわれず、小児から成人まで継続した治療体制を確保することが期待される。</li> </ul>	15	☆																																																													
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																	
こども→総合	-	626	650	610	666	995																																																																																																																	
こども→こころ	-	-	-	-	19	18																																																																																																																	
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																	
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	-	2	5	0																																																																																																																	
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	-	1	6	4																																																																																																																	
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	-	5	3	6																																																																																																																	
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。</li> </ul>	<p>こども病院では、本館リニューアル工事が行われ、薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上と劣化改修工事を行い、ランドリ移転により患者アメニティ(コンビニエンスストア)を整備した。</p> <p>施設及び機器等の整備状況 (単位: 百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="7">施設整備</th> </tr> <tr> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(実績)</th> <th>3年度(見込)</th> <th>4年度(見込)</th> <th>5年度(見込)</th> <th>第3期累計(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,132</td> <td>1,091</td> <td>1,472</td> <td>2,436</td> <td>4,043</td> <td>605</td> <td>9,648</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>992</td> <td>139</td> <td>246</td> <td>791</td> <td>550</td> <td>456</td> <td>2,182</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,764</td> <td>148</td> <td>829</td> <td>1,146</td> <td>1,969</td> <td>140</td> <td>4,233</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>78</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,887</td> <td>1,379</td> <td>2,626</td> <td>4,372</td> <td>6,562</td> <td>1,202</td> <td>16,141</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="7">器械備品等</th> </tr> <tr> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(実績)</th> <th>3年度(見込)</th> <th>4年度(見込)</th> <th>5年度(見込)</th> <th>第3期累計(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>6,788</td> <td>706</td> <td>894</td> <td>1,616</td> <td>1,132</td> <td>1,175</td> <td>5,522</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>169</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>123</td> <td>174</td> <td>52</td> <td>412</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,834</td> <td>308</td> <td>747</td> <td>1,007</td> <td>700</td> <td>566</td> <td>3,328</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,791</td> <td>1,045</td> <td>1,716</td> <td>2,746</td> <td>2,006</td> <td>1,733</td> <td>9,306</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	施設整備							第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	第3期累計(見込)	総合	16,132	1,091	1,472	2,436	4,043	605	9,648	こころ	992	139	246	791	550	456	2,182	こども	1,764	148	829	1,146	1,969	140	4,233	本部	0	0	78	0	0	0	78	合計	18,887	1,379	2,626	4,372	6,562	1,202	16,141	区 分	器械備品等							第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	第3期累計(見込)	総合	6,788	706	894	1,616	1,132	1,175	5,522	こころ	169	31	31	123	174	52	412	こども	1,834	308	747	1,007	700	566	3,328	本部	0	0	44	0	0	0	44	合計	8,791	1,045	1,716	2,746	2,006	1,733	9,306	<p>減価償却費については、令和2年度は39億円に対し、第3期中期計画期間中に47億円程度まで上昇することを想定しているが、経営状況を見ながら適切に投資判断を行っていく。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に対応するため、各病院において補助金等を活用し、人工呼吸器、PCR検査装置等を購入し、帰国者・接触者外来を設置、運営するなど体制を整えた上、導入した機器について習熟の研修も実施した。</p> <p>また、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めており、令和2年度は、こころの医療センターにサーバ棟の建設に着手している。また、こころの医療センターとしては、受変電設備更新やエレベーター更新工事を実施した。</p> <p>総合病院では、先端医学棟1階へ移設した中央滅菌材料室(本館2階)の跡地の跡地に外来化学療法センターをリニューアル整備した。病床数は40床(ベッド22床、リクライニングシート18床)とし、令和2年8月から運用を開始した。また、本館2階へ移設した外来化学療法センター(北館1階)の跡地に高度救命救急センターをリニューアル整備し、令和3年1月から運用を開始した。</p> <p>こども病院では、今後の建替計画等をまとめたマスタープランを令和2年12月に作成した。</p> <p>工事については、本館リニューアル工事(薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上・劣化改修)が完了した。また、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事の実施設計を行い、令和3年4月から工事を実施する。</p> <p>なお、一部施設整備が中期計画より遅れているものの、診療の継続に影響は与えていない。今後も計画的な整備の実施に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画策定時の施設整備計画について、状況変化に柔軟に対応しながら、施設・設備整備を実施している。</li> <li>・地方独立行政法人法の規定により、機構は設立団体である県から長期借入を行うため、県が起債(地方公共団体金融機構借入や市場公募債)により資金調達した財源を転貸債として借り入れている。</li> <li>・第2期中期目標期間中は、先端医学棟や立体駐車場整備等の大型投資により、期間中合計で約277億円の建設改良費を支出した。</li> <li>・第3期においても、総合病院における既存棟の耐震化を含む改築工事やこどもの本館老朽化に伴う改築工事棟の大型投資が予定されており、期間中合計で約254億円の事業計画がある。</li> <li>・令和2年度においては、約43億円の施設及び機器等の整備を実施している。</li> <li>・主な事業として、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、補助金を活用して、人工呼吸器等の機器購入や帰国者・接触者外来設置等の体制整備を行っている。県内の医療提供体制の確保に貢献している。</li> <li>・総合病院においては、外来化学療法センターを整備し、外来患者の利便性の向上を図っている。</li> <li>・また、医療情報の共有化による、質の高い医療の提供と効率的な病院運営のため、3病院共通のサーバ棟建設に着手している。</li> <li>・こども病院においては、建物の修繕・建替計画、院内敷地利用をまとめたマスタープランの作成が令和2年12月に完了したことで工事の基本方針が決定した。一部の施設整備が中期計画策定時点より遅れているが、病院機能が損なわれることはないとのことであり、計画的な進捗が求められる。</li> <li>・医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。</li> <li>・減価償却費は、第3期期間中合計で約211億円が見込まれており、第2期合計の約165億円と比較すると大幅な増加となる。</li> <li>・減価償却費の増加は、手術件数増加や重症系病棟の稼働率の向上、在院日数の短縮等による医業収益の増加でカバーしていく予定であるが、今後、多額の設備投資による減価償却費等の増加が経営状況に及ぼす影響を注視していくことが求められる。</li> </ul>	17	☆
区 分	施設整備																																																																																																																						
	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	第3期累計(見込)																																																																																																																
総合	16,132	1,091	1,472	2,436	4,043	605	9,648																																																																																																																
こころ	992	139	246	791	550	456	2,182																																																																																																																
こども	1,764	148	829	1,146	1,969	140	4,233																																																																																																																
本部	0	0	78	0	0	0	78																																																																																																																
合計	18,887	1,379	2,626	4,372	6,562	1,202	16,141																																																																																																																
区 分	器械備品等																																																																																																																						
	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	第3期累計(見込)																																																																																																																
総合	6,788	706	894	1,616	1,132	1,175	5,522																																																																																																																
こころ	169	31	31	123	174	52	412																																																																																																																
こども	1,834	308	747	1,007	700	566	3,328																																																																																																																
本部	0	0	44	0	0	0	44																																																																																																																
合計	8,791	1,045	1,716	2,746	2,006	1,733	9,306																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																									
						説明																																														
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	-	-	-		-																																													
	県立総合病院	<p>(ア) 県立総合病院診療事業</p> <p>県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。</p> <p>各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。</p> <p>県民に提供する医療&lt;業務予定量&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>病床数</td> <td>712床</td> </tr> <tr> <td>一般病床</td> <td>662床</td> </tr> <tr> <td>結核病床</td> <td>50床</td> </tr> <tr> <td>外来患者</td> <td>471,761人</td> </tr> <tr> <td>入院患者</td> <td>235,100人</td> </tr> </table>	病床数	712床	一般病床	662床	結核病床	50床	外来患者	471,761人	入院患者	235,100人	25	総合	<p>入院・外来患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>211,068</td> <td>223,709</td> <td>232,585</td> <td>233,305</td> <td>225,595</td> <td>235,100</td> <td>203,298</td> </tr> <tr> <td>(うち結核病床)</td> <td>6,588</td> <td>6,358</td> <td>6,580</td> <td>6,406</td> <td>4,967</td> <td>7,968</td> <td>5,223</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>426,343</td> <td>432,762</td> <td>430,118</td> <td>436,699</td> <td>448,945</td> <td>471,761</td> <td>425,092</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	入院患者数	211,068	223,709	232,585	233,305	225,595	235,100	203,298	(うち結核病床)	6,588	6,358	6,580	6,406	4,967	7,968	5,223	外来患者数	426,343	432,762	430,118	436,699	448,945	471,761	425,092	B	<p>令和2年度の入院患者数及び外来患者数は、令和元年度実績及び令和2年度目標値を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により、患者が診療所への受診を控えたため、当院への紹介患者が減少したことが原因だと考えられる。</p> <p>・総合病院では、紹介患者数の減少や新型コロナウイルス専用病床の確保等により、令和元年度と比較して、入院患者数及び外来患者数が減少しており、目標値を下回っている。</p> <p>・一方で、新規患者獲得に向けて地域の医療機関等との連携関係を強化することにより、入院患者数の増加と病床稼働率の向上に取り組んでおり、今後もこうした収益改善の努力を注視していく。</p>	3	1	○
病床数	712床																																																			
一般病床	662床																																																			
結核病床	50床																																																			
外来患者	471,761人																																																			
入院患者	235,100人																																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																													
入院患者数	211,068	223,709	232,585	233,305	225,595	235,100	203,298																																													
(うち結核病床)	6,588	6,358	6,580	6,406	4,967	7,968	5,223																																													
外来患者数	426,343	432,762	430,118	436,699	448,945	471,761	425,092																																													
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	<p>○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実</p> <p>①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供</p> <p>②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化</p> <p>③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進</p> <p>④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲で高度な手術の実施</p>	26	総合	<p>①冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。</p> <p>CCU/ICU稼働率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>113.1</td> <td>119.1</td> <td>100.3</td> <td>88.6</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>771</td> <td>722</td> <td>780</td> <td>771</td> <td>866</td> <td>802</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.3</td> <td>11.5</td> <td>13.6</td> <td>14.3</td> <td>14.0</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	稼働率(%)	102.6	100.0	113.1	119.1	100.3	88.6	入室患者数(人)	771	722	780	771	866	802	1日平均(人)	10.3	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4	A	<p>令和2年度のICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度実績を下回っているが、ハイブリッド手術室の稼働は高い水準で推移するなど重症患者の手術件数は堅調であることから、重症系病棟の需要も継続すると考えられる。</p> <p>今後も稼働率の向上に加え、特定集中治療室管理料の算定率向上に努める。</p>	3		○														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																														
稼働率(%)	102.6	100.0	113.1	119.1	100.3	88.6																																														
入室患者数(人)	771	722	780	771	866	802																																														
1日平均(人)	10.3	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4																																														
			27	総合	<p>②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p> <p>脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>62</td> <td>83</td> <td>102</td> </tr> </tbody> </table> <p>超急性期脳卒中加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>16</td> <td>35</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	算定件数	68	52	42	62	83	102	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	算定件数	15	15	27	16	35	28	A	<p>令和2年度の脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数は、令和元年度実績を上回った。</p> <p>今後もMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。</p>																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																														
算定件数	68	52	42	62	83	102																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																														
算定件数	15	15	27	16	35	28																																														
			28	総合	<p>③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p> <p>糖尿病透析予防指導管理料 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>75</td> <td>145</td> <td>285</td> <td>123</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	算定件数	37	132	75	145	285	123	A	<p>糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。</p> <p>令和2年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響による外来患者の減少に伴い、令和元年度実績を下回ったが、高い水準は維持している。</p>																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																														
算定件数	37	132	75	145	285	123																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																																							
						説明	県評価																																																																																																																										
			29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室使用件数</td> <td>117</td> <td>163</td> <td>479</td> <td>706</td> <td>486</td> <td>300以上</td> <td>484</td> </tr> <tr> <td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td> <td>4</td> <td>28</td> <td>67</td> <td>74</td> <td>67</td> <td>-</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>91</td> <td>91</td> <td>125</td> <td>-</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>24</td> <td>-</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>447</td> <td>450</td> <td>368</td> <td>363</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>189</td> <td>229</td> <td>256</td> <td>253</td> <td>284</td> <td>267</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	ハイブリッド手術室使用件数	117	163	479	706	486	300以上	484	TAVI実施件数 ※上記の内数	4	28	67	74	67	-	65	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	81	107	91	91	125	-	76	Mitra Clip件数 ※上記の内数	-	-	-	12	24	-	14	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	PCI	515	517	447	450	368	363	アブレーション	189	229	256	253	284	267	<p>MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管造影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClip等の手術に使用される。</p> <p>ハイブリッド手術室の稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇する傾向である。</p> <p>令和2年度の稼働状況は、新型コロナウイルス感染症の影響により、使用件数は令和2年度目標値を上回ったが、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和元年度実績を下回った。</p>	<p>・平成29年9月に開棟した先端医学棟には、MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室が整備され、特徴に応じた施術内容に活用されている。</p> <p>・TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)は大動脈弁狭窄症に対して、カテーテルにより人口弁を心臓に装着する治療、MitraClip(経皮的僧帽弁クリップ術)は僧帽弁閉鎖不全に対して、カテーテルにより僧帽弁逆流を制御する治療、PCI(経皮的冠動脈形成術)は、動脈硬化等による冠動脈の狭窄等に対して、カテーテル治療を行うものである。</p> <p>・ハイブリッド手術室使用件数については、令和元年度より、検査のみの使用を除いた件数に算定方法を変更している。令和2年度については、循環器科において新たな術式を導入したことも影響し、目標値を上回っている。</p> <p>・いずれも開胸外科手術よりも低侵襲で、手術の危険性が高い患者に対しても治療が可能であり、高度な施設基準等が要求される中、心臓血管外科や循環器内科の連携のもと順調に実績を伸ばしており、高度・専門医療の提供による県の医療水準の向上に貢献し、県立病院としての使命を果たしている。</p>	3	1	○																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																										
ハイブリッド手術室使用件数	117	163	479	706	486	300以上	484																																																																																																																										
TAVI実施件数 ※上記の内数	4	28	67	74	67	-	65																																																																																																																										
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	81	107	91	91	125	-	76																																																																																																																										
Mitra Clip件数 ※上記の内数	-	-	-	12	24	-	14																																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																											
PCI	515	517	447	450	368	363																																																																																																																											
アブレーション	189	229	256	253	284	267																																																																																																																											
	・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供している。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供	30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<p>がん手術件数 (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>135</td> <td>136</td> <td>163</td> <td>340</td> <td>366</td> <td>351</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>310</td> <td>264</td> <td>287</td> <td>687</td> <td>696</td> <td>759</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>133</td> <td>135</td> <td>115</td> <td>366</td> <td>260</td> <td>328</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>138</td> <td>156</td> <td>149</td> <td>134</td> <td>194</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>334</td> <td>343</td> <td>352</td> <td>449</td> <td>511</td> <td>440</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>999</td> <td>1,131</td> <td>1,210</td> <td>1,241</td> <td>1,549</td> <td>1,355</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>2,011</td> <td>2,135</td> <td>2,235</td> <td>3,217</td> <td>3,576</td> <td>3,446</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>7,753</td> <td>7,764</td> <td>8,406</td> <td>8,651</td> <td>9,225</td> <td>8,513</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>25.9</td> <td>27.5</td> <td>26.6</td> <td>37.2</td> <td>38.8</td> <td>40.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>内視鏡検査・処置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="5">内視鏡検査・処置</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>上部消化管検査</th> <th>下部消化管検査</th> <th>ERCP検査</th> <th>気管支鏡検査</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平30</td> <td>10,609</td> <td>2,760</td> <td>484</td> <td>461</td> <td>41</td> <td>14,355</td> </tr> <tr> <td>令元</td> <td>10,489</td> <td>2,813</td> <td>445</td> <td>389</td> <td>56</td> <td>14,192</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>9,817</td> <td>2,771</td> <td>404</td> <td>291</td> <td>38</td> <td>13,321</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>16,384</td> <td>16,330</td> <td>15,795</td> <td>15,772</td> <td>1,100</td> <td>800</td> <td>1,104</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	胃がん	135	136	163	340	366	351	大腸がん	310	264	287	687	696	759	肝がん	133	135	115	366	260	328	肺がん	138	156	149	134	194	213	乳がん	334	343	352	449	511	440	その他	999	1,131	1,210	1,241	1,549	1,355	がん手術合計	2,011	2,135	2,235	3,217	3,576	3,446	手術全体	7,753	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	がん手術割合	25.9	27.5	26.6	37.2	38.8	40.5	年度	内視鏡検査・処置					合計	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	平30	10,609	2,760	484	461	41	14,355	令元	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	件数	16,384	16,330	15,795	15,772	1,100	800	1,104	<p>令和2年度のがん手術件数は、新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者の減少に伴い、令和元年度実績を下回った。</p> <p>一方、放射線治療件数は、令和元年8月からリニアックを3台体制とし、高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療の実施により、地域の医療機関等からの紹介患者が増加したため、令和元年度実績及び令和2年度目標値を上回った。</p> <p>がんゲノム医療においては、平成31年4月に県内初となる遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設に認定された他、がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療提供体制の構築を進めた。</p>	<p>・手術室を拡充しダ・ヴィンチを追加整備した先端医学棟の開棟後、がん手術件数は大幅に増加しており、県内のがん手術症例が、総合病院に集約化している状況にある。</p> <p>・平成30年度には麻酔科医が5人増員され、全身麻酔手術件数の増加や内視鏡検査・処置件数の増加に寄与している。</p> <p>・令和元年8月から、先端医学棟におけるリニアック3台体制の集約的・効率的な運用が開始したことで、地域の医療機関からの放射線治療を目的とする紹介患者が増加している。</p> <p>・放射線治療件数については、令和元年度の算定件数1,100件に対して、令和2年度は1,104件と前年度並みの実績を維持しており、目標値を上回っている。</p> <p>・引き続き、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用した、高度・専門医療の提供が期待される。</p>	4	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																											
胃がん	135	136	163	340	366	351																																																																																																																											
大腸がん	310	264	287	687	696	759																																																																																																																											
肝がん	133	135	115	366	260	328																																																																																																																											
肺がん	138	156	149	134	194	213																																																																																																																											
乳がん	334	343	352	449	511	440																																																																																																																											
その他	999	1,131	1,210	1,241	1,549	1,355																																																																																																																											
がん手術合計	2,011	2,135	2,235	3,217	3,576	3,446																																																																																																																											
手術全体	7,753	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513																																																																																																																											
がん手術割合	25.9	27.5	26.6	37.2	38.8	40.5																																																																																																																											
年度	内視鏡検査・処置					合計																																																																																																																											
	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他																																																																																																																												
平30	10,609	2,760	484	461	41	14,355																																																																																																																											
令元	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																											
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																										
件数	16,384	16,330	15,795	15,772	1,100	800	1,104																																																																																																																										
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	<p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>12,159</td> <td>12,707</td> <td>12,000以上</td> <td>12,660</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	件数	10,509	11,171	11,680	12,159	12,707	12,000以上	12,660	<p>令和2年8月、外来化学療法センターの移転リニューアルにより療養環境を整備し、患者利便性の向上を図った。</p> <p>また、前日に採血を行うことで、当日の化学療法センターの利用時間の短縮を図るなど運用面についても工夫した。</p> <p>令和2年度の外來化学療法加算算定件数は、令和元年度実績をやや下回ったものの、目標値を上回る高い水準を保っている。</p> <p>今後も外来化学療法の需要増に対して適切に対応していく。</p>	<p>・抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並ぶ、がん治療の3本柱の1つである。</p> <p>・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法センターの充実は、患者の生活の質の向上に大きく寄与している。</p> <p>・令和2年8月に外来化学療法センターを本館2階へ移転リニューアルし、外来患者の利便性向上を図っている。</p> <p>・複数診療科のがん治療認定医・がん化学療法認定看護師1名・がん薬物療法認定薬剤師6名の人的配置のもと、診療報酬上の外来化学療法加算件数は年々増加している。</p> <p>・令和2年度においても、新型コロナウイルスの影響で外来患者数全体が減少する中、外来化学療法センターの患者数は、実績12,660件と目標値を上回っており、また、前年度並みの高い水準であることから、今後もニーズは継続していくものと考えられる。</p> <p>・希望者に対しては採血を前日に行うことで利用時間の短縮を図る取組を行っている。センターを受診する患者およそ15%が実際に希望しており、効率的な運用が行われている。</p> <p>・移転後は、外来化学療法加算算定件数の増加による増収を見込んでおり、がん疾患患者に対する質の高い医療の提供と経営面との両立を図っている。</p>	4	1	☆																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																										
件数	10,509	11,171	11,680	12,159	12,707	12,000以上	12,660																																																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																															
						説明																																																				
			32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<table border="1"> <tr> <td colspan="8">緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>389</td> <td>418</td> <td>527</td> <td>482</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td colspan="8">緩和ケア診療加算算定件数 (単位:件)</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>812</td> <td>5,249</td> <td>4,417</td> <td></td> </tr> </table>	緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)								区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度		症例数	403	372	389	418	527	482		緩和ケア診療加算算定件数 (単位:件)								区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度		件数	—	—	—	812	5,249	4,417		<p>平成30年7月に新設された地域がん診療連携拠点病院(高度型)の申請に向け、指定要件となる緩和医療に係る体制強化に取り組んだ。緩和医療科医師1名(平成30年12月)の着任により、平成31年2月に緩和ケア診療加算の施設基準を取得し、緩和ケア診療加算の算定を開始した。さらに、精神科医師1名(平成31年4月)が着任、令和元年9月に緩和ケアセンター(緩和ケアチーム)を新たに組織し、院内における緩和医療の提供体制を充実させるとともに、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んだ。</p> <p>令和2年3月27日、県内初の地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。</p> <p>令和2年度は、患者の社会復帰を支援するため、中部地区では初めてハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携により、院内に就労支援出張相談窓口を設置した。通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。</p> <p>令和2年度の緩和ケアチーム介入症例数及び緩和ケア診療加算算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者の減少に伴い、令和元年度実績を下回ったが、入院患者に対する算定割合等は昨年度並みの高い水準となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階からの必要性が認識されている。</li> <li>・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医師と専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。</li> <li>・令和元年度の精神科医師の着任により活動が活発化し、令和2年度は精神科医2人体制において、診療加算算定件数は4,417件と引き続き高い実績を維持している。</li> <li>・同様に、対象患者に対する緩和ケアチームの介入割合は、令和元年度50.7%に対して、令和2年度は51.5%と引き続き高い水準を維持している。</li> <li>・また、令和2年度は院内にハローワーク静岡等による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中または入院中の患者に対して無料の就労相談を開始している。</li> <li>・就労相談の対象は主にがん疾患患者が中心であり、がん疾患患者は術後も抗がん剤治療に伴う通院や経過観察が長期にわたって必要となるため、会社での通常勤務が困難となる背景がある。</li> <li>・そうした患者への就労相談により、社会復帰支援体制を強化している。</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院(高度型)として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。</li> </ul>	4		☆
緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																				
症例数	403	372	389	418	527	482																																																				
緩和ケア診療加算算定件数 (単位:件)																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																				
件数	—	—	—	812	5,249	4,417																																																				
			33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<table border="1"> <tr> <td colspan="8">がん相談件数 (単位:件)</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん相談</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>5,896</td> <td>4,374</td> <td>4,742</td> <td>4,458</td> <td></td> </tr> </table>	がん相談件数 (単位:件)								区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度		がん相談	3,065	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458		<p>がん相談支援センターにおいて、がんに関する専門資格を有する看護師を中心に対面及び電話による相談を実施した。</p> <p>令和2年度のがん相談件数は、新型コロナウイルス感染症による外来患者数の減少等の影響により、令和元年度の数値を284件下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員2名(専従1名・専任1名)を配置している。その他、がん看護専門看護師1名(専任)、緩和ケア認定看護師1名(専任)、がん化学療法認定看護師1名(専任)、乳がん認定看護師2名(専任)が外来、病棟において相談業務を行っており、がん疾患患者が相談しやすい体制が確保されている。</li> </ul>																											
がん相談件数 (単位:件)																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																				
がん相談	3,065	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																														
						説明																																																																			
			34	④ロボット支援手術の件数増加に努める	<p>ダ・ヴィンチ使用手術件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>77</td> <td>102</td> <td>122</td> <td>112</td> <td>104</td> <td>—</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>—</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>—</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>83</td> <td>70</td> <td>—</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>心臓血管外科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>81</td> <td>112</td> <td>156</td> <td>213</td> <td>199</td> <td>200以上</td> <td>243</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダ・ヴィンチ使用術者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	泌尿器科	77	102	122	112	104	—	135	婦人科	4	1	4	18	25	—	23	消化器外科	—	9	30	83	70	—	82	心臓血管外科	—	—	—	—	—	—	3	計	81	112	156	213	199	200以上	243	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	人数	6	6	7	11	12	16	S	<p>ダ・ヴィンチ使用手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。</p> <p>令和2年度は、新たに心臓血管外科におけるダ・ヴィンチ使用手術(僧帽弁形成術)を開始した。これは県内で唯一の認定機関である。</p> <p>令和2年度のダ・ヴィンチ使用手術件数は、令和元年度実績及び令和2年度目標値を上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年12月にダ・ヴィンチを導入以降、先端医学棟への追加整備を経て、2台体制により運用している。</li> <li>平成30年度に、麻酔科医を5人増員して以降、対応領域も、泌尿器科、婦人科、消化器外科へと順次拡大してきており、令和2年度は、心臓血管外科におけるダ・ヴィンチ手術を開始している。</li> <li>ダ・ヴィンチ使用手術件数は増加傾向であり、令和2年度は243件と目標値を上回り、令和元年度199件に対して大幅に増加している。</li> <li>ダ・ヴィンチ使用術者数についても、令和元年度より4人増加させており、高度な専門的医療の提供体制が拡充されている。</li> <li>ダ・ヴィンチ手術は低侵襲というメリットがある一方、必要となる消耗品や機器の保守費用等が現在の診療報酬では賄いきれないという課題もあり、適用症例を手術部において慎重に見極めた上で実施している。</li> <li>令和2年度病床機能報告によると、県内のダ・ヴィンチ配備は11病院であり、以前より増加はしているものの、依然として、総合病院の担うべき役割は大きい。</li> <li>県内の医療水準の維持向上の観点から、経営面とのバランスを図りつつも、高度医療提供の使命を果たしていくことが重要である。</li> </ul>	4	1	☆
診療科	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																		
泌尿器科	77	102	122	112	104	—	135																																																																		
婦人科	4	1	4	18	25	—	23																																																																		
消化器外科	—	9	30	83	70	—	82																																																																		
心臓血管外科	—	—	—	—	—	—	3																																																																		
計	81	112	156	213	199	200以上	243																																																																		
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																			
人数	6	6	7	11	12	16																																																																			
			No.20 35	・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	<p>精神科医師の着任により、令和元年7月に精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームを発足させ、認知症ケアチームと協働しながら活動を行う医療提供体制を整備した。</p> <p>また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)の整備に関する基本計画の策定を行った。</p>	A	<p>令和元年7月に精神科リエゾンチームの施設基準を取得し、活動を開始した。令和2年度には、精神科病棟の整備に関する基本計画の策定を行った。</p> <p>今後、具体的な設計業務に着手する予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神科リエゾンチームは、身体の病気で入院中の患者の不安、不眠、抑うつ、せん妄等の精神症状や心理的な問題に対し適切なサポートが行えるよう、精神科医、認知看護認定看護師、薬剤師が主治医と連携しながら活動している。</li> <li>高齢化による認知症や精神疾患を患った身体合併症の増加に対応するため、精神科病棟の整備を計画している。</li> <li>精神科外来・精神科病棟の整備に際しては、機構3病院の連携体制の強化も踏まえ、検討していくことが重要である。</li> </ul>																																																																	
			36	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	<p>先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する</p> <p>①No.29 ②No.30</p> <p>手術件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,115</td> <td>9,327</td> <td>9,814</td> <td>9,400以上</td> <td>9,126</td> </tr> </tbody> </table> <p>HCU延患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> <td>6,872</td> <td>6,426</td> <td>5,569</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	手術件数	8,375	8,536	9,115	9,327	9,814	9,400以上	9,126	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	人数	3,308	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	B	<p>令和2年度の手術件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度実績及び令和2年度目標値を下回った。それに伴い、HCU延患者数についても入室対象となる手術が減少したため、令和元年度実績を下回った。</p> <p>今後も手術室との一体的かつ効率的な運用に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を含む22室の手術室、20床のHCU病床を備えた先端医学棟の稼働以降、手術待ちの状況はほぼ解消されており、平成29年度以降、手術件数は年々増加していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による紹介患者数の減少等により、令和元年度より手術件数は減少し、また、目標値も下回っている。</li> <li>心臓血管外科における全身麻酔下での手術件数の増加により、手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つHCUの利用も年々増加していたが、同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、HCU延患者数は令和元年度実績より減少している。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響によって入院患者数が減少していることから、手術件数の減少はやむを得ないものであり、必要な治療については、適切に対応している。新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えて、麻酔科医等の医師確保には継続して取り組むことが期待される。</li> </ul>	5	1	○																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																		
手術件数	8,375	8,536	9,115	9,327	9,814	9,400以上	9,126																																																																		
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																			
人数	3,308	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																													
						説明																																																																																		
	<p>・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。</p>	<p>○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実</p>	37	<p>①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。</p>	<p>医師の変則勤務試行状況 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,722</td> <td>1,717</td> <td>1,784</td> <td>1,893</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>889</td> <td>966</td> <td>1,047</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.6</td> <td>56.3</td> <td>58.7</td> <td>64.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	該当者(人)	1,444	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	利用者(人)	935	961	889	966	1,047	1,224	利用率(%)	64.7	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	A	<p>救急患者の円滑な受入体制を維持するため、救急当直体制の運用見直し等を実施するとともに、救命救急科医師の確保に努めている。</p>	<p>・平成25年から救命救急センターとして、平成27年からは広範囲熱傷などの重篤な救急患者の受入れを行う高度救命救急センターが稼動しており、県内全域からの患者を24時間体制で受け入れる三次救急医療機関として、高度救急医療を提供している。 ・当直明けに休めるよう、救急科医師の変則勤務制の施行を継続しており、対象者の半数以上が利用している。 ・令和6年度からは、国が進める働き方改革の一環として、医師の時間外労働規制が開始され、救急医療実績の多い「地域医療確保暫定特例水準」適用の医療機関であっても、1人年間1,860時間を上限とした救急医療体制の構築が必要となる。 ・各診療科との調整による救急当直体制の運用見直しにも引き続き取り組んでいるが、令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医師確保と勤務環境改善のための制度構築や運用面の工夫が期待される。</p>	6		○																																																	
区分					27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																														
該当者(人)					1,444	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893																																																																														
利用者(人)	935	961	889	966	1,047	1,224																																																																																		
利用率(%)	64.7	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7																																																																																		
	<p>・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。</p>	<p>○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度の向上</p>	38	<p>③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。</p>	<p>救急科医師9名体制で稼働</p> <p>救急車受入率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>97.1</td> <td>90.9</td> <td>87.7</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td>97.4</td> <td>92.3</td> <td>92.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>特殊疾病患者受入数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>378</td> <td>380</td> <td>431</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>30</td> <td>46</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>186</td> <td>174</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>608</td> <td>611</td> <td>667</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー出動状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	当番日	97.1	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	全日	93.0	93.1	94.9	97.4	92.3	92.5	疾病名	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	重症熱傷	14	12	12	14	11	9	重症外傷	368	446	539	378	380	431	急性中毒	18	18	18	30	46	26	病院外心停止	210	207	207	186	174	201	計	610	683	776	608	611	667	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	件数	4	7	10	12	12	8	A	<p>救急科医師数は前年度から変わっていない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和2年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度実績を下回った。一方、特殊疾患患者受入数は、令和元年度実績を上回っており、高度救命救急センターとしての機能を果たした。 ・救急患者数 令和2年度 10,569人 前年度比▲2,313人 ・救急車受入件数 令和2年度 5,073件 前年度比▲480件 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和2年度の出動件数は、令和元年度実績を下回った。</p>	<p>・静岡医療圏の救急医療体制である輪番制に参加しており、内科・外科で月7回程度、小児科で月4回程度、年間延べ210日を超える当番日当直に対応している。 ・救急車受入率は令和元年度と同程度の水準であり、軽症患者については他の二次救急病院で対応するケースが増えるなど、地域医療機関との役割分担のもと、三次救急である高度救命救急センターとしての機能発揮ができています。 ・救急科医師の体制は、平成25年度の5人体制から、令和2年度は9人体制へと強化されてきているが、医師の負担軽減を考慮すると、救急科医師はまだ充足状態ではない。 ・医師の時間外労働規制については、令和6年度からは、原則として年間960時間が上限とされ、救急医療実績の多い「地域医療確保暫定特例水準」適用の医療機関であっても、年間1,860時間が上限となる。 ・その先を見据えれば、国は、特例水準の適用を、都道府県単位での医師の地域偏在解消目標年度である令和17年度末で終了し、原則である960時間に収斂していくことを目標としている。 ・これらを踏まえ、長期的な視野のもと、県立病院としての医療提供の使命とのバランスを図りつつ、救急医療体制を担う医師の確保・養成、働き方や勤務環境の改善に努めていくことが期待される。</p>	6		○
区分					27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																														
当番日					97.1	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7																																																																														
全日	93.0	93.1	94.9	97.4	92.3	92.5																																																																																		
疾病名	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																		
重症熱傷	14	12	12	14	11	9																																																																																		
重症外傷	368	446	539	378	380	431																																																																																		
急性中毒	18	18	18	30	46	26																																																																																		
病院外心停止	210	207	207	186	174	201																																																																																		
計	610	683	776	608	611	667																																																																																		
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																		
件数	4	7	10	12	12	8																																																																																		
	<p>【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)</p>	<p>【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ダヴィンチ使用手術件数(総合)</p>	39	<p>①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8</p>	<p>・病床稼働率</p> <p>病床稼働率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般病棟</td> <td>90.3</td> <td>90.4</td> <td>93.5</td> <td>93.9</td> <td>91.1</td> <td>90以上</td> <td>84.8</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>81.0</td> <td>86.1</td> <td>89.5</td> <td>89.8</td> <td>86.6</td> <td></td> <td>80.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	一般病棟	90.3	90.4	93.5	93.9	91.1	90以上	84.8	全体	81.0	86.1	89.5	89.8	86.6		80.7	B	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟として運用した。その結果、一般病床稼働率は84.8%と目標値90%を下回った。なお、新型コロナウイルス感染症専門病棟を除く一般病床稼働率は88.7%となっている。 今後、院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図る。</p>	<p>紹介患者数の減少や新型コロナウイルス感染症専用病床確保等により、一般病床の稼働率は低下しており、令和2年度は中期目標で指示した目標値を下回っている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による目標値未達成はやむを得ないが、引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。</p>	3	1	△																																																					
区分					27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																													
一般病棟					90.3	90.4	93.5	93.9	91.1	90以上	84.8																																																																													
全体	81.0	86.1	89.5	89.8	86.6		80.7																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																															
						説明																																																				
	県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 40,322人 入院患者 55,498人	40	—	入院・外来患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>53,620</td> <td>56,906</td> <td>55,144</td> <td>57,217</td> <td>54,037</td> <td>55,498</td> <td>53,246</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>39,691</td> <td>40,756</td> <td>41,140</td> <td>42,454</td> <td>39,647</td> <td>40,322</td> <td>37,285</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	入院患者数	53,620	56,906	55,144	57,217	54,037	55,498	53,246	外来患者数	39,691	40,756	41,140	42,454	39,647	40,322	37,285	南1病棟の一部個室を推進し、救急・急性期患者の後方病棟としての機能強化を図ってきたが、令和2年度は新型コロナウイルス陽性患者の受入れ病床として一部転用したため、新規患者の受入れが難しくなったこともあり、入院患者数は前年度より減少した。 外来患者数は、感染症拡大防止の観点から、電話による再診に取り組んだものの、長期処方にも努め受診間隔を空けたことや、デイケアの活動を一時休止したことが影響し、昨年度を下回った。 引き続き、感染症対策を講じながら、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。	県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供している。 県内全域の精神科医療ニーズに適切に対応しているが、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保や、外来患者に対する感染リスク軽減を目的とした長期投与により、入院・外来患者数は目標値を下回っている。	7	1	○																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																			
入院患者数	53,620	56,906	55,144	57,217	54,037	55,498	53,246																																																			
外来患者数	39,691	40,756	41,140	42,454	39,647	40,322	37,285																																																			
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者が常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受け入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 当センター広報誌「ぬくもり」への掲載を不定期から年4回(季刊)に変更、配布先に就労支援施設を追加等、広報活動の強化に努めた。 当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。 精神科救急ダイヤル件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>4,174</td> <td>3,956</td> <td>3,020</td> <td>2,718</td> <td>3,957</td> <td>3,649</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>3,174</td> <td>2,082</td> <td>2,365</td> <td>1,482</td> <td>2,153</td> <td>2,678</td> </tr> </tbody> </table> 時間外における救急診療件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>270</td> <td>331</td> <td>390</td> <td>300以上</td> <td>335</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	全相談件数	4,174	3,956	3,020	2,718	3,957	3,649	うち時間外	3,174	2,082	2,365	1,482	2,153	2,678	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	件数	-	-	270	331	390	300以上	335	救急ダイヤルの相談件数は減少したものの、そのうち時間外相談は増加しており、24時間体制としてしっかりと機能を発揮している。利用向上に当たっては、ホームページを充実し、「精神科救急ダイヤル」の周知に努めた。 引き続き、入院患者の早期退院・社会復帰できるように精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めていく。	・県からこころの医療センターへの業務委託により実施されている、精神科救急ダイヤルは、24時間体制で「よろず相談スタッフ」に一元化されており、精神保健福祉士等15人がローテーションを組んで運用している。 ・相談件数は、特定の患者からの相談が集中すること等の理由で、年度により増減がある。 ・相談内容への的確な対応や、新患予約の迅速化などの効果のほかにも、外来看護師が他院での対応が困難な支援度が高い通院患者へのケアに集中できるようになるなど、外来業務の充実にも寄与している。 ・広報誌やホームページを通じた広報にも努めており、県民への更なる周知が期待される。	7	1	○											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																				
全相談件数	4,174	3,956	3,020	2,718	3,957	3,649																																																				
うち時間外	3,174	2,082	2,365	1,482	2,153	2,678																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																			
件数	-	-	270	331	390	300以上	335																																																			
			42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 新規患者率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>40%以上</td> <td>71.8</td> <td>79.2</td> <td>72.6</td> <td>71.3</td> <td>73.4</td> <td>61.7</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>40%以上</td> <td>68.6</td> <td>76.4</td> <td>74.7</td> <td>72.4</td> <td>64.8</td> <td>60.8</td> </tr> </tbody> </table> 新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>60%以上</td> <td>69.9</td> <td>81.2</td> <td>72.9</td> <td>73.0</td> <td>78.7</td> <td>89.4</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>60%以上</td> <td>85.5</td> <td>82.3</td> <td>87.4</td> <td>85.4</td> <td>79.7</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	救急 南2	40%以上	71.8	79.2	72.6	71.3	73.4	61.7	救急 北2	40%以上	68.6	76.4	74.7	72.4	64.8	60.8	区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	救急 南2	60%以上	69.9	81.2	72.9	73.0	78.7	89.4	救急 北2	60%以上	85.5	82.3	87.4	85.4	79.7	86.7	新規入院患者が90日以内に退院できるよう早期退院を促進するとともに、退院後の地域定着支援を実施している。令和2年度の新規患者3ヶ月以内在宅移行率は増加し、救急病棟や急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。	・通常の入院医療と比べて多くのマンパワーと厳しい算定基準が課される精神科救急入院料を算定する南2(43床)・北2(45床)病棟においては、算定基準である新規患者率40%以上、新規患者3ヶ月以内在宅移行率60%を大幅に上回る水準となっており、再入院等の課題はあるものの、引き続き早期退院の促進が期待される。 ・第2期中期目標期間中に、個室での対応が望ましい患者の精神科救急からの転棟をスムーズにするため、一部病室の個室化を実施しており、患者の療養環境の向上だけでなく、稼働病床率の上昇や入院単価の増加など、経営面でも寄与している。			
区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																			
救急 南2	40%以上	71.8	79.2	72.6	71.3	73.4	61.7																																																			
救急 北2	40%以上	68.6	76.4	74.7	72.4	64.8	60.8																																																			
区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																			
救急 南2	60%以上	69.9	81.2	72.9	73.0	78.7	89.4																																																			
救急 北2	60%以上	85.5	82.3	87.4	85.4	79.7	86.7																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																
						説明	県評価																																																																			
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	<p>m-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。</p> <p>m-ECT実施件数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>596</td> <td>605</td> <td>693</td> <td>832</td> <td>870</td> <td>700以上</td> <td>737</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>66</td> <td>70</td> <td>-</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>-</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>43</td> <td>50</td> <td>-</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	延件数(件)	596	605	693	832	870	700以上	737	実患者数	53	54	60	66	70	-	59	中部地区	47	51	54	58	62	-	53	(静岡市)	32	43	40	43	50	-	45	東部地区	4	2	3	3	5	-	3	西部地区	1	1	3	4	2	-	1	その他	1	0	0	1	1	-	0	<p>難治性の重度精神疾患患者への先進的治療であるm-ECTについては、他の医療機関では提供することが難しい治療方法として当院の特徴の一つに掲げ、ホームページや広報誌等に紹介し、対応困難な患者を積極的に受け入れている。</p> <p>なお、m-ECTの実施に必要な麻酔科医については、外部の医師に委託し、適切に実施している。</p>	<p>・m-ECT(修正型電気けいれん療法)は、頭部への電気刺激により、脳内に治療的影響を与える治療法である。麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせない従来より安全・有効な治療法であり、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられている。</p> <p>・m-ECT実施件数について、令和2年度は737件と目標値を上回る高い実績を維持しており、他では対応困難な患者を積極的に受け入れている。</p> <p>・m-ECTの実施にあたっては、麻酔科医の確保が必要となるが、対応可能な麻酔科医は全国的にも少なく、機構内部での確保が困難であるため、現状は外部の麻酔科医の協力に対応しており、引き続き安定した実施体制の確保が期待される。</p>	7	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																			
延件数(件)	596	605	693	832	870	700以上	737																																																																			
実患者数	53	54	60	66	70	-	59																																																																			
中部地区	47	51	54	58	62	-	53																																																																			
(静岡市)	32	43	40	43	50	-	45																																																																			
東部地区	4	2	3	3	5	-	3																																																																			
西部地区	1	1	3	4	2	-	1																																																																			
その他	1	0	0	1	1	-	0																																																																			
			44	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	<p>平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、現在65名に対して継続投与中である。</p> <p>クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザリル適正使用委員会において、CPMS(クロザリル患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。</p> <p>静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <p>クロザピン投与患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>32</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>53以上</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table>	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	患者数	32	39	44	55	60	53以上	65	<p>クロザピン治療については、難治性の統合失調症に高い効果を示すことから、他の医療機関では提供することが難しい治療方法として当院の特徴の一つに掲げ、ホームページや広報誌に紹介し、積極的に実施している。令和2年度は前年度より5人増加の65人となり、年度目標を大きく上回っている。また、実施にあたっては、院内で患者の副作用のモニタリングを行い薬品の適正使用に取組み、治療効果と安全性の向上に努めた。県立総合病院において精神科病床が設置された後には、血液内科との連携も検討していく。</p>	<p>・クロザピンは、難治性の統合失調症に高い効果を示す抗精神病薬である。</p> <p>・平成21年に発売開始されたが、高い治療効果の反面、白血球の減少といった重篤な副作用が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられており、適正使用委員会の事前承認を受け、施設登録された機関のみが使用できる。</p> <p>・登録の要件として、精神科病床を有する医療機関の血液内科医との連携が求められていることから、静岡市立静岡病院と緊急時の連携体制を構築している。</p> <p>・令和2年度診療報酬改定における算定要件の見直し等によってクロザピンの普及促進が図られたことにより、クロザピン投与患者数は令和元年度実績を上回り、目標値を達成している。</p> <p>・使用患者に対しては、副作用のモニタリングを行い適正使用や安全管理体制の担保に努めている。</p>	7	1	○																																																
項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																			
患者数	32	39	44	55	60	53以上	65																																																																			
			45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	<p>平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。</p> <p>心理教育参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>230</td> <td>210</td> <td>154</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table> <p>心理教育研修会参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>66</td> <td>142</td> <td>155</td> <td>136</td> <td>66</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	参加者数	172	206	230	210	154	86	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	参加者数	66	142	155	136	66	35	<p>令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴って外部活動が縮小となったこともあり、研修参加者数は前年度に比べて減少となったものの、重要な取組みと位置づけ規模を縮小しつつも継続して実施に努めた。</p>	<p>・心理教育とは、病気に関する知識を提供し、地域で暮らしていく力量を身に付けさせ、医療機関での治療から精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行われる支援法である。</p> <p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために外部活動を縮小した影響で、心理教育参加者数・心理教育研修会参加者数はともに減少している。</p> <p>・院内研修会の継続的開催や院内推進委員会の毎月開催等により従事者の理解促進・スキルアップを図っている。</p>																																							
項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																				
参加者数	172	206	230	210	154	86																																																																				
項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																				
参加者数	66	142	155	136	66	35																																																																				
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<p>平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ25名の支援活動を実施し、うち13名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、2名は転院により支援終了、2名は死亡により終了。令和2年度末現在、外来患者4名、入院患者1名の支援を継続している。</p> <p>ACT実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">対象者</td> <td>外来</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>11人</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動状況</td> <td>外来</td> <td colspan="5">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="5">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	対象者	外来	5人	7人	9人	11人	4	入院	2人	0人	0人	0人	2	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス					入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス					<p>ACTチームによる退院支援と手厚いサポート体制による、退院後の生活支援を行っており、地域移行の促進や症状の安定化等により支援が完了し、支援対象者は減少している。</p> <p>なお、ACTによる支援対象者については、毎月開催している退院促進委員会において支援対象者を抽出している。今後も個々のニーズに合わせた支援を検討し、実施につなげていく。</p>	<p>・「入院医療中心から地域生活中心へ」の方針のもと、在宅医療支援部門を強化し、医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等からなる包括型地域生活支援プログラム(ACT)チームが地域生活での支援体制の整備と長期入院患者の退院促進に取り組む、社会復帰を後押ししている。</p> <p>・診療報酬や職員充足の課題はあるが、ACT対象患者は長期にわたり安定した地域生活を送ることができており、支援終了事例も、多く表れてきている。</p> <p>・対象となる新規ケースの減少に対して、毎月、退院促進委員会で支援対象者の抽出を行うなど、患者のニーズに合わせた支援が行われている。</p> <p>・診療報酬上、精神科訪問看護の評価が活動に見合っていないと、また医師等の人員体制の整備が難しい等の課題はあるが、支援体制を維持していくことが期待される。</p>	8		○																															
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																				
対象者	外来	5人	7人	9人	11人	4																																																																				
	入院	2人	0人	0人	0人	2																																																																				
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																								
	入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																				
						説明	県評価																							
	<p>・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与</p>	47	<p>①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。</p>	<p>令和2年度は1名の新規入院があり、7月以降は満床となったことから、90%を超える高い利用率を維持している。</p> <table border="1"> <caption>医療観察法病棟の稼働状況 (単位:床・%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>97.4</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>96.0</td> <td>84.1</td> <td>98.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	97.4	99.1	96.9	96.0	84.1	98.2	A	<p>令和2年4月から6月下旬までは、県内に対象患者がいなかったことから1床が空床となっていたが、県外の対象患者について積極的に国の要請に応じた受け入れをした結果、7月以降はほぼ満床の状態が継続し、98.2%と高い利用率となった。</p> <p>また、医療観察法に必要な知識・技術の習得に努め、法に沿って確実に業務に取り組むことが必要であることから、職員に対する研修を行い、機能強化に取り組んでいる。</p>	9	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																								
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																								
病床利用率(%)	97.4	99.1	96.9	96.0	84.1	98.2																								
	<p>・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。</p>	<p>○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び、小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組</p>	48	<p>①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・小児から成人への移行期における精神科医療の提供体制の整備を図る。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。 思春期病棟の整備については、3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえて協議していく。</p>	A	<p>総合病院の精神科医が2名体制となり、リエゾン機能がより強化された。</p> <p>喫緊の課題となっている小児から成人への移行期における医療提供体制のあり方については、今後、県の開催する「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」の検討を踏まえ、県立3病院における精神科医療のあり方を検討、医療提供体制の整備に取り組んでいく。</p>	16	○																					
	<p>・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。</p>	<p>○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①思春期病棟の整備に向けた検討 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度の向上</p>	49	<p>①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8</p>	<p>病床稼働率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>83.9</td> <td>90.6</td> <td>87.9</td> <td>91.1</td> <td>85.8</td> <td>85以上</td> <td>84.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	稼働率	83.9	90.6	87.9	91.1	85.8	85以上	84.8	B	<p>新型コロナウイルス感染症患者受入のために病床を確保したことや退院後の受け入れ調整が困難であったことの影響により、目標値を若干下回る結果となった。なお、コロナ病床を除く稼働率は86.7%であった。</p> <p>今後、院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図る。</p>	7	1	△				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																							
稼働率	83.9	90.6	87.9	91.1	85.8	85以上	84.8																							
	<p>【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)</p>	<p>【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m-ECT実施件数(こころ)</p>	-	-	-	-	-	-	-	-	-																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																																																												
						説明	県評価																																																																																																																																															
	県立こども病院	(9) 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取組む。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 113,916人 入院患者 77,212人	50	—	入院・外来患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>78,059</td> <td>77,860</td> <td>75,586</td> <td>75,395</td> <td>75,736</td> <td>77,212</td> <td>65,681</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>103,282</td> <td>104,666</td> <td>105,763</td> <td>110,185</td> <td>111,874</td> <td>113,916</td> <td>103,773</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	入院患者数	78,059	77,860	75,586	75,395	75,736	77,212	65,681	外来患者数	103,282	104,666	105,763	110,185	111,874	113,916	103,773	B	新型コロナウイルス感染症による影響から、患者数は目標を下回った。県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めている。	10	1	○																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																																															
入院患者数	78,059	77,860	75,586	75,395	75,736	77,212	65,681																																																																																																																																															
外来患者数	103,282	104,666	105,763	110,185	111,874	113,916	103,773																																																																																																																																															
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)、新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管造影装置の2台化による循環器治療の提供体制の充実	51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小児集中治療科(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル室の2室化工事の実施。	心臓カテーテル治療実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>156</td> <td>170</td> <td>200</td> <td>179</td> <td>206</td> <td>200以上</td> <td>192</td> </tr> </tbody> </table> ハイブリッド手術実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> CCU稼働率 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,745</td> <td>3,297</td> <td>2,939</td> <td>3,063</td> <td>3,176</td> <td>3,021</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>85.3</td> <td>87.4</td> <td>80.5</td> <td>83.9</td> <td>86.8</td> <td>82.8</td> </tr> </tbody> </table> 循環器センターにおける研修医の人数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> 小児用補助人工心臓装置の使用状況 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	実施件数	156	170	200	179	206	200以上	192	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	件数	12	12	6	8	5	8	8	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	3,745	3,297	2,939	3,063	3,176	3,021	病床稼働率	85.3	87.4	80.5	83.9	86.8	82.8	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	人数	7	7	6	5	9	7	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	件数	-	1	1	1	0	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	症例数	7	5	7	5	3	0	B	心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。 また、研修医も着実に受け入れており、小児心疾患治療の先導的施設として、高度な循環器疾患医療の専門医の育成にも努めている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で紹介患者の減少や手術を抑制したことにより、ハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療は目標件数を下回ったほか、補助人工心臓装置や心エコー画像の遠隔診断については、実績がなかった。 例年カテーテル治療件数が高い水準で推移しているため、カテーテル室の増室を予定していたが、新型コロナウイルスの影響等もあり、工事を延期している。 なお、今後は、質の高い診療や診療報酬の増収を目指し、PICUとCCUの統合等も検討していく。	10	1	○																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																																															
実施件数	156	170	200	179	206	200以上	192																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																																															
件数	12	12	6	8	5	8	8																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
入院延患者数	3,745	3,297	2,939	3,063	3,176	3,021																																																																																																																																																
病床稼働率	85.3	87.4	80.5	83.9	86.8	82.8																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
人数	7	7	6	5	9	7																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
件数	-	1	1	1	0	0																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
症例数	7	5	7	5	3	0																																																																																																																																																
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	52	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	産科入院患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>7,024</td> <td>6,207</td> <td>6,395</td> <td>5,850</td> <td>5,810</td> <td>4,461</td> </tr> </tbody> </table> 周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位:回、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>743</td> <td>637</td> <td>439</td> <td>373</td> <td>377</td> <td>255</td> </tr> </tbody> </table> NICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,927</td> <td>6,411</td> <td>6,311</td> <td>5,519</td> <td>5,250</td> <td>5,029</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.3</td> <td>97.6</td> <td>96.1</td> <td>84.0</td> <td>79.7</td> <td>76.5</td> </tr> </tbody> </table> GCU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>4,679</td> <td>4,855</td> <td>4,536</td> <td>4,646</td> <td>4,723</td> <td>4,685</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>69.0</td> <td>70.7</td> <td>71.7</td> <td>71.3</td> </tr> </tbody> </table> MFICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,098</td> <td>2,007</td> <td>2,068</td> <td>1,879</td> <td>1,907</td> <td>1,517</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.5</td> <td>91.6</td> <td>94.4</td> <td>85.8</td> <td>86.8</td> <td>69.3</td> </tr> </tbody> </table> 新生児出生体重別入院患者実績 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>体重(g)</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500未満</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>41</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>36</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>160</td> <td>144</td> <td>143</td> <td>165</td> <td>139</td> <td>168</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>225</td> <td>209</td> <td>202</td> <td>224</td> <td>213</td> <td>219</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院患者数	7,024	6,207	6,395	5,850	5,810	4,461	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	研修会等回数	14	10	9	8	9	8	参加者数	743	637	439	373	377	255	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	5,927	6,411	6,311	5,519	5,250	5,029	病床稼働率	95.3	97.6	96.1	84.0	79.7	76.5	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	4,679	4,855	4,536	4,646	4,723	4,685	病床稼働率	71.0	73.9	69.0	70.7	71.7	71.3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	2,098	2,007	2,068	1,879	1,907	1,517	病床稼働率	95.5	91.6	94.4	85.8	86.8	69.3	体重(g)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	500未満	3	7	3	4	8	4	500~1,000	26	36	28	29	41	19	1,000~1,500	36	22	28	26	25	28	1,500以上	160	144	143	165	139	168	合計	225	209	202	224	213	219	A	最新式の超音波診断装置など最先端の機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行っている。当院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れており、静岡県中部の周産期医療の拠点として、重症新生児(超早産児、重症新生児仮死、外科手術を要する先天性疾患等)は、ほぼ全て当院にて治療している。また例年、地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は参加者数が減少した。 NICUの入院延患者数は一定の水準にある。稼働が減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響と、これまで特定入院料の算定期間を超えてNICUで治療していた長期入院患者を転棟させることで、病床稼働の効率化を図ったためである。	11		○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
入院患者数	7,024	6,207	6,395	5,850	5,810	4,461																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
研修会等回数	14	10	9	8	9	8																																																																																																																																																
参加者数	743	637	439	373	377	255																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
入院延患者数	5,927	6,411	6,311	5,519	5,250	5,029																																																																																																																																																
病床稼働率	95.3	97.6	96.1	84.0	79.7	76.5																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
入院延患者数	4,679	4,855	4,536	4,646	4,723	4,685																																																																																																																																																
病床稼働率	71.0	73.9	69.0	70.7	71.7	71.3																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
入院延患者数	2,098	2,007	2,068	1,879	1,907	1,517																																																																																																																																																
病床稼働率	95.5	91.6	94.4	85.8	86.8	69.3																																																																																																																																																
体重(g)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																
500未満	3	7	3	4	8	4																																																																																																																																																
500~1,000	26	36	28	29	41	19																																																																																																																																																
1,000~1,500	36	22	28	26	25	28																																																																																																																																																
1,500以上	160	144	143	165	139	168																																																																																																																																																
合計	225	209	202	224	213	219																																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																																																					
						説明	県評価																																																																																																																																								
	<p>・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組</p> <p>①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピオンの受入れなど、がん診療の機能強化</p> <p>②院内がん登録の推進</p> <p>③県立静岡がんセンターとの連携強化</p> <p>④AYA世代がん診療の連携等を推進</p> <p>⑤関係機関と連携してがん公開講座等の開催</p> <p>⑥病室のクリーン度アップや、AYA対応室の設置等北5病棟の改修</p>	53	<p>①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。</p> <p>①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、小児がん診療の更なる充実を図る。</p> <p>③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。</p> <p>④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。</p> <p>⑤がん公開講座を開催する。</p> <p>⑥北5病棟改修工事の実施計画を策定する。</p>	<p>血液腫瘍科延患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>9,613</td> <td>8,301</td> <td>7,977</td> <td>8,656</td> <td>7,849</td> <td>7,335</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,533</td> <td>3,691</td> <td>3,711</td> <td>3,601</td> <td>3,713</td> <td>3,298</td> </tr> </tbody> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>小児がん登録件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録件数</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>がんセンターとの共同カンファレンス回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>AYA世代がん研修会実施回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>がん公開講座件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>北5病棟改修にかかる打ち合わせ回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院	9,613	8,301	7,977	8,656	7,849	7,335	外来	3,533	3,691	3,711	3,601	3,713	3,298	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	骨髄移植	4	4	2	5	2	8	臍帯血	0	2	1	3	3	2	自家末梢血	8	5	7	4	4	1	同種末梢血	1	0	0	2	1	1	計	13	11	10	14	10	12	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	登録件数	46	61	58	47	56	55	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	2	3	2	3	3	7	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	-	-	1	1	4	2	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	件数	-	-	-	-	1	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	-	-	-	-	-	17	<p>小児がんは成人と比較して発症数の少なからず発見、診療が専門機関でない困難であり、こども病院は、平成31年4月の小児がん拠点病院の指定以降、小児がん相談室の設置、院内がん登録中級認定者の専任化等により体制整備に努めたほか、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催している。また、令和元年12月にはがんゲノム医療連携病院となり、がんゲノム医療についても取組を開始している。加えて、がんセンターとの共同カンファレンスの開催など他の小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に努めている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルスの影響によりがん公開講座は開催できなかったが、更なる体制整備の一環として、設備面で病室のクリーン度アップなど機能強化の検討を進めている。</p> <p>また、令和元年に県と協働して医療従事者向けに作成した「小児がん診断ハンドブック(静岡県版)」について、令和2年度は要望があった医療機関へ追加配布した。</p> <p>なお、AYA世代のがん患者特有の課題としては、高校生の教育支援や生殖医療等が挙げられる。教育支援については、静岡県がん診療連携協議会「小児・AYA世代がん部会」において行政機関と連携し検討しており、生殖医療については、生殖医療施設と連携して相互支援を行っている。今後もAYA世代がん患者への研修会実施等により、支援の拡充を図っていく。</p>	<p>小児がんは、15歳以下の小児に発生する悪性新生物であり、白血病や脳(脊髄)腫瘍等が多数を占める。</p> <p>・成人がんに多い臓器がんとは異なる疾患構成であることや、未分化で急速に進行する腫瘍が多いこと、発育途中であるが故の後年における合併症等が特徴であり、継続した治療、移行期医療が重要となる。</p> <p>・こども病院は、国の指定する小児がん拠点病院として、血液腫瘍に対する骨髄等の移植治療など小児がんに対する集学的な治療を行っており、小児がん登録件数は目標値を達成している。</p> <p>・思春期や若年成人期を指すAYA世代患者への生殖機能温存に向けた相談対応等を強化するため、医療従事者や患者家族等に対してAYA世代がんの治療方法をテーマとした研修会を開催した。新型コロナウイルスの影響で、令和2年度はがん公開講座を開催できていないが、小児がん拠点病院として、体制整備や医療水準の向上に取り組んでいる。</p> <p>・また、令和元年12月にがんゲノム医療連携指定病院となったことで、令和2年度はがん遺伝子パネル検査を開始し、2件の検査を実施している。</p> <p>・今後も、小児がん拠点病院として、院内がん登録中級認定者資格を有する専任職員の確保に努め、診療体制の整備、地域医療機関との連携、AYA世代の成人移行・長期フォローアップへの対応など、更なる機能強化を図ることが期待される。</p>	12	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
入院	9,613	8,301	7,977	8,656	7,849	7,335																																																																																																																																									
外来	3,533	3,691	3,711	3,601	3,713	3,298																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
骨髄移植	4	4	2	5	2	8																																																																																																																																									
臍帯血	0	2	1	3	3	2																																																																																																																																									
自家末梢血	8	5	7	4	4	1																																																																																																																																									
同種末梢血	1	0	0	2	1	1																																																																																																																																									
計	13	11	10	14	10	12																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
登録件数	46	61	58	47	56	55																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
回数	2	3	2	3	3	7																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
回数	-	-	1	1	4	2																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
件数	-	-	-	-	1	0																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
回数	-	-	-	-	-	17																																																																																																																																									
	<p>・重篤な小児救命救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。</p>	<p>○重篤な小児救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備</p> <p>①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充</p> <p>②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力</p> <p>③小児救急専門スタッフの教育の充実</p>	54	<p>①PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。</p> <p>①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。</p> <p>②院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。</p>	<p>小児救命救急センターの患者数 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>6,665</td> <td>5,508</td> <td>5,409</td> <td>5,661</td> <td>5,916</td> <td>3,619</td> </tr> </tbody> </table> <p>PICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,565</td> <td>2,462</td> <td>2,390</td> <td>2,539</td> <td>2,416</td> <td>2,083</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>87.6</td> <td>84.3</td> <td>81.8</td> <td>87.0</td> <td>82.5</td> <td>71.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>ER診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>1,716</td> <td>1,338</td> <td>1,299</td> <td>1,386</td> <td>1,695</td> <td>1,254</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>4,949</td> <td>4,170</td> <td>4,110</td> <td>4,275</td> <td>4,221</td> <td>2,365</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>45</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>41</td> <td>33</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー出動実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>291</td> <td>298</td> <td>268</td> <td>274</td> <td>291</td> <td>193</td> </tr> </tbody> </table> <p>PICU配置医師・看護師 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師(有期含む)</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>31</td> <td>30</td> <td>32</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	6,665	5,508	5,409	5,661	5,916	3,619	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	2,565	2,462	2,390	2,539	2,416	2,083	病床稼働率	87.6	84.3	81.8	87.0	82.5	71.3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院患者数	1,716	1,338	1,299	1,386	1,695	1,254	外来患者数	4,949	4,170	4,110	4,275	4,221	2,365	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	45	35	34	41	33	22	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	291	298	268	274	291	193	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	医師(有期含む)	12	9	11	8	9	8	看護師	31	30	32	30	29	33	<p>小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救命救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れている。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で患者数は減少した。</p> <p>ER開設以降、富士富士宮、志太榎原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。</p> <p>PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。</p>	<p>小児救命救急センターの指定を受けているPICU(小児集中治療室)と小児救命センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。</p> <p>・ドクターカー・ドクターヘリの出動・搬送は、交通事故による負傷、病態の急変による搬送などのほか、産科クリニック等で出生した重篤な状況の新生児のこども病院への搬送等での使用が多い。</p> <p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による、外出控えや感染症患者の減少により、小児救命救急センター患者数は大幅に減少しているが、重篤な小児救命救急患者を受け入れる体制が確保されている。</p> <p>・PICU内での循環器系疾患の研修機会の確保が難しいことが医師確保上の課題にもなっていたことから、マスタープラン(施設改修計画)と整合を図りつつICUの再編を検討することが求められる。</p> <p>・また医師の時間外労働規制が導入される令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医師確保と勤務環境改善のための制度・工夫の充実が求められる。</p>	13		○																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
入院延患者数	6,665	5,508	5,409	5,661	5,916	3,619																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
入院延患者数	2,565	2,462	2,390	2,539	2,416	2,083																																																																																																																																									
病床稼働率	87.6	84.3	81.8	87.0	82.5	71.3																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
入院患者数	1,716	1,338	1,299	1,386	1,695	1,254																																																																																																																																									
外来患者数	4,949	4,170	4,110	4,275	4,221	2,365																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
回数	45	35	34	41	33	22																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
回数	291	298	268	274	291	193																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
医師(有期含む)	12	9	11	8	9	8																																																																																																																																									
看護師	31	30	32	30	29	33																																																																																																																																									
			55	<p>②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急(消防)業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。</p>	<p>各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に参加しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。</p> <p>救急関係研修会等開催実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医療、救急医療関係者</td> <td>155</td> <td>150</td> <td>135</td> <td>161</td> <td>86</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>救急救命士再教育病院実習</td> <td>救急救命士</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	155	150	135	161	86	0	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	2	6	10	6	0	0	<p>例年、救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救命救急医療の質の向上を図っているものの、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。</p> <p>当該研修会等については、基本を習得した救急医療従事者に対する質の向上を図るものであるため、令和2年度の実施を見送ったことによる影響はすぐに発生するものではない。</p>	<p>・メディカルコントロール協議会は、救急現場から医療機関等へ搬送されるまでの間に救急隊員が行う応急処置等の質を保証するため、医学的見地から助言・指導・事後検証・再教育等の充実を図る体制である。</p> <p>・例年は地域のメディカルコントロール協議会に参加するほか、小児・救急医療関係者を対象とした研修を定期的に開催し、関係者のスキルアップに貢献しているが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、主催者の判断で開催中止となっている。</p> <p>・また、新型コロナウイルス感染症の影響により、小児救命救急研究会・救急救命士再教育病院実習ともに実施できず、評価すべき実績がないため、評価対象外としている。</p> <p>・本研修の実施見送りはやむを得ないものであり、中期目標で示した「高度な救急医療の充実」の進捗に直結して遅れが出るものではない。令和3年度以降については、新型コロナウイルスの状況を鑑みつつ、実施判断を行っていく必要がある。</p>																																																																																																																
区分	対象	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																								
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	155	150	135	161	86	0																																																																																																																																								
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	2	6	10	6	0	0																																																																																																																																								
	<p>・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。</p>	<p>○子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発揮</p> <p>①子どもの精神科専門病棟を有することも病院として、成人移行を見据え、総合病院、こころの医療センターとの連携体制強化</p> <p>②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実</p> <p>③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成</p>	56	<p>①児童精神科医療について、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の充実を図る。</p>	<p>こころの診療科診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>9,455</td> <td>10,086</td> <td>10,864</td> <td>10,011</td> <td>9,445</td> <td>7,890</td> </tr> <tr> <td>入院新患者数</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>57</td> <td>50</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>12,532</td> <td>12,311</td> <td>12,607</td> <td>12,376</td> <td>11,604</td> <td>11,416</td> </tr> <tr> <td>外来初診患者数</td> <td>492</td> <td>477</td> <td>502</td> <td>466</td> <td>514</td> <td>579</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころの診療科地域別患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>732</td> <td>755</td> <td>766</td> <td>779</td> <td>759</td> <td>744</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>1,094</td> <td>1,077</td> <td>1,157</td> <td>1,190</td> <td>1,227</td> <td>1,329</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>59</td> <td>56</td> <td>59</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,885</td> <td>1,896</td> <td>1,997</td> <td>2,035</td> <td>2,059</td> <td>2,142</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	入院延患者数	9,455	10,086	10,864	10,011	9,445	7,890	入院新患者数	54	54	58	57	50	63	外来延患者数	12,532	12,311	12,607	12,376	11,604	11,416	外来初診患者数	492	477	502	466	514	579	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	東部	732	755	766	779	759	744	中部	1,094	1,077	1,157	1,190	1,227	1,329	西部	52	54	59	56	59	56	県外	7	10	15	10	14	13	合計	1,885	1,896	1,997	2,035	2,059	2,142	<p>県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。</p> <p>こころの診療科では、入院、外来とも新規患者が増加するなど、児童精神科の中核病院としての役割を担っている。</p>	<p>・児童精神科医療に対して、児童精神科病棟(36床)において、外来から入院まで一貫した治療体制を整えている。</p> <p>・県内全域から患者を受け入れており、令和2年度は、こころの診療科における新規患者数は入院・外来ともに増加している。</p> <p>・患者家族の抵抗感が少ない受診体制の確立、専門スタッフによるきめ細やかな医療サービスの提供、急増する子どもの心の問題に関する地域連携の強化に取り組んでいる。</p>																																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
入院延患者数	9,455	10,086	10,864	10,011	9,445	7,890																																																																																																																																									
入院新患者数	54	54	58	57	50	63																																																																																																																																									
外来延患者数	12,532	12,311	12,607	12,376	11,604	11,416																																																																																																																																									
外来初診患者数	492	477	502	466	514	579																																																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																									
東部	732	755	766	779	759	744																																																																																																																																									
中部	1,094	1,077	1,157	1,190	1,227	1,329																																																																																																																																									
西部	52	54	59	56	59	56																																																																																																																																									
県外	7	10	15	10	14	13																																																																																																																																									
合計	1,885	1,896	1,997	2,035	2,059	2,142																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																						
						説明																																																											
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県拠点病院として参加する。	<p>事業を行っている全国18都府県1政令指定都市にある25の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。</p> <p>(拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、沖縄県、札幌市</p> <table border="1"> <caption>精神保健講座等開催実績</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> </tr> <tr> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中 学校教諭・家族</td> <td>子ども 学校教諭・家族</td> <td>県内小中 子ども 学校教諭・家族</td> <td>子ども 学校教諭・家族</td> <td>県内小中 子ども 学校教諭・家族</td> <td>子ども 学校教諭・家族</td> <td>県内小中 子ども 学校教諭・家族</td> <td>子ども 学校教諭・家族</td> <td>県内小中 子ども 学校教諭・家族</td> <td>子ども 学校教諭・家族</td> <td>県内小中 子ども 学校教諭・家族</td> <td>子ども 学校教諭・家族</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回 166人</td> <td>22回 11施設</td> <td>5回 135人</td> <td>10回 10施設</td> <td>5回 156人</td> <td>11回 11施設</td> <td>5回 159人</td> <td>10回 10施設</td> <td>5回 96人</td> <td>11回 11施設</td> <td>2回 49人</td> <td>11回 11施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度		28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	対象	県内小中 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	参加者数等	5回 166人	22回 11施設	5回 135人	10回 10施設	5回 156人	11回 11施設	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設	A	急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な子どもの心の問題に加え、児童虐待や発達障害に対応するため、国が国立成育医療センターを中央拠点病院として全国的に推進している「子どもの心の診療ネットワーク」事業において、静岡県の拠点病院として業務受託している。</li> <li>地域医療機関や保健福祉関係機関等からの相談・診療支援に加え、小中学校教諭を対象とした精神保健講座の開催や、児童擁護施設巡回相談を実施しており、他の医療機関や保健福祉関係機関と連携した、医学的支援・診療支援が実施されている。</li> </ul>						
区分	27年度		28年度		29年度		30年度		元年度		2年度																																																						
	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設																																																					
対象	県内小中 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族	県内小中 子ども 学校教諭・家族	子ども 学校教諭・家族																																																					
参加者数等	5回 166人	22回 11施設	5回 135人	10回 10施設	5回 156人	11回 11施設	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設																																																					
			58	③児童精神科医の育成に努める。	<p>有期職員医師を1名採用し（平成25年度から延べ8名）、専門的な児童精神科医を育成している。</p> <table border="1"> <caption>有期職員医師採用実績 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	採用人数		1	1	1	1	1	A	児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、児童精神科医の育成のため、有期雇用医師を採用し、育成を行っている。</li> <li>育成した児童精神科医が県内外の病院で勤務医となる等、地域医療に継続して貢献している。</li> </ul>																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																											
採用人数		1	1	1	1	1																																																											
	・重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制について、県と連携して整備を図る。	○重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制、県と連携して具体化 ①医療的ケア児のレスパイト対応のため、障害者総合支援法に基づく「短期入所サービス」の実施	59	①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ①医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ①「短期入所サービス」事業の実施準備	<p>医療的ケア児に関する検討会開催実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>リハ実施実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>15,000</td> <td>22,985</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>-</td> <td>3,813</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>-</td> <td>10,162</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>-</td> <td>36,960</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	-	-	-	5	3	6	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	理学療法	17,811	17,504	18,944	17,309	22,829	15,000	22,985	作業療法	6,335	6,010	6,656	6,039	4,546	-	3,813	言語聴覚療法	7,825	8,656	7,306	7,901	9,744	-	10,162	計	31,971	32,170	32,906	31,249	37,119	-	36,960	A	こども病院は県内唯一の小児専門病院として小児の高度専門医療を担うこととされている。そのため、在宅移行、在宅移行後の患児・家族へのフォローをしていく等、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児への対応については、各分野との関係を整理し、今後の方向性を検討している。言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、目標値である理学療法件数は、目標を上回り、令和元年度実績も上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所者の指定を受けた。これにより保護者支援が必要となる場合に児を預かる事ができるよう、受入れ体制の整備を図っていくほか、在宅移行支援病棟の設置を検討等を行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>重症心身障害児は、重度の肢体不自由と知的障害を併せ持ち、経管栄養やたん吸引等の医療的ケアを必要とする。</li> <li>近年、在宅者の割合が増加していることから、県の支援のあり方も、従来の入所型の重症心身障害児施設等の確保から、在宅における患者や家族の生活支援としてのショートステイ実施施設確保や人材育成等へ移行してきている。</li> <li>具体的には、医療機関における短期入所サービス提供事業実施の支援、通所施設への看護師配置、家族のレスパイトのための訪問看護に対する支援、看護・介護従事者やコーディネーターの養成、多職種連携体制の構築等に向けた研修等が挙げられる。</li> <li>こども病院においては、県から委託されている移行期医療支援の一環として、令和2年度は医療的ケア児に関する検討会を6回実施し、重症心身障害者の移行フォロー等の課題に対して、検討を重ねている。</li> <li>令和2年度は、障害福祉サービス事業所の指定を受け、短期入所の受入体制の整備を行っている。</li> <li>在宅移行後のフォローにも取り組んでおり、理学療法件数は、目標値を達成している。</li> <li>こども病院においては、医療的ケア児の退院・在宅移行支援を図るための病棟整備を計画しており、医療的ケア児やその家族に対する支援の充実が今後期待される。</li> </ul>	16	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																											
回数	-	-	-	5	3	6																																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																										
理学療法	17,811	17,504	18,944	17,309	22,829	15,000	22,985																																																										
作業療法	6,335	6,010	6,656	6,039	4,546	-	3,813																																																										
言語聴覚療法	7,825	8,656	7,306	7,901	9,744	-	10,162																																																										
計	31,971	32,170	32,906	31,249	37,119	-	36,960																																																										
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①病棟再編の検討 ②入退院支援センターの設置に向けた検討 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度の向上	60	①ICUの統合等、病棟再編案を策定する。 ②入退院支援センターの運用、設置場所の検討する。 ③No.51 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤No.8	<p>入退院支援センター設置ワーキング開催実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>病床稼働率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>78.7</td> <td>78.7</td> <td>76.4</td> <td>76.2</td> <td>76.4</td> <td>75以上</td> <td>66.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	-	-	-	-	13	12	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	稼働率	78.7	78.7	76.4	76.2	76.4	75以上	66.4	B	病床稼働率については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標である75%を下回った。今後、令和2年4月に本格稼働した入院説明や術前検査等感染チェック等を行う「入退院支援センター」などを活用して、効率的な病床稼働を目指す。 また、当院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者負担を軽減しながら県民に安全で質の高い医療を提供するため、オンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築した。 なお、今後は、質の高い診療や診療報酬の増収を目指し、PICUとCCUの統合等も検討していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>病床稼働率は新型コロナウイルス感染症の影響による紹介患者数や救急搬送件数の減少等により、令和2年度は、中期目標で指示した目標値を下回っている。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響による目標値未達成はやむを得ないが、引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。</li> <li>入退院支援センターは、現在は外来や病棟で行っている入院時の書類説明、検査説明等を一元化して行うことにより、業務効率化と各部門の負担軽減を目指しており、令和2年4月から本格稼働を始めている。</li> <li>稼働後もワーキングにて、支援対象診療科の拡大等の検討を行っている。</li> <li>病棟再編検討会においては、CCUの稼働率向上やPICUの医師確保上の課題解決に向けて、人的配置、施設改修、病棟構成、工事中の患者対策等を、令和2年12月に策定が完了したマスタープランと整合をとりつつ、総合的に検討している。</li> <li>患者に対する安全・安心な医療の提供と、経営面、医師確保等のバランスに配慮しながら、慎重に議論を尽くして進めることが重要である。</li> </ul>	10	1	△																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																											
回数	-	-	-	-	13	12																																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																										
稼働率	78.7	78.7	76.4	76.2	76.4	75以上	66.4																																																										
	【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(子ども) ・病床稼働率(子ども) ・患者満足度[入院・外来](子ども)	【目標値】県立こども病院 ・心臓カテーテル治療実績(子ども) ・病床稼働率(子ども) ・患者満足度[入院・外来](子ども) ・小児がん登録件数(子ども) ・リハ実施件数(子ども)	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																																																									
						説明																																																																																																																																																																																																																																														
2 医療従事者の確保及び質の向上  各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医師、看護師等医療従事者の確保に努めること。また、優秀な人材を育成するため、院内研修及び国内外との交流による研修機能の充実を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2 医療従事者の確保及び質の向上  県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保を行う。また、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。	2 医療従事者の確保及び質の向上	-	-	-	令和2年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																														
						説明																																																																																																																																																																																																																																														
			61	・業務運営に必要な人材の確保に努める。	<p>職員の確保状況(各年度4月1日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度定数</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>130</td> <td>139</td> <td>152</td> <td>159</td> <td>173</td> <td>177</td> <td>190</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>625</td> <td>708</td> <td>748</td> <td>757</td> <td>738</td> <td>761</td> <td>753</td> <td>754</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>正規職員</td> <td>108</td> <td>111</td> <td>113</td> <td>115</td> <td>117</td> <td>120</td> <td>115</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>100</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>430</td> <td>425</td> <td>419</td> <td>404</td> <td>395</td> <td>398</td> <td>392</td> <td>410</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>236</td> <td>239</td> <td>254</td> <td>262</td> <td>277</td> <td>281</td> <td>305</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1,163</td> <td>1,244</td> <td>1,280</td> <td>1,276</td> <td>1,250</td> <td>1,279</td> <td>1,260</td> <td>1,280</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>96</td> <td>96</td> <td>93</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>96</td> <td>-</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>63</td> <td>71</td> <td>69</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>62</td> <td>-</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>-</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>52</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>55</td> <td>58</td> <td>48</td> <td>-</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>-</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>149</td> <td>152</td> <td>147</td> <td>148</td> <td>152</td> <td>148</td> <td>-</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>89</td> <td>98</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>87</td> <td>88</td> <td>-</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> <p>※正規職員の医師は、自治医初期研修医、へき地診療医を除く。  ※正規職員の看護師は、現員数から休職者等を除いた実働数を記載している。  ※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度定数	3年度	総合	130	139	152	159	173	177	190	180	歯科医師	3	4	3	3	4	6	6	5	看護師	625	708	748	757	738	761	753	754	医師	12	11	11	13	14	13	15	13	こころ	-	-	-	-	-	-	-	-	正規職員	108	111	113	115	117	120	115	116	医師	94	89	91	90	90	91	100	92	歯科医師	1	1	1	1	1	1	1	2	看護師	430	425	419	404	395	398	392	410	医師	236	239	254	262	277	281	305	285	計	4	5	4	4	5	7	7	7	歯科医師	1,163	1,244	1,280	1,276	1,250	1,279	1,260	1,280	医師	96	96	93	90	91	96	-	99	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	看護師	63	71	69	68	64	62	-	61	医師	1	5	5	3	3	4	-	6	こころ	-	-	-	-	-	-	-	-	看護師	11	14	13	11	9	10	-	10	医師	52	51	49	55	58	48	-	50	こども	-	-	-	-	-	-	-	-	看護師	15	13	12	13	14	16	-	18	医師	149	152	147	148	152	148	-	155	計	-	-	-	-	-	-	-	-	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	看護師	89	98	94	92	87	88	-	89	<p>医師については、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めたほか、看護師の募集については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、試験をWeb面談で行ったほか、修学資金の貸与、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加を図った。しかしながら、一部の採用は目標定数に満たない結果となった。  今後、看護師については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、定数どおり確保するか、慎重に採用を行っていく。</p>	<p>・職員数の管理においては、地方独立行政法人としての機動性・柔軟性を発揮しつつも収支状況を勘案して臨機応変に対応している。  ・各病院ともに目標値の医師数(正規職員)には達していないが、不足する人員については、有期職員の採用等により対応している。  ・一方で新型コロナウイルスの影響で患者が減少していることもあり、現状を踏まえた適正な人員規模を検討しつつ、職員採用に取り組んでいる。  ・今後も、救急医療や小児・周産期医療等の現場における医師の働き方改革の影響や、人件費の増加が経営状況に及ぼす影響等を注視しつつ、安全で質の高い医療の提供の根幹となる医療従事者の確保が期待される。</p>	18	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度定数	3年度																																																																																																																																																																																																																																												
総合	130	139	152	159	173	177	190	180																																																																																																																																																																																																																																												
歯科医師	3	4	3	3	4	6	6	5																																																																																																																																																																																																																																												
看護師	625	708	748	757	738	761	753	754																																																																																																																																																																																																																																												
医師	12	11	11	13	14	13	15	13																																																																																																																																																																																																																																												
こころ	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																												
正規職員	108	111	113	115	117	120	115	116																																																																																																																																																																																																																																												
医師	94	89	91	90	90	91	100	92																																																																																																																																																																																																																																												
歯科医師	1	1	1	1	1	1	1	2																																																																																																																																																																																																																																												
看護師	430	425	419	404	395	398	392	410																																																																																																																																																																																																																																												
医師	236	239	254	262	277	281	305	285																																																																																																																																																																																																																																												
計	4	5	4	4	5	7	7	7																																																																																																																																																																																																																																												
歯科医師	1,163	1,244	1,280	1,276	1,250	1,279	1,260	1,280																																																																																																																																																																																																																																												
医師	96	96	93	90	91	96	-	99																																																																																																																																																																																																																																												
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																												
看護師	63	71	69	68	64	62	-	61																																																																																																																																																																																																																																												
医師	1	5	5	3	3	4	-	6																																																																																																																																																																																																																																												
こころ	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																												
看護師	11	14	13	11	9	10	-	10																																																																																																																																																																																																																																												
医師	52	51	49	55	58	48	-	50																																																																																																																																																																																																																																												
こども	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																												
看護師	15	13	12	13	14	16	-	18																																																																																																																																																																																																																																												
医師	149	152	147	148	152	148	-	155																																																																																																																																																																																																																																												
計	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																												
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																												
看護師	89	98	94	92	87	88	-	89																																																																																																																																																																																																																																												
			62	・研修医の確保に努める。	<p>初期臨床研修医数 (総合病院) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期臨床研修医</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>20 (2)</td> <td>21 (2)</td> <td>22 (2)</td> <td>24 (3)</td> <td>23 (1)</td> <td>20 (1)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>22 (2)</td> <td>19 (2)</td> <td>21 (2)</td> <td>20 (2)</td> <td>23 (3)</td> <td>19 (4)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>42 (4)</td> <td>40 (4)</td> <td>43 (4)</td> <td>44 (5)</td> <td>46 (4)</td> <td>39 (5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ ( ) うち自治医大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>後期臨床研修医</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>72</td> <td>78</td> <td>69</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>	初期臨床研修医	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	1年生	20 (2)	21 (2)	22 (2)	24 (3)	23 (1)	20 (1)	2年生	22 (2)	19 (2)	21 (2)	20 (2)	23 (3)	19 (4)	計	42 (4)	40 (4)	43 (4)	44 (5)	46 (4)	39 (5)	後期臨床研修医	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	54	58	50	46	48	58	こころ	2	4	4	2	2	4	こども	16	16	15	14	15	9	計	72	78	69	62	65	71	<p>対面式の合同説明会が中止された中、病院独自でオンライン会議システムを利用した説明会を開催し、延べ人数218名の医学生に向けて、PR活動を行った。  見学・実習について、極力制限することなく、医学生へ抗原検査を実施し、安全を確保しつつ受け入れを行った。</p>	<p>・総合病院の初期臨床研修医確保は、期間を通じて計画人数を確保している。  ・後期研修医については、こども病院においては平成29年度から、総合病院とこころの医療センターにおいては平成30年度から、新専門医制度のもとでの確保となった。  ・各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、研修医に対するプログラム説明会の開催、PR動画やホームページ等を通じた広報など、積極的な広報により、専攻医の確保に努めている。  ・初期臨床研修医・後期臨床研修医ともに、例年並みの医師数を確保している。  ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への分散等の影響を注視し、十分な確保ができるよう、積極的な採用活動や医師にとって魅力的な病院を目指す取組の継続が期待される。</p>	18		○																																																																																																																																																																											
初期臨床研修医	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																																																																														
1年生	20 (2)	21 (2)	22 (2)	24 (3)	23 (1)	20 (1)																																																																																																																																																																																																																																														
2年生	22 (2)	19 (2)	21 (2)	20 (2)	23 (3)	19 (4)																																																																																																																																																																																																																																														
計	42 (4)	40 (4)	43 (4)	44 (5)	46 (4)	39 (5)																																																																																																																																																																																																																																														
後期臨床研修医	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																																																																														
総合	54	58	50	46	48	58																																																																																																																																																																																																																																														
こころ	2	4	4	2	2	4																																																																																																																																																																																																																																														
こども	16	16	15	14	15	9																																																																																																																																																																																																																																														
計	72	78	69	62	65	71																																																																																																																																																																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																
						説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
			63	<p>・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。</p>	<p>看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコマディカル及び事務においてアソシエイトの公募試験を実施した。</p> <p>正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>269</td> <td>283</td> <td>289</td> <td>293</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,370</td> <td>1,366</td> <td>1,398</td> <td>1,403</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>319</td> <td>333</td> <td>347</td> <td>362</td> </tr> <tr> <td>研 究 員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>126</td> <td>123</td> <td>131</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,088</td> <td>2,112</td> <td>2,174</td> <td>2,201</td> </tr> </tbody> </table> <p>本部（総務）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>165</td> <td>179</td> <td>184</td> <td>188</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>806</td> <td>807</td> <td>829</td> <td>826</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>214</td> <td>226</td> <td>237</td> <td>249</td> </tr> <tr> <td>研 究 員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>59</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,242</td> <td>1,271</td> <td>1,317</td> <td>1,331</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>118</td> <td>120</td> <td>124</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>170</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>174</td> </tr> </tbody> </table> <p>こども</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>444</td> <td>436</td> <td>444</td> <td>452</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>82</td> <td>84</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>事 務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>642</td> <td>636</td> <td>648</td> <td>660</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医 師	241	245	260	269	283	289	293	歯科医師	4	5	4	4	5	7	7	看 護 師	1,251	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	医療技術	327	320	315	319	333	347	362	研 究 員					2	2		事 務	118	119	118	126	123	131	136	計	1,941	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医 師						1		看 護 師	2	2	2	2	3	1	3	医療技術	1						1	事 務	28	27	25	32	32	32	32	計	31	29	27	34	35	34	36	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医 師	135	144	157	165	179	184	188	歯科医師	3	4	3	3	4	6	5	看 護 師	678	748	804	806	807	829	826	医療技術	215	211	208	214	226	237	249	研 究 員					2	2		事 務	49	51	52	54	53	59	63	計	1,080	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医 師	12	12	12	14	14	13	13	歯科医師								看 護 師	110	114	115	118	120	124	122	医療技術	26	26	26	25	25	26	26	事 務	13	13	13	13	11	12	13	計	161	165	166	170	170	175	174	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医 師	94	89	91	90	90	91	92	歯科医師	1	1	1	1	1	1	2	看 護 師	461	453	449	444	436	444	452	医療技術	85	83	81	80	82	84	86	事 務	28	28	28	27	27	28	28	計	669	654	650	642	636	648	660	<p>医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。</p> <p>看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計2回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、第1期看護職員採用試験は、Web面談と小論文に代わる書類審査に代替え実施した。</p> <p>また、経験者を対象とした月次募集を計4回実施し、上半期間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げた。</p> <p>コマディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、心理療法士、視能訓練士、言語聴覚士（アソシエイト）、栄養士（アソシエイト）、臨床工学技士について公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めた。</p> <p>事務は、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めた。</p>	<p>全国的に看護師不足が問題となる中、積極的な看護師確保対策、柔軟な採用試験の実施、勤務環境の改善、多様な勤務条件の設定等の努力により、各病院が高度・専門・特殊医療の提供に必要な水準の職員数確保に成功している。</p> <p>・看護師定時募集方法については、従来、第1期募集は勤務先を総合病院に限り、第2期募集は勤務先を3病院としていたが、令和元年度から、看護学生の就職活動の早期化と勤務先の希望に柔軟に対応するため、第1期から勤務先を3病院として募集実施している。</p>	18			○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医 師	241	245	260	269	283	289	293																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
歯科医師	4	5	4	4	5	7	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
看 護 師	1,251	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医療技術	327	320	315	319	333	347	362																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
研 究 員					2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	118	119	118	126	123	131	136																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計	1,941	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医 師						1																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
看 護 師	2	2	2	2	3	1	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医療技術	1						1																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
事 務	28	27	25	32	32	32	32																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計	31	29	27	34	35	34	36																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医 師	135	144	157	165	179	184	188																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
歯科医師	3	4	3	3	4	6	5																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
看 護 師	678	748	804	806	807	829	826																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医療技術	215	211	208	214	226	237	249																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
研 究 員					2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	49	51	52	54	53	59	63																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計	1,080	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医 師	12	12	12	14	14	13	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
歯科医師																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
看 護 師	110	114	115	118	120	124	122																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医療技術	26	26	26	25	25	26	26																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
事 務	13	13	13	13	11	12	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計	161	165	166	170	170	175	174																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医 師	94	89	91	90	90	91	92																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
歯科医師	1	1	1	1	1	1	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
看 護 師	461	453	449	444	436	444	452																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
医療技術	85	83	81	80	82	84	86																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
事 務	28	28	28	27	27	28	28																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
計	669	654	650	642	636	648	660																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
			64	<p>・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。</p>	<p>看護学生向け就職説明会（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科（静岡）</td> <td>158</td> <td>158</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ（浜松）</td> <td>184</td> <td>79</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>マイナビ（静岡）</td> <td>204</td> <td>254</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>（沼津）</td> <td>163</td> <td>154</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>709</td> <td>645</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>0</td> <td>191</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>0</td> <td>84</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td colspan="3">PR動画の提供</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>35</td> <td>41</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>35</td> <td>316</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>744</td> <td>961</td> <td>204</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護学生向け就職説明会（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>業者 949</td> <td>1,012</td> <td>1,378</td> <td>887</td> <td>226</td> <td>709</td> </tr> <tr> <td></td> <td>養成校 639</td> <td>764</td> <td>842</td> <td>997</td> <td>602</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td>業者 254</td> <td>200</td> <td>360</td> <td>608</td> <td>64</td> <td>645</td> </tr> <tr> <td></td> <td>養成校 293</td> <td>286</td> <td>366</td> <td>357</td> <td>345</td> <td>316</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>業者 不明</td> <td>3</td> <td>58</td> <td>53</td> <td>3</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td></td> <td>養成校 17</td> <td>48</td> <td>86</td> <td>64</td> <td>73</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table> <p>本部・各病院（総務）</p>	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	158	158	23	ナースナビ（浜松）	184	79	10	マイナビ（静岡）	204	254	55	（沼津）	163	154	24	業者計	709	645	112	静岡県立大学	0	191	41	常葉大学	0	84	24	聖隷クリストファー大学	PR動画の提供			順天堂大学	中止	中止	14	静岡市立看護専門学校	35	41	3	静岡県立看護専門学校	中止	中止	1	養成校計	35	316	92	計	744	961	204		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	来場者数	業者 949	1,012	1,378	887	226	709		養成校 639	764	842	997	602	35	訪問者数	業者 254	200	360	608	64	645		養成校 293	286	366	357	345	316	受験者数	業者 不明	3	58	53	3	112		養成校 17	48	86	64	73	92	<p>看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることで病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で養成校主催の説明会は中止となるものが多かったが、説明会に代わり、Web会議や養成校のポータルサイトに各病院のPR資料を提供するなどして看護師確保に努めた。</p> <p>今後も養成校主催の説明会へ昨年引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかみ看護師確保に努める。</p>	<p>・就職説明会においては、機構の看護師が直にコミュニケーションを図ることで看護学生が知りたい情報を把握できるという利点に併せて、採用後のミスマッチの予防にも効果があるものと考えられる。</p> <p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、就職説明会が中止となっているが、WEBでの説明会開催や養成校のポータルサイトへのPR資料の提供などで看護師確保に努めており、今後も臨機応変な対応が期待される。</p>	19			○																																																																																																																																																																																							
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
ナース専科（静岡）	158	158	23																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
ナースナビ（浜松）	184	79	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
マイナビ（静岡）	204	254	55																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
（沼津）	163	154	24																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
業者計	709	645	112																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
静岡県立大学	0	191	41																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
常葉大学	0	84	24																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
聖隷クリストファー大学	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
順天堂大学	中止	中止	14																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
静岡市立看護専門学校	35	41	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
静岡県立看護専門学校	中止	中止	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
養成校計	35	316	92																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
計	744	961	204																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
来場者数	業者 949	1,012	1,378	887	226	709																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	養成校 639	764	842	997	602	35																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
訪問者数	業者 254	200	360	608	64	645																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	養成校 293	286	366	357	345	316																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
受験者数	業者 不明	3	58	53	3	112																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	養成校 17	48	86	64	73	92																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																
						説明																																																																																																																																					
(1) 医療従事者の確保・育成 各病院が有する物的・人的資源を活用した研修プログラムを充実させることにより、各病院において臨床研修医や専攻医の確保・育成に取り組むほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受け入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。	(1) 医療従事者の確保・育成 県立病院が中心となり、医療技術向上と医師養成の特色のある取組を設け、充実した研修体制を整備し、臨床研修医や専攻医の技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの機能拡充や、県立子ども病院のラーニングセンターを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努める。実習生の受け入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	(1) 医療従事者の確保・育成 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立子ども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧メディカル・事務職員の研修	65	○医師 ①②医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ①②医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。	(総合) (総合) 海外研修の実績 (2年度) (単位:人) <table border="1"> <tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr> <tr><td colspan="2">実績なし</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">計</td><td>0</td></tr> </table> 海外での学会発表実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区 分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>総合</td><td>26</td><td>32</td><td>23</td><td>33</td><td>65</td><td>0</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>35</td><td>32</td><td>22</td><td>31</td><td>31</td><td>3</td></tr> </table> 海外研修の主な実績 (2年度末) (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区 分</th><th>内 容</th><th>人数</th></tr> <tr><td>総 合</td><td>臨床研修医UCLA研修 その他 海外学会</td><td>0 0</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>—</td><td>0</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>アメリカ心エコー学会議 アメリカ胸部外科学会 ヨーロッパ小児科学会学術集会</td><td>0 0 0</td></tr> </table> 例年、海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示している。 海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。	内 容		人数	実績なし			計		0	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	26	32	23	33	65	0	子ども	35	32	22	31	31	3	区 分	内 容	人数	総 合	臨床研修医UCLA研修 その他 海外学会	0 0	こころ	—	0	子ども	アメリカ心エコー学会議 アメリカ胸部外科学会 ヨーロッパ小児科学会学術集会	0 0 0	(総合) (総合) 海外研修の実績 (2年度) (単位:人) <table border="1"> <tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr> <tr><td colspan="2">実績なし</td><td></td></tr> <tr><td colspan="2">計</td><td>0</td></tr> </table> 海外での学会発表実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区 分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>総合</td><td>26</td><td>32</td><td>23</td><td>33</td><td>65</td><td>0</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>35</td><td>32</td><td>22</td><td>31</td><td>31</td><td>3</td></tr> </table> 海外研修の主な実績 (2年度末) (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区 分</th><th>内 容</th><th>人数</th></tr> <tr><td>総 合</td><td>臨床研修医UCLA研修 その他 海外学会</td><td>0 0</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>—</td><td>0</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>アメリカ心エコー学会議 アメリカ胸部外科学会 ヨーロッパ小児科学会学術集会</td><td>0 0 0</td></tr> </table> 例年、海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示している。 海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。	内 容		人数	実績なし			計		0	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	26	32	23	33	65	0	子ども	35	32	22	31	31	3	区 分	内 容	人数	総 合	臨床研修医UCLA研修 その他 海外学会	0 0	こころ	—	0	子ども	アメリカ心エコー学会議 アメリカ胸部外科学会 ヨーロッパ小児科学会学術集会	0 0 0	—	—	—	—	—	—																																											
				内 容		人数																																																																																																																																					
				実績なし																																																																																																																																							
計		0																																																																																																																																									
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																					
総合	26	32	23	33	65	0																																																																																																																																					
子ども	35	32	22	31	31	3																																																																																																																																					
区 分	内 容	人数																																																																																																																																									
総 合	臨床研修医UCLA研修 その他 海外学会	0 0																																																																																																																																									
こころ	—	0																																																																																																																																									
子ども	アメリカ心エコー学会議 アメリカ胸部外科学会 ヨーロッパ小児科学会学術集会	0 0 0																																																																																																																																									
内 容		人数																																																																																																																																									
実績なし																																																																																																																																											
計		0																																																																																																																																									
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																					
総合	26	32	23	33	65	0																																																																																																																																					
子ども	35	32	22	31	31	3																																																																																																																																					
区 分	内 容	人数																																																																																																																																									
総 合	臨床研修医UCLA研修 その他 海外学会	0 0																																																																																																																																									
こころ	—	0																																																																																																																																									
子ども	アメリカ心エコー学会議 アメリカ胸部外科学会 ヨーロッパ小児科学会学術集会	0 0 0																																																																																																																																									
(3) メディカルスキルアップセンターの活用を促進を図る。			66		メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人) <table border="1"> <tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">27年度</th><th colspan="2">28年度</th><th colspan="2">29年度</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th></tr> <tr><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>開催回数</th><th>参加人数</th></tr> <tr><td>医師</td><td>500</td><td>42</td><td>548</td><td>29</td><td>488</td><td>44</td><td>617</td><td>33</td><td>775</td><td>42</td><td>1097</td><td>5</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>3,339</td><td>298</td><td>2,856</td><td>212</td><td>2,713</td><td>197</td><td>2,772</td><td>145</td><td>3,236</td><td>166</td><td>3,488</td><td>16</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>190</td><td>30</td><td>194</td><td>20</td><td>196</td><td>48</td><td>200</td><td>32</td><td>288</td><td>30</td><td>275</td><td>7</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>2,670</td><td>395</td><td>3,230</td><td>262</td><td>3,569</td><td>296</td><td>4,474</td><td>237</td><td>5,897</td><td>291</td><td>4,490</td><td>67</td></tr> <tr><td>その他</td><td>163</td><td>122</td><td>158</td><td>94</td><td>147</td><td>115</td><td>168</td><td>137</td><td>310</td><td>186</td><td>238</td><td>119</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>2,343</td><td>1,785</td><td>3,008</td><td>1,326</td><td>2,298</td><td>1,914</td><td>2,360</td><td>1,397</td><td>2,671</td><td>1,122</td><td>1,863</td><td>736</td></tr> <tr><td>計</td><td>856</td><td>194</td><td>906</td><td>153</td><td>831</td><td>207</td><td>1,055</td><td>200</td><td>1,373</td><td>267</td><td>1,610</td><td>130</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>8,652</td><td>2,498</td><td>8,954</td><td>1,990</td><td>8,580</td><td>2,407</td><td>9,806</td><td>1,779</td><td>11,774</td><td>1,579</td><td>9,919</td><td>919</td></tr> </table>	区 分	27年度		28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	医師	500	42	548	29	488	44	617	33	775	42	1097	5	参加人数	3,339	298	2,856	212	2,713	197	2,772	145	3,236	166	3,488	16	看護師	190	30	194	20	196	48	200	32	288	30	275	7	参加人数	2,670	395	3,230	262	3,569	296	4,474	237	5,897	291	4,490	67	その他	163	122	158	94	147	115	168	137	310	186	238	119	参加人数	2,343	1,785	3,008	1,326	2,298	1,914	2,360	1,397	2,671	1,122	1,863	736	計	856	194	906	153	831	207	1,055	200	1,373	267	1,610	130	参加人数	8,652	2,498	8,954	1,990	8,580	2,407	9,806	1,779	11,774	1,579	9,919	919	メディカルスキルアップセンターに各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会などで活用されている。 今後も外部利用についても拡大に努める。	・メディカルスキルアップセンターは、平成29年度に先端医学棟内に移転し、従来の2.8倍の約332㎡の広さに拡張し、採血等の基本手技、心配蘇生等の救急訓練、内視鏡下手術訓練等の臨床各科に応じたシミュレーター整備など、研修環境の充実が図られて以降、利用件数も増加傾向にある。 ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により外部主催の研修会等が開催中止となったが、開催回数全体は増加しており、現場に即した実践的な研修が提供されている。 ・静岡市医師会と連携した地域医療従事者向けの研修会の開催など、充実した研修施設が外部利用として地域に還元されている。	20		○
					区 分		27年度		28年度		29年度		30年度		元年度		2年度																																																																																																																										
開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数		参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数																																																																																																																															
医師	500	42	548	29	488	44	617	33	775	42	1097	5																																																																																																																															
参加人数	3,339	298	2,856	212	2,713	197	2,772	145	3,236	166	3,488	16																																																																																																																															
看護師	190	30	194	20	196	48	200	32	288	30	275	7																																																																																																																															
参加人数	2,670	395	3,230	262	3,569	296	4,474	237	5,897	291	4,490	67																																																																																																																															
その他	163	122	158	94	147	115	168	137	310	186	238	119																																																																																																																															
参加人数	2,343	1,785	3,008	1,326	2,298	1,914	2,360	1,397	2,671	1,122	1,863	736																																																																																																																															
計	856	194	906	153	831	207	1,055	200	1,373	267	1,610	130																																																																																																																															
参加人数	8,652	2,498	8,954	1,990	8,580	2,407	9,806	1,779	11,774	1,579	9,919	919																																																																																																																															
(4) ラーニングセンターの運用手順を定め、活用の促進を図る。			67		後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で利用していたが、リニューアル工事の影響で令和2年度末まで使用を一時休止した。 平成30年度にラーニングセンター運営検討部会を立ち上げ、利用実態の詳細な把握や今後の有効な活用方法について検討している。  ラーニングセンター利用状況 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区 分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th></tr> <tr><td>利用件数</td><td>-</td><td>21</td><td>12</td><td>33</td><td>13</td><td>0</td></tr> </table> ※各年度とも正確な研修実施研修の集計はできていない。	区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	利用件数	-	21	12	33	13	0	ラーニングセンターについては、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、令和2年度末までの期間、仮設倉庫としていたが、工事進捗の関係で令和3年7月頃まで期間が延長となった。 令和2年度は、ラーニングセンターの運用方法等について引き続き関係部署で検討を行ったが、今後は、策定したマスタープランも踏まえ再開場所を含め、検討を続けていく。	・ラーニングセンターにおける研修機能の集約化を目指し、平成30年度に運営検討部会を通じて、院内の研修実施状況の調査・把握、問題点の洗い出し、運用手順の策定等を進めてきた。 ・各病棟や会議室等で実施されていた研修をラーニングセンターに集約する方向で検討を進めていたが、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、ラーニングセンターの使用を一時休止する事態となっている。 ・令和3年度中には利用を再開できる見込みであり、現在は病棟再編ワーキングの中で、ラーニングセンターの再開等についても検討を行っている。 ・一時休止中の間は、当面、各病棟内や会議室等を活用して研修を実施していく方針であるが、院内研修をセンターに集約し研修環境を改善するという運営検討部会を通じた改善の方向性を途切れさせることなく、マスタープラン(施設改修計画)とも整合を図りつつ、運用・検討していくことが求められる。	20		△																																																																																																																			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																					
利用件数	-	21	12	33	13	0																																																																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																													
						説明																																																																																		
		【目標値】 ・医師数(総合、こころ、こども) ・看護師数(総合、こころ、こども)	68	⑤海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>13</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>73</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>58</td> <td>51</td> <td>35</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合病院では中国浙江省の7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、これまでに研修生10人(医師)を受け入れている。            浙江大学医学院附属邵逸夫医院1人、浙江大学医学院附属第一医院1人、浙江大学医学院附属第二医院1人、浙江医学院附属第四医院2人、温嶺市中病院1人、浙江省立同徳医院1人、浙江省人民医院3人            平成23年度より浙江省からの研修受入をから実施しており、これまでに延べ85人(うち医師61人)の研修生を受入れている。            令和元年10月には浙江中医薬大学附属第二医院と研究友好協力に係る覚書の締結を行った。その他、JICA研修生を受け入れている。            令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により派遣研修及び相互訪問は中止となったが、消化器内科、乳腺外科がオンラインで浙江省の学会に参加した他、浙江省衛生健康委員会を通じて機構と友好協力協定及び覚書を締結する浙江省人民医院、浙江大学医学院附属邵逸夫医院、浙江大学医学院附属兒童病院、浙江中医薬大学附属第二医院及び過去に機構で研修を行った研修生65名から医療物資の支援を受けた。            また、浙江省リハビリ病院の開院に対して田中理事長より動画による祝辞を送付した。</p>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	視察・講演等派遣	13	53	54	60	73	0	視察・研修等受入	39	44	58	51	35	0	B	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止となったが、中国浙江省とは、オンラインによる学会参加、医療支援物資の受領、書簡の往来など、可能な交流を継続的に行った。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら国際交流を推進する。	・海外からの視察や研修生の受け入れ及び派遣を継続して行われており、交流の推進や医療技術の習得が図られている。 ・国際交流の更なる進展に向けて、令和元年10月に浙江中医薬大学附属第二医院とも研究友好協力に係る覚書を締結した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は派遣・受け入れを実施していないが、浙江省の学会へのオンライン参加や医療物資の相互支援など、良好な友好関係を築いている。																																																											
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																		
視察・講演等派遣	13	53	54	60	73	0																																																																																		
視察・研修等受入	39	44	58	51	35	0																																																																																		
			69	⑥看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑥認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	<p>主な医療職種の資格取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>3</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>16</td> <td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>35</td> <td>がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門、病院薬学会認定、認定実務実習指導、認定CRC、薬物療法専門、調剤管理、抗がん化学療法認定、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定、がん指導、臨床検査指導、薬物療法指導、漢方薬・生薬認定</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>4</td> <td>専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害、聴覚器)</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>29</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>21</td> <td>糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師、栄養サポートチーム専門</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>108</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>1</td> <td>精神看護(リエゾン領域)</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>6</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>2</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>8</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>こども</p>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	35	がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門、病院薬学会認定、認定実務実習指導、認定CRC、薬物療法専門、調剤管理、抗がん化学療法認定、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定、がん指導、臨床検査指導、薬物療法指導、漢方薬・生薬認定	理学療法士	4	専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害、聴覚器)	放射線技師	29	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影	その他	21	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師、栄養サポートチーム専門	計	108		区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	精神看護(リエゾン領域)	認定看護師	6	精神科		0	感染管理	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	2	小児看護	認定看護師	8	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができた。 また、認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図った。	・優れた看護技術と知識を備え高水準の看護を実践する専門看護師や認定看護師を育成することは、高度・専門医療を提供する県立病院の医療の質の向上において重要である。 ・令和2年度の看護師の資格者数は、総合19人(専門3人、認定16人)、こころ認定7人(専門1人、認定6人)、こども10人(専門2人、認定8人)であり、計画的な育成が図られている。 ・資格取得にあたっては、研修中不在となる医療従事者が安心して研修に臨める組織としてのバックアップが重要であり、研修受講時の職務専念義務免除や研修費用の無利子貸与制度を実施するなど、資格取得への支援が図られている。																																			
職種	人数	専門・認定領域																																																																																						
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護																																																																																						
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法																																																																																						
薬剤師	35	がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門、病院薬学会認定、認定実務実習指導、認定CRC、薬物療法専門、調剤管理、抗がん化学療法認定、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定、がん指導、臨床検査指導、薬物療法指導、漢方薬・生薬認定																																																																																						
理学療法士	4	専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害、聴覚器)																																																																																						
放射線技師	29	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影																																																																																						
その他	21	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師、栄養サポートチーム専門																																																																																						
計	108																																																																																							
区分	人数	専門・認定領域																																																																																						
専門看護師	1	精神看護(リエゾン領域)																																																																																						
認定看護師	6	精神科																																																																																						
	0	感染管理																																																																																						
区分	人数	専門・認定領域																																																																																						
専門看護師	2	小児看護																																																																																						
認定看護師	8	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名																																																																																						
			70	⑦臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	<p>実習・アルバイト研修等の受け入れ(2年度末) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>45</td> <td>190</td> <td>0</td> <td>178</td> <td>87</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>164</td> <td>6</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>207</td> <td>4</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>63</td> <td>191</td> <td>0</td> <td>549</td> <td>97</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	45	190	0	178	87	500	こころ	7	1	0	164	6	178	こども	11	0	0	207	4	222	計	63	191	0	549	97	900	B	医師、医学生、看護師、看護学生などを積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等で臨床現場に即したより実践的な研修を提供しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れが困難であったことから、前年に比べ減少した。	・医師、医学生、看護師、看護学生、コメディカルの実習やアルバイトを積極的に受け入れ、臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの感染リスク抑制のため、実習・アルバイトの受け入れが難しく、3病院全体・全職種合計で、令和元年度実績1,381人から481人減少した。 ・新型コロナウイルス対策のため必要な措置であり、やむを得ないものであるが、取戻した後は、将来の県内医療従事者の養成につながる、効果的な実践研修の場の提供に努めていくことが期待される。																																													
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																		
総合	45	190	0	178	87	500																																																																																		
こころ	7	1	0	164	6	178																																																																																		
こども	11	0	0	207	4	222																																																																																		
計	63	191	0	549	97	900																																																																																		
			71	⑧研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	<p>職員研修参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>125</td> <td>139</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>新規役付職員研修</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>労務管理者研修</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>35</td> <td>21</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>19</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>25</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>29</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	新規採用職員研修	145	136	126	125	139	160	新規役付職員研修	15	10	4	6	7	10	新規監督者研修	28	25	18	18	11	16	労務管理者研修	-	-	-	-	-	120	新任管理者・新任監督者研修	-	34	28	35	21	-	コミュニケーション講座	21	20	24	30	19	31	プレゼンテーション講座	31	-	-	-	-	-	ファシリテーション講座	-	23	20	20	25	29	コーチング講座	28	32	18	22	20	29	メンタルサポート講座	21	25	25	14	29	24	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。 令和2年度から、働き方改革関連法に対応するため新たに労務管理者研修を追加した。	・令和2年度は、働き方改革関連法への対応の一環として、新たに労務管理者研修を追加し、労務管理やハラスメントに対する職員の意識を高める取組を行っている。 ・全ての職種に共通して必要となるコミュニケーション能力や組織マネジメント能力など、県内医療の中核を担う県立病院の職員として求められるスキルの習得につながる研修体制プログラムが階層や目的に応じて実施されている。			
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																		
新規採用職員研修	145	136	126	125	139	160																																																																																		
新規役付職員研修	15	10	4	6	7	10																																																																																		
新規監督者研修	28	25	18	18	11	16																																																																																		
労務管理者研修	-	-	-	-	-	120																																																																																		
新任管理者・新任監督者研修	-	34	28	35	21	-																																																																																		
コミュニケーション講座	21	20	24	30	19	31																																																																																		
プレゼンテーション講座	31	-	-	-	-	-																																																																																		
ファシリテーション講座	-	23	20	20	25	29																																																																																		
コーチング講座	28	32	18	22	20	29																																																																																		
メンタルサポート講座	21	25	25	14	29	24																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																												
						説明																																																																																																																																	
② 勤務環境の向上  優秀な医療従事者を確保するため、働きやすさ、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	② 勤務環境の向上  医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	② 勤務環境の向上  ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用	-	-	-	-	-																																																																																																																																
			72	①柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。  看護師の2交代制勤務については、総合病院17病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。  アソシエイト採用実績（各年度4月1日現在）（単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	看護師	1	-	3	-	1	事務	2	2	10	3	2	コメディカル	3	4	3	1	4	計	6	6	16	4	7	看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図った。 看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 平成29年4月以降、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。	・地方独立行政法人としての柔軟性・機動性を発揮して、交替勤務制、夜勤専従、アソシエイト制度など、個々のライフスタイルに合わせた多様な勤務条件・雇用形態が設定されており、離職防止やワークライフバランスの実現に寄与している。 ・有期職員から正規雇用へ登用するアソシエイト制度においては、正規職員の欠員補充や医事業務の一部内製化等の理由により、事務職の採用が増加し、総合病院診療情報管理室、総合病院医事課、こころの医療センター総務経営課等に配属した。 ・診療賞与は、平成29年度以降採用の医師に対して、経験年数により一律に算定される初任給調整手当を廃止し、職員の診療実績に基づき支給する手当であり、医師のモチベーション向上に寄与する給与体系となっている。	21		○																																																																																																
			区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																															
看護師	1	-	3	-	1																																																																																																																																		
事務	2	2	10	3	2																																																																																																																																		
コメディカル	3	4	3	1	4																																																																																																																																		
計	6	6	16	4	7																																																																																																																																		
73	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）（単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>71</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>74</td> <td>73</td> <td>66</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>165</td> <td>165</td> <td>159</td> <td>151</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師事務補助</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師事務補助</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>49</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師事務補助</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>93</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>102</td> <td>99</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>29</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>209</td> <td>221</td> <td>222</td> <td>222</td> <td>220</td> <td>212</td> <td>217</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総合	医師事務補助	55	66	73	73	71	76	看護助手	81	80	74	73	66	58	コメディカル助手	17	18	18	19	22	20	小計	153	164	165	165	159	151	157	こころ	医師事務補助	2	2	2	2	2	1	看護助手	8	8	9	8	8	9	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	12	13	12	12	13	12	こども	医師事務補助	18	18	18	19	19	20	看護助手	21	22	21	21	25	22	コメディカル助手	5	5	5	5	5	6	小計	44	45	44	45	49	48	48	計	医師事務補助	75	86	93	94	92	96	看護助手	110	110	104	102	99	92	コメディカル助手	24	25	25	26	29	28	小計	209	221	222	222	220	212	217	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置している。これにより、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければならない業務に専念できている。	・医療従事者の労力を、専門資格の必要な業務に集中して投資できることは、組織・医療従事者個人の双方にとって有益である。 ・医師以外の職種においては、既に時間外労働時間の上限規制が導入されており、適切な人員配置や部署を超えた協力体制の構築に取り組んでいる。 ・今後、医師については、令和6年度から法による時間外労働時間上限規制が導入される中、医師の業務を6つに分類し分析することで、時間外となっている要因を把握し、対策を取れる体制としている。 ・医師の働き方改革については、国の動向を常に把握し、上限規制に関する必要な措置等にかかる情報収集に努めていくことが重要である。	21		○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																
総合	医師事務補助	55	66	73	73	71	76																																																																																																																																
	看護助手	81	80	74	73	66	58																																																																																																																																
	コメディカル助手	17	18	18	19	22	20																																																																																																																																
小計	153	164	165	165	159	151	157																																																																																																																																
こころ	医師事務補助	2	2	2	2	2	1																																																																																																																																
	看護助手	8	8	9	8	8	9																																																																																																																																
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																
小計	12	12	13	12	12	13	12																																																																																																																																
こども	医師事務補助	18	18	18	19	19	20																																																																																																																																
	看護助手	21	22	21	21	25	22																																																																																																																																
	コメディカル助手	5	5	5	5	5	6																																																																																																																																
小計	44	45	44	45	49	48	48																																																																																																																																
計	医師事務補助	75	86	93	94	92	96																																																																																																																																
	看護助手	110	110	104	102	99	92																																																																																																																																
	コメディカル助手	24	25	25	26	29	28																																																																																																																																
小計	209	221	222	222	220	212	217																																																																																																																																
74	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	平成26年10月に勤務成績評価制度を試行して以降、職員のモチベーションアップと昇任人事への活用のため、階層や職位を拡大し、令和元年度は、全職種全職員に対して実施した。 ・期首面談は、評価期間の開始時に、職員と評価者である上司等が対面のもと、担当業務における当期の具体的な目標設定や職務行動の重要度等を決定する場であり、期末における適切な達成度評価の前提となる面談である。 ・試行実施の成果の検証を経て、令和2年12月から、人事評価の勤勉手当への活用を開始しており、職員の意欲が反映される評価制度の運用が期待される。	21		○																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																					
						説明																																										
			75	④就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	<p>総合病院では、令和2年度に総務省の無線システム普及支援事業への補助金交付申請を行い、院内携帯電波不感知対策工事を実施した。院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行った。また、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を実施した。</p> <p>各病院（企画）  このころの医療センターでは、施設劣化改修として、職員も利用するエレベーター4台の改修を実施し、既存不適格を解消した。こども病院院内保育所の建替工事については、平成31年3月に竣工し平成31年4月より運用開始した。また、ランドリーを移転し、令和2年3月にコンビニエンスストアを導入した。</p>	A	<p>総合病院では、総務省の無線システム普及支援事業への補助金交付申請を行い、院内携帯電波不感知対策工事を実施した。</p> <p>このころの医療センターでは、現在の建築基準法に適合したエレベーター設備に改修することにより、職員の就労環境の改善及び安全性の向上に資することができた。</p> <p>こども病院では、新園舎の運用を開始するとともに、導入したコンビニエンスストアにより、院内施設の充実を図っている。</p> <p>また、始業時にリクエストのあったBGMを院内放送することで、職員のモチベーション確保に努めている。</p> <p>引き続き、院内施設の充実を図り、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>		21	○																																						
			76	⑤院内保育の活用を図る。	<p>保育所利用者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">定員</th> <th colspan="6">平均利用者数</th> </tr> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合「おひさま」</td> <td>100</td> <td>93</td> <td>96</td> <td>90</td> <td>82</td> <td>75</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>こども「ことり」</td> <td>80</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>180</td> <td>120</td> <td>114</td> <td>103</td> <td>95</td> <td>91</td> <td>82</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合・こども</p>	区分	定員	平均利用者数						27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合「おひさま」	100	93	96	90	82	75	65	こども「ことり」	80	27	18	13	13	16	17	計	180	120	114	103	95	91	82	A	<p>育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。</p> <p>総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少してきているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、11月、12月には利用者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施した。</p> <p>こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和2年度は45人を上限に稼働し、今後段階的に増員する予定である。現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、広報誌の発行や、看護部を通じた産育休取得者への働きかけ等を行うことにより、今後、産育休復帰職員の利用が増加し、稼働率は上昇すると見込む。</p>			
区分	定員	平均利用者数																																														
		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																									
総合「おひさま」	100	93	96	90	82	75	65																																									
こども「ことり」	80	27	18	13	13	16	17																																									
計	180	120	114	103	95	91	82																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																						
						説明																																																																																																																																																											
3	医療に関する調査及び研究 医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。	3	医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。	3	医療に関する調査及び研究 県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																						
(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																						
各病院が臨床研究に取り組む、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組む、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備・充実による受託件数の増加④県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ③治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ④県立大学等の研究機関との共同研究	77	①臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ③研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ④臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ④県立大学との共同研究を行う。	臨床研究数 (単位: 件、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>279</td> <td>332</td> <td>376</td> <td>340以上</td> <td>399</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>38</td> <td>50</td> <td>-</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>15.4</td> <td>11.4</td> <td>13.3</td> <td>-</td> <td>14.3</td> </tr> </tbody> </table> 客員研究員受入状況 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>22</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> 社会健康医学受託研究の実施状況 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> 奨学寄附金受入件数・金額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">27年度</td> <td>大正富山医薬品</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第一三共株式会社</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株式会社</td> <td>糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">28年度</td> <td>興和創薬株式会社</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>麻酔の及ぼす影響に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>千正薬</td> <td>糖尿病・内分泌内科の研究費</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29年度</td> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>気管支喘息等の呼吸器・強固オレーション法の有用性</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>800</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30年度</td> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">元年度</td> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>400</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2年度</td> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本ベリタス・ワグネル株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>アマリス・セラピューティクス株式会社</td> <td>遺伝性疾患に関する研究支援</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>株式会社ジェンロ・リサーチ・ソリューションズ</td> <td>整形外科疾患における研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>1,900</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	研究数	233	266	279	332	376	340以上	399	支援研究数	46	46	43	38	50	-	57	支援率	19.7	17.3	15.4	11.4	13.3	-	14.3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	静岡県立大学	14	14	14	14	15	15	外部	4	7	9	11	22	25	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	件数	-	-	-	11	11	35	区分	寄附者	目的	金額 (千円)	27年度	大正富山医薬品	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究	200		合計		1,400	28年度	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500	千正薬	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000		合計		2,500	29年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300	日本ベリタス・ワグネル株式会社	気管支喘息等の呼吸器・強固オレーション法の有用性	500		合計		800	30年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	糖尿病治療に関する研究	150		合計	150	元年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベリタス・ワグネル株式会社	呼吸器疾患における研究	200		合計		400	2年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベリタス・ワグネル株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アマリス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社ジェンロ・リサーチ・ソリューションズ	整形外科疾患における研究	1,000		合計		1,900	県が平成30年3月に策定した社会健康医学研究推進基本計画に基づき、リサーチサポートセンターを拠点に、県民の健康寿命延伸のため、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする社会健康医学研究を実施した。 令和2年度は、寺尾免疫研究部長らによる研究論文が英科学雑誌「Nature」に掲載されるなど実績を上げている。また、きこえことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)では乳幼児期の難聴や人工内耳の装着による脳の発達メカニズムに関する研究を実施している。 さらに、令和3年4月の静岡社会健康医学大学院大学(令和2年10月認可)の開学に向け、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んだ他、規程の整備等、医療従事者が働きながら修学できる環境を整えた。 令和2年1月、慶應義塾大学大学院医学研究科と医療の質の向上を図るため、機構医師の大学院博士課程への入学など人的交流などを行う連携協力に関する協定を締結し、勤務医が働きながら修学できる環境を整えた。令和2年度は、令和3年度の修学に向け院生を1名選定した。 また、令和3年4月に開学した静岡社会健康医学大学院大学についても、規程を整備し、令和3年度の修学に向け院生を5名選定するなど、医療従事者が働きながら修学できる環境を整えている。 なお、令和2年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数8件、採択件数2件(1,950千円)であった。	・県民の健康寿命延伸に向けた社会健康医学研究の推進にあたっては、リサーチサポートセンターにおける研究の推進、人材の育成、成果の還元の拠点となる社会健康医学大学院大学の開学に向け、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んでいる。 ・医療ビッグデータや疫学の社会健康医学研究のための客員研究員の受入れの増加、勤務医による臨床研究数の増加など、研究体制強化の成果が現れており、今後も医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境をPRすることによる医師確保への貢献が期待される。 ・令和2年度は、免疫研究部長の関わる研究論文が、世界で特に権威ある学術雑誌と評価される英科学雑誌「Nature」に掲載されるなど、研究実績が注目を集めている。 ・平成31年3月には、文部科学省科学研究費補助金の受入れが可能な研究機関としてリサーチサポートセンターを含む14部門が指定を受けており、令和2年度は8件を応募、うち2件が採択されている。 ・令和2年1月に、慶應義塾大学大学院医学研究科と、より一層の医学研究の連携等を図るため、機構医師や大学院学生の相互受入れ等、人的交流を図るための連携・協力協定を締結し、令和2年度は機構内で研究候補者を1名選定し、令和3年度の修学に向けて調整を行った。 ・修学後は、慶應義塾大学大学院での必修科目を除き、機構で働きながら研究を行い、博士課程の修学を行うことができる。 ・また、令和3年4月に開学した静岡社会健康医学大学院大学についても、医師を推薦している。 ・意欲ある医師に研究や学術交流の機会を提供することで、本県の医療水準の向上に寄与しており、また、医療人材の確保に努めている。 ・静岡県乳幼児聴覚支援センターは、平成22年に県の委託により総合病院に設置し、言語聴覚士2名体制で、聴覚異常の早期発見と早期治療にかかる専門的支援を実施してきた。 ・平成28年度には、県の新生児聴覚検査機器購入費用助成により、県内全分宛取扱医療機関で検査体制が整い、平成30年度からは当機器による検査費用の公費助成が全市町で実施されている。 ・研究支援室は、医師や看護師等による臨床研究について、あらかじめ倫理・疫学・統計の専門家による審査を経てから研究開始するシステム構築のために組織改編された。 ・専従の薬剤師2名、看護師2名、事務職員を配置し、新しい治療法や新薬の開発に向けた臨床試験や治験が倫理指針に沿って安全かつ科学的に実施できるよう支援している。	22	1	☆
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度																																																																																																																																																										
研究数	233	266	279	332	376	340以上	399																																																																																																																																																										
支援研究数	46	46	43	38	50	-	57																																																																																																																																																										
支援率	19.7	17.3	15.4	11.4	13.3	-	14.3																																																																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																											
静岡県立大学	14	14	14	14	15	15																																																																																																																																																											
外部	4	7	9	11	22	25																																																																																																																																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																											
件数	-	-	-	11	11	35																																																																																																																																																											
区分	寄附者	目的	金額 (千円)																																																																																																																																																														
27年度	大正富山医薬品	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																														
	協和発酵キリン	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																																														
	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500																																																																																																																																																														
	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究	200																																																																																																																																																														
	合計		1,400																																																																																																																																																														
28年度	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																														
	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																														
	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																																														
	千正薬	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000																																																																																																																																																														
	合計		2,500																																																																																																																																																														
29年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300																																																																																																																																																														
	日本ベリタス・ワグネル株式会社	気管支喘息等の呼吸器・強固オレーション法の有用性	500																																																																																																																																																														
	合計		800																																																																																																																																																														
30年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	糖尿病治療に関する研究	150																																																																																																																																																														
		合計	150																																																																																																																																																														
元年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																														
	日本ベリタス・ワグネル株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																														
	合計		400																																																																																																																																																														
2年度	日本ベリタス・ワグネル株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																														
	日本ベリタス・ワグネル株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																														
	アマリス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																														
	株式会社ジェンロ・リサーチ・ソリューションズ	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																														
	合計		1,900																																																																																																																																																														
【目標値】 ・臨床研究数(総合)		③医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	78		医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位: 千円、件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>件数 29</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額 90,549</td> <td>78,259</td> <td>64,062</td> <td>101,428</td> <td>42,504</td> <td>27,994</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>件数 5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額 1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>件数 29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>26</td> <td>35</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額 10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>14,018</td> <td>29,479</td> <td>12,041</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	件数 29	30	29	24	17	17		契約額 90,549	78,259	64,062	101,428	42,504	27,994	こころ	件数 5	0	0	0	0	0		契約額 1,139	0	0	0	0	0	こども	件数 29	26	15	26	35	23		契約額 10,858	19,656	5,087	14,018	29,479	12,041	製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。	・医薬品受託研究については、総合病院・こども病院ともに、契約額は令和元年度を下回っており、こども病院については件数も令和元年度より減少している。 ・総合の研究支援室は、新しい治療法や新薬の開発に向けた臨床試験や治験を安全かつ科学的に実施できるよう支援している。																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																											
総合	件数 29	30	29	24	17	17																																																																																																																																																											
	契約額 90,549	78,259	64,062	101,428	42,504	27,994																																																																																																																																																											
こころ	件数 5	0	0	0	0	0																																																																																																																																																											
	契約額 1,139	0	0	0	0	0																																																																																																																																																											
こども	件数 29	26	15	26	35	23																																																																																																																																																											
	契約額 10,858	19,656	5,087	14,018	29,479	12,041																																																																																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																				
						説明																									
(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	(2) 診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析のできるシステムの活用	-	-	-	-	-																								
			79	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	<p>DPCコーディング部会開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	開催回数	2	4	6	4	4	4	出席者数	17	32	55	37	25	33	A	<p>DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告し、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めた。</p> <p>・平成30年度より、DPC データを容易に集計・抽出し、グラフや表に可視化できる市販の分析ソフト「girasol(ヒラソル)」を導入し、医局会資料として、DPCの算定式における入院期間Ⅱ(全国のDPC参加等病院の平均在院日数)以内の退院実施率等について、毎月報告を行っている。 ・レセプト請求のコーディングチェックによる請求漏れ対策としても活用しており、また、クリニカルパスのベンチマークデータとして活用することも増えるなど、診療情報の病院運営への活用が図られている。</p>	23		○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																									
開催回数	2	4	6	4	4	4																									
出席者数	17	32	55	37	25	33																									
			80	①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	<p>DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。</p> <p>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	開催回数	2	4	4	4	4	4	出席者数	23	54	53	49	49	58	A	<p>早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求することができている。 原価計算システムの運用については、医事システムに入っている経営分析に与するシステムとともに経営分析に効率的に反映できるよう、院内経営戦略会議にて活用方法を調整している。</p> <p>・平成24年度からDPC分析ソフト「girasol(ヒラソル)」を導入し、小児専門病院間で分析結果のベンチマークを行い、結果は全国こども病院診療情報管理研究会で報告するとともに、レセプト提出前にコーディングデータのチェックを行い、診療報酬請求の精度向上に努めている。 ・診療科毎にDPCコーディングの検証や機能評価係数Ⅱの分析を行い、年4回の開催が義務づけられているコーディング委員会にて結果を報告しているほか、ジェネリック率や各種診療行為件数等の学会や管理会議報告データ集計、令和2年度診療報酬改定の影響にかかる検証等を実施するなど、診療情報の病院運営への活用が図られている。</p>	23		○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																									
開催回数	2	4	4	4	4	4																									
出席者数	23	54	53	49	49	58																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																									
						説明																																																																														
4	医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	4	医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	4	医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	-	-	-	-	-	-																																																																									
(1)	地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	(1)	地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力する。県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	(1)	地域の医療機関等との連携・支援 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師定数の見直し ③「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部である医師就労等相談窓口業務などの効率的な運営 ④県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑤専門医制度への対応 ⑥医療機器の共同利用の推進 ⑦ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	-	-	-	-	-	-																																																																									
			81	①②④地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ①⑥⑦地域医療連携推進法人制度などを活用して、地域の公的医療機関と連携し、県の地域医療構想推進を支援することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。	<p>医師定数（各年度4月1日現在）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定数</td> <td>233</td> <td>233</td> <td>269</td> <td>271</td> <td>283</td> <td>314</td> <td>314</td> </tr> </tbody> </table> <p>（総合）</p> <p>医師派遣実績（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関等</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>577</td> <td>513</td> <td>752</td> <td>687</td> </tr> </tbody> </table> <p>（こども）</p> <p>静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、中東遠総合医療センター、吉原林間学園診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績（公的病院等）（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関等</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>958</td> <td>1078</td> <td>803</td> <td>202</td> <td>282</td> <td>277</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成29年度までは後期研修医の派遣も含まれている。平成30年度からは小児科専攻医制度の制度変更に伴い、退職扱いの派遣となった。（平成29年度までと同様の算出であれば令和2年度実績は1,554人となる）</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	定数	233	233	269	271	283	314	314	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	医療機関等	10	9	8	8	9	9	診療科	9	6	9	9	11	11	延人員数	775	570	577	513	752	687	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	医療機関等	7	6	7	5	7	7	診療科	2	2	2	2	2	3	延人員数	958	1078	803	202	282	277	<p>本部（総務）総合・こども</p>	<p>県立病院としての役割を果たすため、医師確保に努めるとともに、医師不足が顕著な公的病院等に医師を派遣した。また、医師確保や派遣を行い地域医療を支えるため、一般社団法人を立ち上げ、地域医療連携推進法人認定の準備を行った。今後、再検証病院への医師派遣などを通じて県の地域医療確保に貢献していく。</p> <p>なお、静岡県立病院機構として必要とする医師数について、適正な定数管理を行った。</p> <p>（総合）</p> <p>医療機関等に対しては、静岡市立清水病院、桜ヶ丘病院、清水厚生病院、静岡厚生病院、島田市民病院、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所の計9箇所に医師派遣を行った。</p> <p>（こども）</p> <p>県内の7医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があるが、働き方改革への対応とのバランスをとりながら行っている。</p>				24	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																													
定数	233	233	269	271	283	314	314																																																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																														
医療機関等	10	9	8	8	9	9																																																																														
診療科	9	6	9	9	11	11																																																																														
延人員数	775	570	577	513	752	687																																																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																														
医療機関等	7	6	7	5	7	7																																																																														
診療科	2	2	2	2	2	3																																																																														
延人員数	958	1078	803	202	282	277																																																																														
			82	①小児1次救急医療への応援を行う。	<p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>292</td> <td>295</td> <td>294</td> <td>218</td> <td>214</td> <td>197</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	292	295	294	218	214	197	こども	<p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく必要があると考えるが働き方改革への対応とのバランスをとりながら行っている。</p>				24	○																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																														
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																																														
診療科	2	2	2	2	2	2																																																																														
延人員数	292	295	294	218	214	197																																																																														
			83	③ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。	<p>『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。</p> <p>配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当）（単位：名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>64</td> <td>76</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>47</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	配置調整医師数	14	34	64	64	76	108	うち県内勤務医師数	10	22	41	39	47	71	本部（企画）	<p>業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。</p>																																																								
勤務開始年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																														
配置調整医師数	14	34	64	64	76	108																																																																														
うち県内勤務医師数	10	22	41	39	47	71																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																		
						説明																																							
			84	⑤専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	<p>(総合)</p> <p>令和2年4月、17名が専門研修プログラムに所属し、研修を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。</p> <p>(こども)</p> <p>令和2年度は、2名の専攻医を受け入れた。令和3年度募集に向けて、専攻医募集のため病院紹介の動画を作成し、ホームページ掲載等を行うなど、広報活動を行った。また、6名の病院見学を受け入れるなど、専攻医確保に努めた。</p> <p>(こども)</p> <p>平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れが難しい状況となっている。</p>	A	<p>(総合)</p> <p>専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行った。</p> <p>(こども)</p> <p>新専門医制度における専攻医研修プログラムを提供している。専攻医を確保し、県内の専門医育成に寄与している。</p> <p>小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により十分受け入れられていないものの、今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明会の開催や、首都圏等のレジナビへの参加、PR動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。</li> <li>・令和2年度は、総合病院は9プログラムの定員51人に対し20人の採用、こどもの医療センターは1プログラムの定員6人に対し4人の採用、こども病院は1プログラムの定員8人に対し4人の採用となっており、いずれも定員には満たないが、制度開始初年度以降、増加傾向である。</li> <li>・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するとともに、他診療科とのチーム医療も研修できるよう配慮するなど、充実を図っている。</li> <li>・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への専攻医の分散等の影響も見据え、地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。</li> </ul>	25	○																																			
			85	⑥地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	<p>平成22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせている。</p> <p>CT、MRI共同利用 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>896</td> <td>881</td> <td>659</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>543</td> <td>586</td> <td>595</td> <td>472</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>24</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	CT	815	919	847	896	881	659	MRI	645	621	543	586	595	472	CT(撮影のみ)	1	6	2	1	0	0	MRI(撮影のみ)	132	129	131	24	1	0	A	<p>令和2年度のCT・MRI共同利用件数は令和元年度数値を下回った。市内他病院の機器整備が進んだ影響により、今後も利用数の大幅な伸びはなく、一定の水準で推移するものと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CT・MRIの共同利用件数は市内他病院の機器整備が進んだ影響により、令和元年度を下回っている。</li> <li>・地域医療を支援する中心的機能を担う立場から、引き続き、病連携・病診連携等の相互連携の推進に努めることが期待される。</li> </ul>		
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																							
CT	815	919	847	896	881	659																																							
MRI	645	621	543	586	595	472																																							
CT(撮影のみ)	1	6	2	1	0	0																																							
MRI(撮影のみ)	132	129	131	24	1	0																																							
			86	⑦ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	<p>地域医療連携推進事業費補助金を活用し、市立島田市民病院及び中東遠総合医療センターの機器の更新を進めた。</p> <p>また、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続き等の運用の見直しを行った。</p>	A	<p>令和2年度は、補助金を活用し、2病院の機器の更新を進めた。</p> <p>また、患者への参加同意取得手続き等の運用の見直しにより、開示の拡充及び病診連携への活用拡充等につながるよう取り組んだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県はふじのくにねっと支援のため、平成28年度からシステム整備費用を助成しており、令和元年度からは新たに、賀茂地域などの過疎地域等の病院から圏域をまたいだ基幹病院への救急患者搬送にふじのくにねっとを有効に活用する目的で、地域を限定し補助率を嵩上げた補助制度を導入した。</li> <li>・協議会事務局である総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する当ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。</li> </ul>																																					
			87	⑦国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	<p>小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター (IJN) との接続試験を兼ねた症例検討会を定期的の実施している。他医療機関(4施設)と連携し、例年心エコー画像遠隔診断を実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により症例数が減少し、実施できていない。</p> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	症例数	7	5	7	5	3	0	B	<p>小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを定期的の実施した。また、令和2年度、患者の受入はなかったが、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスは定期的の実施している。</p> <p>また、例年実施している沼津市立総合病院など4医療機関との心エコー画像遠隔診断について、令和2年度、対象症例がなく実施していないが、医療機関からの相談については、引き続き映像情報を活用して応じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立病院を連携機関として実施しており、令和2年度は対象症例がないため実施していないが、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じた、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元を努めている。</li> </ul>																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																							
症例数	7	5	7	5	3	0																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																							
						説明																																												
② 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	② 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	② 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及  ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研究会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放	—	—	—	—	—																																											
			88	①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	総合	拡大キャンサーボード実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">参加人数</td> <td>院内</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>153</td> <td>194</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>261</td> <td>172</td> <td>128</td> <td>162</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>281</td> <td>356</td> <td>286</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	回数	6回	6回	6回	6回	5回	3回	参加人数	院内	161	160	153	194	178	院外	261	172	128	162	108	合計	422	332	281	356	286	B	拡大キャンサーボード(多職種カンファレンス)を定期的に開催し、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、回数及び参加人数を制限して開催した。									
			区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																									
			回数	6回	6回	6回	6回	5回	3回																																									
参加人数	院内	161	160	153	194	178																																												
	院外	261	172	128	162	108																																												
	合計	422	332	281	356	286																																												
89	①他団体の講師派遣依頼に協力する。	総合	講師派遣実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>51</td> <td>43</td> <td>56</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>36</td> <td>4</td> <td>31</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>94</td> <td>66</td> <td>82</td> <td>83</td> <td>94</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	医師	58	62	51	43	56	58	その他	36	4	31	40	38	34	計	94	66	82	83	94	92	A	他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																												
医師	58	62	51	43	56	58																																												
その他	36	4	31	40	38	34																																												
計	94	66	82	83	94	92																																												
90	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	ユニバーサル	院外講演会講師派遣状況(医師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>22</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>33</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	派遣回数	30	18	18	21	22	4	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	派遣回数	22	32	28	26	33	17	A	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により講演等の開催が中止となったため前年比で減少したものの、WEBを活用しつつ他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。	・多職種の医療チームが参加してがんの症例検討を行う「拡大キャンサーボード」、他団体等主体の講演会への講師派遣、医療観察法に基づく鑑定対応、子どもの心の診療ネットワーク事業における静岡県の拠点病院としての診療支援・研修事業など、地域の医療従事者の養成への貢献や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、病院機構の有する高度・専門医療の技術や知見が積極的に地域に共有・還元されている。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響をうけて、講演等の開催が中止となっているが、WEBの活用など講師派遣依頼に対し、機構として適切に対応している。																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																												
派遣回数	30	18	18	21	22	4																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																												
派遣回数	22	32	28	26	33	17																																												
91	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	ユニバーサル	医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。  医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	こころ	7	9	12	4	5	10	A	令和2年度は医療観察法に係る鑑定について10件の受入を行い、前年度実績を上回った。県内精神医療の中核病院として、医療にかかる鑑定等の要請への協力などに積極的な対応を行っている。	26		○																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																												
こころ	7	9	12	4	5	10																																												
92	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	ユニバーサル	精神保健講座等開催実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>5回</td> <td>22回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>11回</td> <td>135回</td> <td>10回</td> <td>11回</td> <td>10回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>5回</td> <td>10回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>11回</td> <td>135回</td> <td>10回</td> <td>11回</td> <td>10回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>166人</td> <td>135人</td> <td>156人</td> <td>159人</td> <td>96人</td> <td>49人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	精神保健講座	5回	22回	5回	11回	5回	11回	児童養護施設巡回講座	11回	135回	10回	11回	10回	11回	精神保健講座	5回	10回	5回	11回	5回	11回	児童養護施設巡回講座	11回	135回	10回	11回	10回	11回	参加者数等	166人	135人	156人	159人	96人	49人	A	教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図っている。			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																												
精神保健講座	5回	22回	5回	11回	5回	11回																																												
児童養護施設巡回講座	11回	135回	10回	11回	10回	11回																																												
精神保健講座	5回	10回	5回	11回	5回	11回																																												
児童養護施設巡回講座	11回	135回	10回	11回	10回	11回																																												
参加者数等	166人	135人	156人	159人	96人	49人																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																									
						説明																																																																																																																																																														
			93	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	<p>公費負担患者状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1,842</td> <td>1,837</td> <td>1,771</td> <td>1,691</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>471</td> <td>114</td> <td>55</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>164</td> <td>189</td> <td>182</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>157</td> <td>138</td> <td>115</td> <td>88</td> <td>100</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>176</td> <td>182</td> <td>182</td> <td>181</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>89</td> <td>69</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>119</td> <td>143</td> <td>146</td> <td>204</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>2,975</td> <td>2,645</td> <td>2,512</td> <td>2,452</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	小児慢性	1,901	1,891	1,842	1,837	1,771	1,691	育成医療	721	722	471	114	55	36	養育医療	258	240	164	189	182	190	特定疾患	7	6	5	3	7	6	特定疾病	157	138	115	88	100	92	生活保護	172	181	176	182	182	181	精神保健	96	102	83	89	69	52	その他	97	111	119	143	146	204	計	3,409	3,391	2,975	2,645	2,512	2,452	A	<p>公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応している。</p> <p>・医療費助成制度(公費負担)においては、患者が自己負担額の助成を受けるため、医療機関受診後に自治体に対して申請を要する。 ・特にこどもでは小児慢性特定疾患治療への対応が多く求められているが、患者家族の手続き上の負担や心情に配慮した丁寧な対応が図られている。</p>																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																														
小児慢性	1,901	1,891	1,842	1,837	1,771	1,691																																																																																																																																																														
育成医療	721	722	471	114	55	36																																																																																																																																																														
養育医療	258	240	164	189	182	190																																																																																																																																																														
特定疾患	7	6	5	3	7	6																																																																																																																																																														
特定疾病	157	138	115	88	100	92																																																																																																																																																														
生活保護	172	181	176	182	182	181																																																																																																																																																														
精神保健	96	102	83	89	69	52																																																																																																																																																														
その他	97	111	119	143	146	204																																																																																																																																																														
計	3,409	3,391	2,975	2,645	2,512	2,452																																																																																																																																																														
			94	①研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>(総合)</p> <p>(総合) 海外研修の実績 (2年度) (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>学会発表実績 (国内外) (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表数</td> <td>472</td> <td>578</td> <td>600</td> <td>596</td> <td>547</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <p>(こころ)</p> <p>学会発表実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>学会発表実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業件数</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>396</td> <td>414</td> <td>448</td> <td>141</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	実績なし		計	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	発表数	472	578	600	596	547	51	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	学会発表件数	8	10	10	10	12	4	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	事業件数	468	496	396	414	448	141	B	<p>医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、Web開催には対応しているものの、学会の中止等により参加機会が減少した。</p> <p>医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。</p> <p>・全国水準を上回る研究研修費を確保することにより、新技術・知識習得のための各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種図書購入等を推進している。 ・研修会等の参加者が得た知識をもとに、院内・院外の研修で講師を務めて研修成果の伝達を行うなど工夫している。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響で学会等の開催数が減少しているため、学会発表実績の減少はやむを得ないが、引き続き学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持していくことが期待される。</p>																																																																																																													
内 容	人数																																																																																																																																																																			
実績なし																																																																																																																																																																				
計	0																																																																																																																																																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																														
発表数	472	578	600	596	547	51																																																																																																																																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																														
学会発表件数	8	10	10	10	12	4																																																																																																																																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																														
事業件数	468	496	396	414	448	141																																																																																																																																																														
			95	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	<p>資格等取得助成制度利用者 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合							看護師	7	27	8	0	0	9	コメディカル	4	11	12	0	0	1	事務	0	0	0	0	0	0	計	11	38	20	0	0	10	こころ							看護師	0	0	0	0	2	1	コメディカル	0	0	0	0	5	0	事務	1	0	0	0	1	0	計	1	0	0	0	8	1	こども							看護師	9	30	3	7	6	2	コメディカル	0	0	0	4	4	0	事務	0	0	1	0	0	0	計	9	30	4	11	10	2	本部							事務	0	0	0	0	0	0	看護師	16	57	11	7	8	12	コメディカル	4	11	12	4	9	1	事務	1	0	1	0	1	0	計	21	68	24	11	18	13	A	<p>資格等取得助成制度は、平成24年度から整備し、資格取得を支援している。これまで、毎年度一定数の利用者がある。</p> <p>・資格等助成制度は、看護師、コメディカル、事務職員が、診療情報管理士資格等の新たな免許・資格等の積極的取得促進のために、原則として3万円を上限として、支給する助成金である。 ・職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられ、専門的知識を有する職員の育成と能力を発揮できるよう、緩和ケアやがん看護の認定看護師をがん相談センターに配置するなど、資格の特性が人事配置にあたって考慮されている。</p>			
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																														
総合																																																																																																																																																																				
看護師	7	27	8	0	0	9																																																																																																																																																														
コメディカル	4	11	12	0	0	1																																																																																																																																																														
事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																														
計	11	38	20	0	0	10																																																																																																																																																														
こころ																																																																																																																																																																				
看護師	0	0	0	0	2	1																																																																																																																																																														
コメディカル	0	0	0	0	5	0																																																																																																																																																														
事務	1	0	0	0	1	0																																																																																																																																																														
計	1	0	0	0	8	1																																																																																																																																																														
こども																																																																																																																																																																				
看護師	9	30	3	7	6	2																																																																																																																																																														
コメディカル	0	0	0	4	4	0																																																																																																																																																														
事務	0	0	1	0	0	0																																																																																																																																																														
計	9	30	4	11	10	2																																																																																																																																																														
本部																																																																																																																																																																				
事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																														
看護師	16	57	11	7	8	12																																																																																																																																																														
コメディカル	4	11	12	4	9	1																																																																																																																																																														
事務	1	0	1	0	1	0																																																																																																																																																														
計	21	68	24	11	18	13																																																																																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																										
						説明																																															
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	96	① 県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。	B	—		27	1	○																																										
					各病院(企画)																																																
					各病院(企画)																																																
			97	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	(総合) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンホスピタルは開催中止とした。 オープンホスピタル来場者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,200</td> <td>1,200</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> 例年、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展しているが、令和2年度はコロナ禍の状況を鑑み不参加となった。 こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位:組、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>1,064</td> <td>792</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※例年2日間開催されるが、令和元年度は台風の影響により、1日のみの開催	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	来場者数	1,000	1,200	1,400	1,200	1,200	—	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	健康相談	10	17	22	10	3	0	写真撮影	859	1,288	957	1,064	792	0	例年、オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見送った。開催を見送ったことで、適正な評価が困難であることから、評価対象から除外した。令和2年度は、不特定多数の集まるイベントを中止しており、令和3年度も現時点では行わない予定である。ただし、人数を制限した公開講座(No.96)等は、縮小して開催しており、県民への情報提供は継続している。また、「病院だより」等、健康情報が記載されている冊子をホームページに掲載しており、健康に関する知識の充実につなげている。												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
来場者数	1,000	1,200	1,400	1,200	1,200	—																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
健康相談	10	17	22	10	3	0																																															
写真撮影	859	1,288	957	1,064	792	0																																															
			98	② 県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	機構全体のトピックスやプレスリリース、各病院の感染症対策情報等を迅速に更新し、積極的に情報発信を行った。 セクション別アクセス件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>218,435</td> <td>226,519</td> <td>232,673</td> <td>246,234</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,017,729</td> <td>2,322,348</td> <td>2,902,755</td> <td>2,751,715</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>275,298</td> <td>376,258</td> <td>662,762</td> <td>659,939</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,551,263</td> <td>1,690,943</td> <td>1,772,069</td> <td>1,800,380</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,062,725</td> <td>4,616,068</td> <td>5,570,259</td> <td>5,458,268</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	本部	271,467	214,412	218,435	226,519	232,673	246,234	総合	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,322,348	2,902,755	2,751,715	こころ	279,546	269,084	275,298	376,258	662,762	659,939	こども	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380	合計	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,616,068	5,570,259	5,458,268	総合病院の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。引き続き積極的な情報発信に努める。こころの医療センターでは、医師採用募集の動画を更新している。また、定期的な活動レポートの更新や来院者に向けた当院の感染症対応について、迅速かつ積極的な情報発信に努めている。					
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
本部	271,467	214,412	218,435	226,519	232,673	246,234																																															
総合	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,322,348	2,902,755	2,751,715																																															
こころ	279,546	269,084	275,298	376,258	662,762	659,939																																															
こども	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380																																															
合計	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,616,068	5,570,259	5,458,268																																															
			99	③ 県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。平成28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。 記者情報提供件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>43</td> <td>36</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> ※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	提供件数	41	48	47	43	36	19	掲載件数	27	31	36	30	24	13	県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。提供件数は高い水準を保っているが、先端医学棟や北立体駐車場の建設などの大型建築物の設置が完了したことや、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等を中止するなど前年度と比較して減少している。引き続き、継続して取り組みを強化していく。																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																															
提供件数	41	48	47	43	36	19																																															
掲載件数	27	31	36	30	24	13																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価		
						説明	県評価					
5 災害等における医療救護 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	5 災害等における医療救護 地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時においては静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	5 災害等における医療救護 県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	-	-	-	-	-	-	-	-		
(1) 医療救護活動の拠点機能 災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立このころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	(1) 医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	-	-	-	2年度実績 令2.7.10 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加) 令2.7.16 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令2.9.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	28	○		
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	(2) 他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	100 ~ 102	-	-	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	総合 こども	大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、DPAT隊を派遣した。 また、令和3年2月1日には県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けた。 防災訓練(避難訓練)2年度実績 令2.7.16 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令2.8.31 院内安全情報確認システムのメール送受信訓練実施 令2.10.26 院内防災訓練(第1回) 令3.1.25 院内防災訓練(第2回) DPAT派遣 2年度実績 令2.12.9 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DPAT派遣(県東部精神科病院)	S	令和2年度は、災害時に対する日頃の備えに努めるため、行政機関(国、県等)が行う、EMISによる情報伝達などに積極的に参加した。 また、DPAT隊の保有やBCPの策定などを含めた体制整備を行い、令和3年2月1日付けで県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けた。 県の派遣要請により、実際に当センターのDPAT隊を派遣し、精神科医療の支援を行った。	28	☆
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	(2) 他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103	-	-	令和2年11月に、全職員対象とした総合防災訓練として災害時の初動体制確認の訓練等を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小しての実施となった。災害対策本部構成員の見直しを行ったため、新体制での災害対策本部机上訓練を総合防災訓練前に開催し、訓練の充実を図った。 また、当院のBCPを策定し、あわせて地震防災マニュアルの見直しを行った。	こども	災害時の初動体制について、院内で共通意識を持つことが出来た。小児医療の拠点病院として、今後も継続して各種防災訓練を企画・実施していく。	28	○		
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	(2) 他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103	-	-	2年度実績 令2.9.17 静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回) 令2.10.7 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 令2.4~3 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部等)(DMAT隊員8名) DMAT訓練回数(単位:回) 区分 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 訓練 6 8 8 8 8 1	総合	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、政府や県が主催する訓練が中止となっているが、チーム内では適切に情報を伝達、共有するための準備を行っている。 また、県からの要請に伴い、新型コロナウイルス対策本部へのDMAT隊員派遣を継続的に実施した。	28	○		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																						
						説明																																																																																																																																																																																																											
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項  医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置  業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置  業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																										
1 効率的な業務運営体制の強化  医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、未稼働病床については、その活用方法について検討すること。	1 効率的な業務運営体制の強化  医療環境の変化や県民の医療需要に的確に対応されるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組み、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	1 効率的な業務運営体制の強化  ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取組み ④効果的な職員採用 ⑤柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑥看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な確保対策の実施 ⑦経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑧経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑨業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	104	①②組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ①②理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。  ④優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組を行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ⑤柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ⑥パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	本部・各病院 本部・各病院(総務・企画・経営)	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。緊急事態宣言が発令されていた5月については新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。 県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	A	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始している。																																																																																																																																																																																																									
			105		本部・各病院(総務)	アソシエイト採用実績(各年度4月1日現在) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> 正規職員数の状況(各年度4月1日現在) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,242</td> <td>1,271</td> <td>1,317</td> <td>1,331</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>170</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>174</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,088</td> <td>2,112</td> <td>2,174</td> <td>2,201</td> </tr> </tbody> </table> 看護師修学資金の状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>114</td> <td>55</td> <td>50</td> <td>36</td> <td>466</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>182</td> <td>147</td> <td>128</td> <td>845</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲9</td> <td>▲8</td> <td>▲7</td> <td>▲4</td> <td>▲44</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>268</td> <td>229</td> <td>190</td> <td>160</td> <td>1,267</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>63</td> <td>62</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>340</td> </tr> </tbody> </table> 看護師募集における広報等の実施状況(2年度末) ・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・静岡新聞求人情報掲載 ・県民だより求人情報掲載 ・ラジオ放送による求人情報広報 ・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示  柔軟な採用試験の実施状況 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> ホームページアクセス数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクセス数</td> <td>年間 69,555</td> <td>69,291</td> <td>88,655</td> <td>104,100</td> <td>107,956</td> </tr> </tbody> </table> ※平成27年に現システムを使用開始  看護学生向け就職説明会 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>158</td> <td>158</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>184</td> <td>79</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(静岡)</td> <td>204</td> <td>254</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>163</td> <td>154</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>709</td> <td>645</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>0</td> <td>191</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>0</td> <td>84</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>PR動画の提供</td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>35</td> <td>41</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>35</td> <td>316</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>744</td> <td>961</td> <td>204</td> </tr> </tbody> </table> 効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進めた。 こうした取組みの結果、採用数の増加に繋げることができた。今後も職員確保に向けた取組を継続していく。	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	看護師	1	-	3	-	1	事務	2	2	10	3	2	コメディカル	3	4	3	1	4	計	6	6	16	4	7	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	本部	31	29	27	34	35	34	36	総合	1,080	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	こども	161	165	166	170	170	175	174	合計	1,941	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	計	決定	123	88	114	55	50	36	466	継続	99	126	163	182	147	128	845	取消	▲11	▲5	▲9	▲8	▲7	▲4	▲44	貸与計	211	209	268	229	190	160	1,267	採用	76	40	63	62	53	46	340	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	件数	-	7	7	6	7	9	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	アクセス数	年間 69,555	69,291	88,655	104,100	107,956	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	158	158	23	ナースナビ(浜松)	184	79	10	マイナビ(静岡)	204	254	55	(沼津)	163	154	24	業者計	709	645	112	静岡県立大学	0	191	41	常葉大学	0	84	24	聖隷クリストファー大学	PR動画の提供		9	順天堂大学	中止	中止	14	静岡市立看護専門学校	35	41	3	静岡県立看護専門学校	中止	中止	1	養成校計	35	316	92	計	744	961	204			
区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																												
看護師	1	-	3	-	1																																																																																																																																																																																																												
事務	2	2	10	3	2																																																																																																																																																																																																												
コメディカル	3	4	3	1	4																																																																																																																																																																																																												
計	6	6	16	4	7																																																																																																																																																																																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																										
本部	31	29	27	34	35	34	36																																																																																																																																																																																																										
総合	1,080	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331																																																																																																																																																																																																										
こども	161	165	166	170	170	175	174																																																																																																																																																																																																										
合計	1,941	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201																																																																																																																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	計																																																																																																																																																																																																										
決定	123	88	114	55	50	36	466																																																																																																																																																																																																										
継続	99	126	163	182	147	128	845																																																																																																																																																																																																										
取消	▲11	▲5	▲9	▲8	▲7	▲4	▲44																																																																																																																																																																																																										
貸与計	211	209	268	229	190	160	1,267																																																																																																																																																																																																										
採用	76	40	63	62	53	46	340																																																																																																																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																																											
件数	-	7	7	6	7	9																																																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																																												
アクセス数	年間 69,555	69,291	88,655	104,100	107,956																																																																																																																																																																																																												
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																														
ナース専科(静岡)	158	158	23																																																																																																																																																																																																														
ナースナビ(浜松)	184	79	10																																																																																																																																																																																																														
マイナビ(静岡)	204	254	55																																																																																																																																																																																																														
(沼津)	163	154	24																																																																																																																																																																																																														
業者計	709	645	112																																																																																																																																																																																																														
静岡県立大学	0	191	41																																																																																																																																																																																																														
常葉大学	0	84	24																																																																																																																																																																																																														
聖隷クリストファー大学	PR動画の提供		9																																																																																																																																																																																																														
順天堂大学	中止	中止	14																																																																																																																																																																																																														
静岡市立看護専門学校	35	41	3																																																																																																																																																																																																														
静岡県立看護専門学校	中止	中止	1																																																																																																																																																																																																														
養成校計	35	316	92																																																																																																																																																																																																														
計	744	961	204																																																																																																																																																																																																														



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価					
						説明										
3 収益の確保と費用の節減 新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。	3 収益の確保と費用の節減 診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的な検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。	3 収益の確保と費用の節減 ①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施	-	-	-	DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合 (単位: %)		A (総合) DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、各診療科に対して上位5疾患をリストアップし、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行った。 (こども) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で退院後の受入れが停滞したこともあり、ここ数年減少傾向にあった長期入院患者率が増加した。今後は感染症の影響を考慮しつつ、毎月行われる退院促進委員会において、ACT対象者の選定や地域移行の受入れ施設の状況確認等を行い、引き続き長期入院患者の退院促進に取り組んでいく。 (こども) DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。								
						区分	27年度実績					28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績
						総合	63.3					62.0	61.2	62.0	64.1	66.3
			111		各病院(医事)	長期入院患者率 (単位: %)		A (総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化した。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めた。 (こども) 診療材料については、使用期限切れの中で数量の多いものに関して医療部や看護部に相談し、必要性を審議している。必要性があり代用できるものであれば次回から既採用品目を使用する等、引き続き在庫管理に努める。 (こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底し、在庫管理に努めた。委員会などで破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理を周知した。								
区分	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績										
こども	57.9	61.5	59.9	67.0	67.8	67.6										
			112		各病院	2年度末 破棄・破損額 (単位: 千円)		A (総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化した。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めた。 (こども) 診療材料については、使用期限切れの中で数量の多いものに関して医療部や看護部に相談し、必要性を審議している。必要性があり代用できるものであれば次回から既採用品目を使用する等、引き続き在庫管理に努める。 (こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底し、在庫管理に努めた。委員会などで破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理を周知した。								
区分	診療材料費	薬品費	合計													
総合	3,751	3,381	7,132													
			113		各病院	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。		A (総合) 施設基準の新規及びランクアップの届出を積極的に行い、診療単価が向上した。 研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。  ・新たに導入した医療技術にかかる施設基準の届出など、医療の提供体制や内容に応じた診療報酬を適正に請求するため、研修を通じた職員養成など体制づくりに取り組んでいる。 ・総合病院では、事務部医事課に施設基準の届出・維持管理の担当職員を配置するなど、新たな施設基準の取得等に積極的に取り組んでいる。 ・診療報酬改定の年に件数が増加する傾向であり、直近3年の施設基準届出件数の推移は、平成30年度34件、令和元年度9件、令和2年33件となっており、経営面に貢献している。 ・今後も、診療報酬改定に際して、早期の情報収集に基づく迅速な院内体制の確保と、診療報酬事務職員の養成、医療現場への周知徹底が期待される。		30	○					
(総合)	医師の働き方改革を推進し、地域医療体制確保加算の届出を行った。															
(こども)	薬剤師の配置を見直し、病棟薬剤業務実施加算の届出を行った。															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																				
						説明																																																																																																									
			114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	<p>薬品・診療材料期限切れ廃棄額 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>1,873</td> <td>2,127</td> <td>2,832</td> <td>2,931</td> <td>2,279</td> <td>2,553</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>2,192</td> <td>1,615</td> <td>675</td> <td>969</td> <td>973</td> <td>627</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬品・診療材料在庫額 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> <td>92,244</td> <td>136,694</td> <td>153,688</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> <td>224,292</td> <td>221,511</td> <td>227,708</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	薬品	1,873	2,127	2,832	2,931	2,279	2,553	診療材料	2,192	1,615	675	969	973	627	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	薬品	114,860	101,066	102,777	92,244	136,694	153,688	診療材料	179,513	191,861	216,079	224,292	221,511	227,708	<p>薬品及び診療材料について、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図った。</p> <p>薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫減少に努めた。</p> <p>診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促した。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めた。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりマスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫量を増やすなど診療に支障がないよう取り組んだ。</p>	<p>・SPD(Supply Processing Distribution)は、薬品・診療材料等の発注、調達、物流、棚卸等を一元管理する仕組みであり、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に寄与している。</p> <p>・薬品在庫については、高度な手術や高額薬剤を使用する化学療法の件数増加等の要因により増加しているが、期限切迫品の可視化による周知、使用状況に応じた他部署への移管、不動在庫のリスト化など、期限切れの抑止に努めている。</p>	30		○																																																											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																									
薬品	1,873	2,127	2,832	2,931	2,279	2,553																																																																																																									
診療材料	2,192	1,615	675	969	973	627																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																									
薬品	114,860	101,066	102,777	92,244	136,694	153,688																																																																																																									
診療材料	179,513	191,861	216,079	224,292	221,511	227,708																																																																																																									
			115	④材料費等の節減のための対策を実施する。	<p>診療材料コスト縮減実績 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度実績</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>元年度実績</th> <th>2年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>68,499</td> <td>34,307</td> <td>27,923</td> <td>85,869</td> <td>82,971</td> <td>71,680</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>641</td> <td>107</td> <td>446</td> <td>95</td> <td>13</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>6,707</td> <td>8,320</td> <td>6,182</td> <td>15,458</td> <td>16,734</td> <td>12,229</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75,847</td> <td>42,734</td> <td>34,551</td> <td>101,422</td> <td>99,718</td> <td>83,912</td> </tr> </tbody> </table> <p>2年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">診療材料品目数</th> <th colspan="3">薬品品目数</th> <th rowspan="2">契約数(a+b-c)</th> </tr> <tr> <th>2年度当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> <th>2年度当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>17,110</td> <td>1,629</td> <td>1,169</td> <td>17,570</td> <td>1,640</td> <td>73</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>420</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>424</td> <td>655</td> <td>76</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,023</td> <td>236</td> <td>47</td> <td>4,212</td> <td>1,317</td> <td>84</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21,553</td> <td>1,879</td> <td>1,226</td> <td>22,206</td> <td>3,612</td> <td>233</td> <td>251</td> </tr> </tbody> </table> <p>2年度末 薬品 後発品採用率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>元年度実績</th> <th>2年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>24.7</td> <td>26.0</td> <td>27.3</td> <td>27.1</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>31.3</td> <td>34.4</td> <td>36.9</td> <td>38.7</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>21.6</td> <td>22.3</td> <td>22.4</td> <td>22.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	総合	68,499	34,307	27,923	85,869	82,971	71,680	こころ	641	107	446	95	13	3	こども	6,707	8,320	6,182	15,458	16,734	12,229	合計	75,847	42,734	34,551	101,422	99,718	83,912	区分	診療材料品目数			薬品品目数			契約数(a+b-c)	2年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	2年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	総合	17,110	1,629	1,169	17,570	1,640	73	66	こころ	420	14	10	424	655	76	121	こども	4,023	236	47	4,212	1,317	84	64	合計	21,553	1,879	1,226	22,206	3,612	233	251	区分	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	総合	24.7	26.0	27.3	27.1	こころ	31.3	34.4	36.9	38.7	こども	21.6	22.3	22.4	22.1	<p>(総合) 薬品については、競合する薬を引き合いに出した交渉により大幅な値引を実現したほか、入院使用分はDPC包括となるため、後発品への切り替えを積極的に進めた。診療材料については、令和2年度は価格交渉により約1,500万円削減した。また共同購入の成果により約5,600万円還元となった。</p> <p>(こころ) 3病院間で薬品の譲受譲渡について、平30は41品目、令元は72品目、令2は108品目と年々増加しており、不動在庫の軽減に繋がっている。また、採用品目を見直し、総合病院採用の品目へ切り替えることで譲受譲渡を行いやすくなった。入院患者の持参薬のうち、当院で採用がないものについては臨時的に採用しており、在庫薬の発生する原因となっていた。そこで、フォーミュラーを活用して臨時採用を減らし、また3病院間の譲受・譲渡を行うことにより在庫薬の削減を図った。在庫品数は品目数111品目から73品目となり、金額で約70万円から30万円に削減できた。</p> <p>診療材料については、病棟の消毒薬在庫の適正化を図り、入出庫の少ないものは、極力在庫を置かず、必要時その都度発注することとして、期限切れによる廃棄の削減に努めた。</p> <p>(こども) 小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認した上で行うべき内容であるが、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定し、後発薬品への切り替えを行った。また、診療材料は、令和元年から引き続き共同購入の取組開始しており、一層の価格削減を進めた。</p>	<p>・材料費の節減については、「トップダウン」としての診療材料採用の「一増、一減」方針の徹底、「ミドルマネジメント」としての診療材料委員会と中央材料室の機能向上、「ボトムアップ」としての全国的なベンチマークデータを活用した価格交渉など、一貫した節減努力の方向性のもとに取り組んでいる。</p> <p>・総合病院では、平成29年度に共同購入組織(一般社団法人日本ホスピタルアライアンス)に加盟し、令和2年度は約2,400万円の材料費節減成果をあげており、こども病院においても令和元年度に共同購入組織に加盟し、節減に努めている。</p> <p>・こころの医療センターにおいても、フォーミュラーの活用による臨時採用薬の削減や、患者持参薬の3病院間の採用薬への切り替えなどにより、在庫の削減に取り組んでいる。</p> <p>・診療報酬改定等の外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。</p>	30		○
区分	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績																																																																																																									
総合	68,499	34,307	27,923	85,869	82,971	71,680																																																																																																									
こころ	641	107	446	95	13	3																																																																																																									
こども	6,707	8,320	6,182	15,458	16,734	12,229																																																																																																									
合計	75,847	42,734	34,551	101,422	99,718	83,912																																																																																																									
区分	診療材料品目数			薬品品目数			契約数(a+b-c)																																																																																																								
	2年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	2年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)																																																																																																									
総合	17,110	1,629	1,169	17,570	1,640	73	66																																																																																																								
こころ	420	14	10	424	655	76	121																																																																																																								
こども	4,023	236	47	4,212	1,317	84	64																																																																																																								
合計	21,553	1,879	1,226	22,206	3,612	233	251																																																																																																								
区分	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績																																																																																																											
総合	24.7	26.0	27.3	27.1																																																																																																											
こころ	31.3	34.4	36.9	38.7																																																																																																											
こども	21.6	22.3	22.4	22.1																																																																																																											
			116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	<p>各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。</p> <p>価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。</p> <p>機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。</p> <p>価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。</p> <p>保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>令和2年6月に購入した超音波診断装置は、ベンチマークシステムによる価格調査に加え、2メーカーによる入札を実施した結果、定価224,220千円のところ、13,000千円(▲211,220千円)で契約することができた。また、複数の診療科で使用する超音波診断装置は、診療科間で共同利用する運用に改めた。</p> <p>3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約をすることで令和2年度は約454万円縮減している。引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。</p>	<p>・医療機器導入にあたっては、業者間・機種間の競争性を確保するとともに、ベンチマークの活用、保守契約の見直し等により、効率的な調達を図っている。</p> <p>・超音波診断装置など複数科で使用する装置について一覧表を作成し、臨床工学技師や検査技師等、医療機器を熟知する職員が介入して効率的に運用しているほか、人口呼吸器等の保守業務の一部を臨床工学技師による内製化に切り替えるなど、コスト削減に向けた工夫が継続されている。</p>	30		○																																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																				
						説明	県評価																																																																																																							
			117	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	<p>委託費の節減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。 委託の仕様の徹底した見直しを行った。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図った。</p> <p>2年度末 委託契約等の見直し状況（単年度ベース） （単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種類</th> <th>令2決議額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令2.4~令5.3</td> <td>単価</td> <td>61,960</td> </tr> <tr> <td>寝具類貸借</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令2.4~令5.3</td> <td>単価</td> <td>104,133</td> </tr> <tr> <td>給食業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令2.7~令5.6</td> <td>単価</td> <td>396,611</td> </tr> <tr> <td>警備等業務委託</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>令2.7~令5.6</td> <td>定額</td> <td>80,438</td> </tr> <tr> <td>消防設備点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令2.4~令5.3</td> <td>定額</td> <td>10,588</td> </tr> <tr> <td>庭園管理業務委託</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>令2.4~令5.3</td> <td>定額</td> <td>9,973</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令2.4~令3.3</td> <td>定額</td> <td>216,284</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令2.4~令3.3</td> <td>定額</td> <td>223,344</td> </tr> <tr> <td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td> <td>総・子</td> <td>1年</td> <td>令2.4~令3.3</td> <td>定額</td> <td>117,070</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令2.6~令3.3</td> <td>定額</td> <td>10,120</td> </tr> <tr> <td colspan="5">合計</td> <td>1,230,521</td> </tr> </tbody> </table> <p>2年度 委託モニタリング評価結果（2年度末）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>-1%</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令2決議額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令2.4~令5.3	単価	61,960	寝具類貸借	3病院	3年	令2.4~令5.3	単価	104,133	給食業務委託	3病院	3年	令2.7~令5.6	単価	396,611	警備等業務委託	心・子	3年	令2.7~令5.6	定額	80,438	消防設備点検業務委託	3病院	3年	令2.4~令5.3	定額	10,588	庭園管理業務委託	心・子	3年	令2.4~令5.3	定額	9,973	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令2.4~令3.3	定額	216,284	放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	令2.4~令3.3	定額	223,344	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令2.4~令3.3	定額	117,070	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令2.6~令3.3	定額	10,120	合計					1,230,521	区分	第1期	第2期	第3期	給食	可	可	可	区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	可	警備(心・子)	可	可	可	可	医事(総・心)	可	-1%	可	可	<p>複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件(令和2年度から新たな感染性廃棄物処理業務委託を複数年化に変更し1件増加)となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 複数年化及び複数病院一括化の見直しが一巡したので、今後はそれらの契約更新に当たり、前回の削減効果の検証及び更なる改善に取り組む。 更に、患者の利便性の向上や土地貸付料の確保による経営改善を図ることなどを目的に、敷地の一部を事業者に賃貸し、保険調剤薬局等を整備、運営させることとし、令和2年度は事業者を選定のうえ契約を締結した。</p>	<p>・委託業務については、複数年契約、複数病院一括契約等の工夫により、経費節減を図っている。 ・委託モニタリング制度は、成績不良の場合、契約解除や委託料の減額等の対応が取られる一方、努力すれば契約延長等のメリットが企業にあることから、緊張感を持った業務執行により、業務の質の向上が期待できる工夫である。</p>	30		○
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令2決議額																																																																																																									
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令2.4~令5.3	単価	61,960																																																																																																									
寝具類貸借	3病院	3年	令2.4~令5.3	単価	104,133																																																																																																									
給食業務委託	3病院	3年	令2.7~令5.6	単価	396,611																																																																																																									
警備等業務委託	心・子	3年	令2.7~令5.6	定額	80,438																																																																																																									
消防設備点検業務委託	3病院	3年	令2.4~令5.3	定額	10,588																																																																																																									
庭園管理業務委託	心・子	3年	令2.4~令5.3	定額	9,973																																																																																																									
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令2.4~令3.3	定額	216,284																																																																																																									
放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	令2.4~令3.3	定額	223,344																																																																																																									
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令2.4~令3.3	定額	117,070																																																																																																									
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令2.6~令3.3	定額	10,120																																																																																																									
合計					1,230,521																																																																																																									
区分	第1期	第2期	第3期																																																																																																											
給食	可	可	可																																																																																																											
区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																										
清掃	可	可	可	可																																																																																																										
警備(心・子)	可	可	可	可																																																																																																										
医事(総・心)	可	-1%	可	可																																																																																																										
			118	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑤未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談により、事務担当者のレベルアップを図る。	<p>平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。</p> <p>令和2年度 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>委任金額</th> <th>回収額</th> <th>累計回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24~26年度</td> <td>139</td> <td>60</td> <td>43.4%</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>23</td> <td>13</td> <td>45.2%</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>24</td> <td>15</td> <td>47.5%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>38</td> <td>17</td> <td>47.1%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>49.4%</td> </tr> <tr> <td>元年度</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>52.0%</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>30</td> <td>16</td> <td>59.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	委任金額	回収額	累計回収率	24~26年度	139	60	43.4%	27年度	23	13	45.2%	28年度	24	15	47.5%	29年度	38	17	47.1%	30年度	23	16	49.4%	元年度	26	20	52.0%	2年度	30	16	59.3%	<p>平成23年度以前に委託していたサービスの回収率が20.4%だったのと比較し、非常に高い回収率を維持している。</p>	<p>・平成24年度に未収金回収業務の委託先を債権回収会社から弁護士法人に改めて以降、高水準での回収率を維持している。 ・未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで、一貫して適切な手順が取れるよう体制が整備されている。</p>																																																																							
年度	委任金額	回収額	累計回収率																																																																																																											
24~26年度	139	60	43.4%																																																																																																											
27年度	23	13	45.2%																																																																																																											
28年度	24	15	47.5%																																																																																																											
29年度	38	17	47.1%																																																																																																											
30年度	23	16	49.4%																																																																																																											
元年度	26	20	52.0%																																																																																																											
2年度	30	16	59.3%																																																																																																											
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																				
<p>業務運営の改善及び効率化を進めるなどとして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。</p>	<p>「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどとして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図る。</p>		119	<p>・新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出削減への取組みを効率的に進めることにより、各年度での3病院黒字化を図る。</p>	<p>経常収支の状況 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>102.2</td> <td>100.4</td> <td>100.4</td> <td>100.8</td> <td>100.6</td> <td>100.6</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>110.9</td> <td>114.2</td> <td>113.3</td> <td>112.9</td> <td>103.1</td> <td>108.6</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>102.7</td> <td>105.3</td> <td>103.1</td> <td>103.4</td> <td>101.4</td> <td>102.3</td> </tr> <tr> <td>機構全体</td> <td>102.9</td> <td>102.6</td> <td>101.9</td> <td>102.2</td> <td>100.9</td> <td>101.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	102.2	100.4	100.4	100.8	100.6	100.6	こころ	110.9	114.2	113.3	112.9	103.1	108.6	こども	102.7	105.3	103.1	103.4	101.4	102.3	機構全体	102.9	102.6	101.9	102.2	100.9	101.5	<p>令和2年度は新型コロナウイルスの影響により医業収益が大幅に悪化したものの、空床補償等の各種補助金により適切に補填が行われた結果、経常収支比率100%以上を達成した。</p>	<p>・中期目標においては、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを求めている。 ・令和2年度まで、平成21年度の法人移行後連続で経常収支比率100%以上を継続して達成した。 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による紹介患者数の減少、新型コロナウイルス感染症専用病床の確保等によって、3病院ともに患者数が減少しており、医業収益が大幅に減少したが、新型コロナウイルス感染症関連の補助金の交付により、機構全体としては、経常収支比率101.5%、年間で約7.1億円の経常収支黒字となっている。 ・新型コロナウイルスの影響は今後も続く見込まれるため、引き続き収益確保及び費用の節減、業務運営の改善・効率化を一層進める取組を注視していく。</p>	31		○																																																																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																								
総合	102.2	100.4	100.4	100.8	100.6	100.6																																																																																																								
こころ	110.9	114.2	113.3	112.9	103.1	108.6																																																																																																								
こども	102.7	105.3	103.1	103.4	101.4	102.3																																																																																																								
機構全体	102.9	102.6	101.9	102.2	100.9	101.5																																																																																																								